

方保田東原遺跡11

サンチェリー工業増設工事に伴う発掘調査報告書

山鹿市文化財調査報告書第8集

2009

熊本県山鹿市教育委員会

序 文

山鹿市には数多くの文化財が残されております。私たちはこの文化財を山鹿市の財産として守り、市民一人ひとりが郷土の誇りとして文化財を理解できる人材の育成を行うことも行政の重要な責務であります。

山鹿市の長い歴史の中で、集落としての形態と、今日の生活の基盤を築いたのが弥生時代の稲作文化であります。特に方保田東原遺跡は中九州でも最大級の拠点集落で、邪馬台国と共に栄えた国々の一つであったであろうと考えております。

方保田東原遺跡の調査は、公共事業はもとより、民間開発でも、所有者の皆様のご協力のもと実施してまいりました。

今回の調査は平成2年度に実施したもので、縫製工場増築工事に伴うものであります。調査の結果、弥生時代における人々の暮らしぶりをうかがい知ることが出来る成果が得られ、遺跡の価値を理解する上で貴重な資料となりました。

本報告書を皆様に活用いただきたく願う次第であります。

平成21年2月28日

山鹿市教育長 田中 宏

例 言

- 1 本書は山鹿市教育委員会が、サンチェリー工業増築工事に際し平成2年度に実施した発掘調査報告書である。
- 2 本調査は山鹿市立博物館で実施した。
- 3 整理作業は山鹿市出土文化財管理センターにおいて行った。
- 4 遺物および図面、写真などは全て山鹿市出土文化財管理センターに保管している。
- 5 本書に掲載した写真は全て中村幸史郎が撮影した。なお、遺物写真右下の数字は遺物実測図番号である。
- 6 本書に掲載した遺物実測図は大森よう子、小原朱実、城葉子、野満彩子が作成した。
- 7 本書の執筆および編集は中村が行った。



1 赤色顔料精製用甕 (299) (熊本県指定重要文化財・平成 20 年 6 月 23 日指定)



2 赤色顔料精製用石杵 (48)

本文目次

巻頭図版

I 調査の経過	1
1 調査に至る経過.....	1
2 調査の組織.....	1
3 調査の経過.....	2
II 立地環境	5
III 調査の成果	5
1 調査区の設定.....	5
2 遺構と遺物.....	5
(1) 1号住居跡.....	10
(2) 2号住居跡.....	10
(3) 3号住居跡.....	12
(4) 4号住居跡.....	13
(5) 5号住居跡.....	15
(6) 6号住居跡.....	16
(7) 7号住居跡.....	17
(8) 8号住居跡.....	18
(9) 9号住居跡.....	18
(10) 11号住居跡.....	21
(11) 12号住居跡.....	22
(12) 1号溝.....	22
(13) 2号溝.....	25
(14) 2号溝埋没後土器溜め.....	29
(15) 3号溝.....	31
(16) 4号溝.....	33
(17) 大溝.....	46
(18) 周溝.....	49
(19) 遺構に伴わない遺物.....	58
①E-1区出土遺物.....	58
②W-1区出土遺物.....	58
③E・W-1区出土遺物.....	58
④E-2区出土遺物.....	66
⑤W-2区出土遺物.....	66
⑥北側一括出土遺物.....	66

⑦E・W-2区出土遺物.....	66
⑧E-3区出土遺物.....	66
⑨W-3区出土遺物.....	66
⑩W-4区出土遺物.....	66
⑪W-6・7区出土遺物.....	66
⑫E-7区出土遺物.....	66
⑬W-7区出土遺物.....	66
⑭周溝西側出土遺物.....	68
⑮W-8区出土遺物.....	68
⑯南側一括出土遺物.....	68
⑰南側上層出土遺物.....	68
⑱南側2層出土遺物.....	68
⑲調査区一括出土遺物.....	68

IV まとめ	70
---------------------	----

あとがき	72
-------------------	----

挿図目次

第1図 市内遺跡分布図.....	3
第2図 遺跡地形図.....	4
第3図 調査区位置図.....	6
第4図 遺構配置図.....	7
第5図 1号住居跡実測図.....	8
第6図 1号住居跡出土遺物実測図.....	9
第7図 2号住居跡実測図.....	11
第8図 2号住居跡出土遺物実測図.....	11
第9図 3号住居跡出土遺物実測図.....	12
第10図 4号住居跡実測図.....	13
第11図 4号住居跡出土遺物実測図.....	13
第12図 5号住居跡実測図.....	13
第13図 5号住居跡出土遺物実測図.....	14
第14図 5号住居跡出土遺物実測図.....	15
第15図 6号住居跡実測図.....	16
第16図 6号住居跡出土遺物実測図.....	17
第17図 7号住居跡実測図.....	17
第18図 8号住居跡実測図.....	18
第19図 8号住居跡出土遺物実測図.....	18
第20図 9号住居跡実測図.....	19

第21図	9号住居跡出土遺物実測図	19
第22図	11号住居跡実測図	20
第23図	11号住居跡出土遺物実測図	20
第24図	12号住居跡実測図	21
第25図	12号住居跡出土遺物実測図	22
第26図	1号～4号溝実測図	23～24
第27図	1号溝出土遺物実測図	25
第28図	2号溝出土遺物実測図	26
第29図	2号溝出土遺物実測図	27
第30図	2号溝出土遺物実測図	28
第31図	2号溝出土遺物実測図	29
第32図	2号溝埋没後土器溜め実測図	30
第33図	土器溜め出土遺物実測図	31
第34図	3号溝出土遺物実測図	32
第35図	3号溝出土遺物実測図	33
第36図	4号溝出土遺物実測図①	34
第37図	4号溝出土遺物実測図②	35
第38図	4号溝出土遺物実測図③	36
第39図	4号溝出土遺物実測図④	37
第40図	4号溝出土遺物実測図⑤	38
第41図	4号溝出土遺物実測図⑥	39
第42図	4号溝出土遺物実測図⑦	40
第43図	4号溝出土遺物実測図⑧	41
第44図	4号溝出土遺物実測図⑨	42
第45図	4号溝出土遺物実測図⑩	43
第46図	大溝実測図	44
第47図	大溝出土遺物実測図	45
第48図	大溝出土遺物実測図	46
第49図	周溝実測図	47～48
第50図	周溝出土遺物実測図①	49
第51図	周溝出土遺物実測図②	50
第52図	周溝出土遺物実測図③	51
第53図	周溝出土遺物実測図④	52
第54図	周溝出土遺物実測図⑤	53
第55図	周溝出土遺物実測図⑥	54
第56図	周溝出土遺物実測図⑦	55
第57図	周溝出土遺物実測図⑧	56
第58図	周溝出土遺物実測図⑨	57
第59図	遺構に伴わない遺物実測図①	59
第60図	遺構に伴わない遺物実測図②	60

第61図	遺構に伴わない遺物実測図③	61
第62図	遺構に伴わない遺物実測図④	62
第63図	遺構に伴わない遺物実測図⑤	63
第64図	遺構に伴わない遺物実測図⑥	64
第65図	遺構に伴わない遺物実測図⑦	65
第66図	遺構に伴わない遺物実測図⑧	67
第67図	遺構に伴わない遺物実測図⑨	68
第68図	遺構に伴わない遺物実測図⑩	69
第69図	遺構に伴わない遺物実測図⑪	70
第70図	遺構に伴わない遺物実測図⑫	71

表 目 次

第1表	遺物観察表その1	74
第2表	遺物観察表その2	75
第3表	遺物観察表その3	76
第4表	遺物観察表その4	77
第5表	遺物観察表その5	78
第6表	遺物観察表その6	79
第7表	遺物観察表その7	80
第8表	遺物観察表その8	81
第9表	遺物観察表その9	82
第10表	遺物観察表その10	83
第11表	遺物観察表その11	84
第12表	遺物観察表その12	85
第13表	遺物観察表その13	86
第14表	遺物観察表その14	87
第15表	遺物観察表その15	88
第16表	遺物観察表その16	89
第17表	遺物観察表その17	90
第18表	遺物観察表その18	91
第19表	遺物観察表その19	92
第20表	遺物観察表その20	93

図版目次

巻頭図版

1	赤色顔料精製用壺	
2	赤色顔料精製用石片	
PL 1	調査区全景	97

2	調査風景	5	1号住居跡出土遺物 (11)
PL 2 1	遺構検出作業風景……………98	6	〃 (12)
2	調査区全景	7	〃 (13)
3	1号住居跡 (北側から)	8	〃 (14)
PL 3 1	1号住居跡遺物出土状況……………99	PL15 1	〃 (15) …… 111
2	1号住居跡完掘状況	2	〃 (16)
3	2号住居跡遺物出土状況	3	〃 (17)
PL 4 1	3号住居跡…………… 100	4	〃 (18)
2	2号住居跡と4号住居跡	5	2号住居跡出土遺物 (19)
3	5号住居跡遺物出土状況	6	〃 (24)
PL 5 1	5号住居跡遺物出土状況…………… 101	7	〃 (27)
2	6号住居跡遺物出土状況	8	〃 (27)
3	6号住居跡遺物出土状況	PL16 1	〃 (27) …… 112
PL 6 1	11号住居跡…………… 102	2	〃 (27)
2	11号住居跡遺物出土状況	3	3号住居跡出土遺物 (28)
3	12号住居跡	4	〃 (29)
PL 7 1	12号住居跡 (東側から) …… 103	5	〃 (32)
2	1号溝	6	5号住居跡出土遺物 (36)
PL 8 1	2号溝…………… 104	7	〃 (37)
2	2号溝	8	〃 (39)
3	2号溝	PL17 1	〃 (41) …… 113
PL 9 1	2号溝埋没後土器溜め…………… 105	2	〃 (42)
2	2号溝埋没後土器溜め	3	〃 (45)
3	2号溝埋没後土器溜め	4	〃 (46)
PL10 1	3号溝…………… 106	5	〃 (48)
2	3号溝	6	〃 (48)
3	4号溝	7	〃 (48)
PL11 1	4号溝 (西側から) …… 107	8	〃 (49)
2	4号溝 (東側から)	PL18 1	〃 (50) …… 114
3	4号溝遺物出土状況	2	〃 (51)
PL12 1	大溝全景…………… 108	3	〃 (51)
2	大溝 (西側部分)	4	〃 (52)
3	大溝 (東側部分)	5	〃 (53)
PL13 1	大溝底面…………… 109	6	〃 (54)
2	周溝全景	7	〃 (55)
3	周溝調査風景	8	〃 (55)
PL14 1	1号住居跡出土遺物 (1) …… 110	PL19 1	6号住居跡出土遺物 (56) …… 115
2	〃 (4)	2	〃 (57)
3	〃 (6)	3	〃 (62)
4	〃 (8)	4	9号住居跡出土遺物 (68)

	5	9号住居跡出土遺物 (69)		5	3号溝出土遺物 (155)
	6	〃 (70)		6	〃 (160)
	7	〃 (71)		7	〃 (161)
	8	11号住居跡出土遺物 (73)		8	〃 (162)
PL20	1	〃 (76) 116	PL25	1	〃 (164) 121
	2	〃 (77)		2	〃 (165)
	3	〃 (78)		3	〃 (166)
	4	〃 (78)		4	4号溝出土遺物 (167)
	5	11号住居跡出土遺物 (79)		5	〃 (168)
	6	12号住居跡出土遺物 (84)		6	〃 (169)
	7	〃 (84)		7	〃 (170)
	8	〃 (88)		8	〃 (171)
PL21	1	1号溝出土遺物 (89) 117	PL26	1	〃 (172) 122
	2	〃 (90)		2	〃 (177)
	3	〃 (92)		3	〃 (179)
	4	2号溝出土遺物 (93)		4	〃 (181)
	5	〃 (96)		5	〃 (182)
	6	〃 (100)		6	〃 (183)
	7	〃 (101)		7	〃 (187)
	8	〃 (106)		8	〃 (195)
PL22	1	〃 (107) 118	PL27	1	〃 (198) 123
	2	〃 (108)		2	〃 (199)
	3	〃 (110)		3	〃 (200)
	4	〃 (111)		4	〃 (201)
	5	〃 (112)		5	〃 (202)
	6	〃 (115)		6	〃 (203)
	7	〃 (118)		7	〃 (204)
	8	〃 (122)		8	〃 (206)
PL23	1	〃 (123) 119	PL28	1	〃 (207) 124
	2	〃 (124)		2	〃 (208)
	3	〃 (125)		3	〃 (210)
	4	〃 (127)		4	〃 (212)
	5	2号溝埋没後遺物 (134)		5	〃 (213)
	6	〃 (137)		6	〃 (217)
	7	〃 (139)		7	〃 (218)
	8	〃 (140)		8	〃 (219)
PL24	1	3号溝出土遺物 (146) 120	PL29	1	〃 (220) 125
	2	〃 (147)		2	〃 (221)
	3	〃 (149)		3	〃 (224)
	4	〃 (153)		4	〃 (225)

	5	4号溝出土遺物 (226)	
	6	◇ (230)	
	7	◇ (231)	
	8	◇ (232)	
PL30	1	◇ (237)..... 126	
	2	◇ (239)	
	3	◇ (240)	
	4	◇ (241)	
	5	◇ (245)	
	6	◇ (246)	
	7	◇ (248)	
	8	◇ (249)	
PL31	1	◇ (252・253) 127	
	2	◇ (259)	
	3	◇ (266)	
	4	◇ (267)	
	5	◇ (268)	
	6	◇ (269)	
	7	◇ (270)	
	8	◇ (270)	
PL32	1	大溝出土遺物 (272)..... 128	
	2	◇ (273)	
	3	◇ (274)	
	4	◇ (275)	
	5	◇ (283)	
	6	◇ (283)	
	7	◇ (277)	
	8	◇ (285)	
PL33	1	◇ (286)..... 129	
	2	◇ (287)	
	3	◇ (289)	
	4	◇ (290)	
	5	◇ (291)	
	6	◇ (292)	
	7	◇ (293)	
	8	◇ (294)	
PL34	1	周溝出土遺物 (299)..... 130	
	2	◇ (299)	
	3	◇ (300)	
	4	◇ (301)	

	5	周溝出土遺物 (309)	
	6	◇ (309)	
	7	◇ (309)	
	8	◇ (309)	
PL35	1	◇ (305)..... 131	
	2	◇ (315)	
	3	◇ (320)	
	4	◇ (326)	
	5	◇ (329)	
	6	◇ (331)	
	7	◇ (333)	
	8	◇ (336)	
PL36	1	◇ (341)..... 132	
	2	◇ (352)	
	3	◇ (354)	
	4	◇ (360)	
	5	◇ (366)	
	6	◇ (382ほか)	
	7	◇ (420)	
	8	◇ (421)	
PL37	1	◇ (426)..... 133	
	2	◇ (430)	
	3	◇ (438)	
	4	◇ (441)	
	5	◇ (443)	
	6	◇ (445)	
	7	◇ (446~448)	
	8	◇ (454)	
PL38	1	遺構に伴わない遺物 (457)..... 134	
	2	◇ (463)	
	3	◇ (487)	
	4	◇ (496)	
	5	◇ (519)	
	6	◇ (526)	
	7	◇ (527)	
	8	◇ (535)	
PL39	1	◇ (540)..... 135	
	2	◇ (543)	
	3	◇ (564)	
	4	◇ (565)	

	5	遺構に伴わない遺物 (566)	
	6	◇ (568)	
	7	◇ (569)	
	8	◇ (578)	
PL40	1	◇ (593) … 136	
	2	◇ (606)	
	3	◇ (607)	
	4	◇ (608)	
	5	◇ (図なし)	
	6	◇ (図なし)	
	7	◇ (図なし)	
	8	◇ (図なし)	

I 調査の経過

1 調査に至る経過

平成2年(1990)10月中旬、国庫補助を得て方保田東原遺跡周辺の水田調査を行っていたところ、サンチェリー工業の増築工事の話が飛び込んできた。このため、サンチェリー工業に対し10月12日文書で埋蔵文化財調査の必要性について協力要請を行った。

山鹿市としては博物館で文化財を行っており、現状では調査体制も整っておらず、国庫補助の調査も行っているため、会社側には工事の延期をお願いした。しかしながら、会社側は年度末には操業開始を目指しており、会社の経営に影響を与えかねないので、早急の調査実施を求められた。このため10月30日には発掘調査を回避する方法として、地下の遺構に影響のない工法が取れないかを設計担当の本山建設の黒田氏と協議した。

翌日の31日県文化課に出向いて、地下の遺構に影響のない方法で基礎工事を行うことが可能であると、設計担当の確認が取れたので、発掘調査が回避出来ないかを相談した。

県文化課からは、遺構に影響が無くとも永久構造物を建設するからには発掘調査を行うべきであるとの指導があり、発掘調査をしなければならなくなった。

このため調査員1名では対応できなくなり、博物館職員5名のうち2名の事務職員を急遽動員して、国庫補助で行っている水田調査と平行してサンチェリー工業の調査を行うこととした。

11月2日発掘調査に関して、サンチェリー工業および親会社の大阪西川と協議し、調査経費については理解を示され、原因者負担で行うこととなった。

11月21日文化財保護法第57条の2に基づく発掘届けが提出され、県文化課へ送る。

12月5日(水)文化財保護法第98条の2第1項

に基づく発掘届けを作成し県に提出した。

12月7日(金)調査開始時期について話し合い、2月には工事着手をしたいので、1月末までには調査終了を希望された。

12月8日(土)工事施工会社の担当と共に調査範囲に杭打ちを行う。

2 調査の組織

調査主体 山鹿市教育委員会
山鹿市立博物館

総 括 北井澄生(山鹿市教育長)

調査団長 藤木正斗(山鹿市立博物館長)

調査事務 次木万里子(主任主事)

調査担当 中村幸史郎(博物館副館長)

大森 勲(主事)

山下 透(技師補)

発掘作業 飯田民子、飯田ツヤ子、飯田ミツ子、
池田一子、石橋アサ子、井上秀実、奥
村千鶴子、鹿子木アヤオ、鹿子木勇、
鹿子木ナオコ、亀井十三男、北原美和
子、木下武彦、木庭エツコ、木庭常人、
木庭ユキノ、坂本安子、高橋信子、高
橋道昭、高森ミサヲ、竹下泰行、竹下
ユリ子、立山翠子、中井亀一、中川忠
助、中村キヨコ、永本京子、野田辰起、
福山須美子、福山千代美、福山陽子、
前川コユキ、前川キミエ、前川誠一、
松野千尋、松本定、松永ミハル、松永
サエ、森田ヒロ子、吉井新助、吉川陽
子、吉田利春、若杉美也子、若杉桂子、
若杉敬子

整理作業 生島統夫、石橋洋子、大森よう子、小
原朱実、城葉子、野満彩子、淵上厚子、
森みつよ、山口美智子、渡辺晃

調査協力 株式会社大坂西川・見谷耕作、サン
チェリー工業・前川政治、本山建設・
黒田明、

3 調査の経過

平成2年(1990)

12月10日(月)

表土剥ぎ作業開始。ユンボとダンプ2台をフル稼働で行う。

12月15日(土)

何とか表土剥ぎ終了。遺構が見えている。

12月17日(月)

昭和57年に範囲確認調査を行った際の、近江工業内第5トレンチの痕跡が検出されている。調査区の中央に溝が見えている。

12月19日(水)

写真撮影のため調査区南端にローリングタワーを2列で4段に組み立てる。工場東側のカイツカイブキ8本を切り倒す。

12月28日(金)

年内の作業は本日までとする。

平成3年(1991)

1月8日(火)

本日よりサンチェリーの調査を一時離れて国庫補助の水田調査に専念する。

1月12日(土)

南端部と中央部の溝を掘り下げる。

1月16日(水)

中央部の溝を掘り下げる。

1月19日(土)

休日返上で2カ所の調査を進める。中央部の溝の検出に全力を傾ける。

1月26日(土)

調査区北側の溝の検出と実測を行う。中央の溝の底検出。南端の遺物取り上げ作業実施。中央の溝は幅7m、深さ2.6mの規模で、白磁片が出土しており中世の溝の可能性が高い。

2月8日(金)

北端部溝内より炭化粃がまとまって出土した。この溝ではかつての調査でも出土しており、その時の炭化米と同じであろう。

2月12日(火)

南端部の床面がようやく始めており、平坦になっている。弥生終末の土器と共に、古式土師器が出土している。

2月13日(水)

南側の住居内より銅鉄1点が出土した。状態が悪く原形を保っていない。

2月18日(月)

遺構の全容が明らかになってきたが、朝から霜柱の除去に手を取られ、状態も悪い。この日以降水田調査を行いつつ実測に専念する。

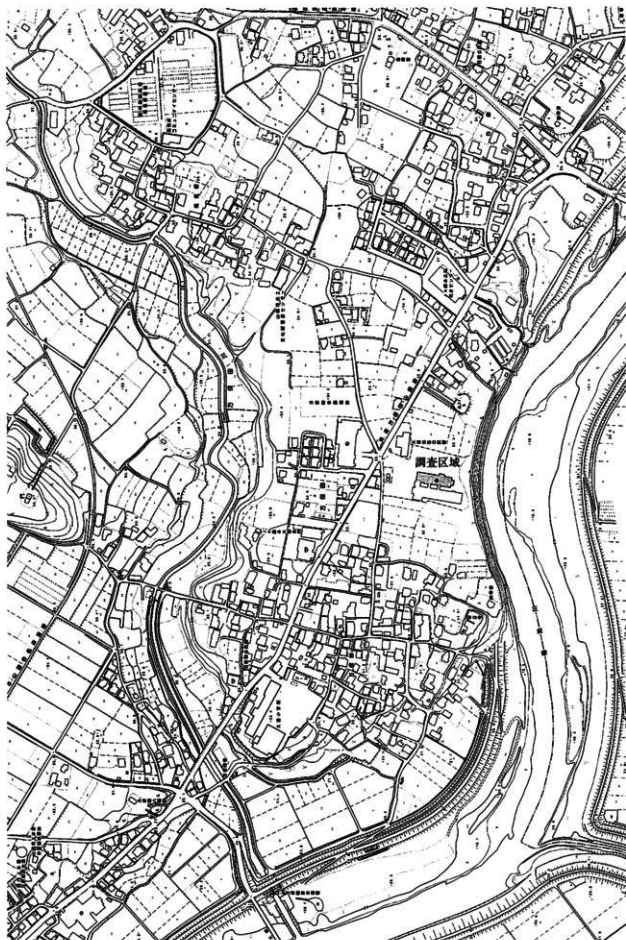
4月4日(木)

調査完了。

ひとえに3現場を掛け持ちで調査進行せざるを得なかった事情と、調査に応援してくれた大森、山下の両氏には事務担当にもかかわらず現場作業等多大な負担を強いる結果となった。専門調査員の少ない脆弱な調査体制で、迫りくる時間との戦いの中での調査であった事で、遺跡内から十分な情報を得られたのかと自問自答するような次第で調査員としての責務が果たせたか、はなはだ疑問である。



第1圖 市内遺跡分布圖



第2図 遺跡地形図（平成13年段階）

II 立地環境

熊本県北部を流れる菊池川は、阿蘇外輪山北側の菊池溪谷に源を発し、周辺の大小75の流れを集めて有明海へと注いでいる。

また、阿蘇の噴火活動によって形成された火砕流による台地が形成され、川の流れと密接に関係し、氾濫原の形成に深く関わっている。

このため、菊池市から山鹿市にかけてと、玉名市では広大な氾濫原を形成し、肥沃な穀倉地帯となっている。

このほかにも河岸段丘なども見られ、古くから人々の生活の基盤となっている。

方保田東原遺跡は菊池川中流域の河岸段丘上に営まれた遺跡である。この段丘の近くでは合志川、千田川、方保田川が合流しているため、本流である菊池川は蛇行しつつ流れている。そのため方保田の台地を浸食し続けている。また、地形的には東から西に向かって延びる舌状を形成しており、南には菊池川、北から西には方保田川が回り込んで合流している。

今回調査を行った部分は菊池川を南に見下ろす様な場所で、遺跡の南側を著しく浸食されている場所である。このため、台地の縁に築造されている端山塚古墳（山鹿市指定文化財）は南側半分を削り取られ、墳頂部から川へと一直線に崖面を形成している。かつては古墳の南側に畑が存在していたが、今では姿形も見られない。

この部分には現在確認されているだけでも、東から清水山古墳、亀塚古墳、端山塚古墳、京塚古墳へと続いている。古墳そのものは石棺系の埋葬主体であろう。

弥生時代後期から古墳時代前期にかけては集落遺跡で、古墳時代中期には墓域としての機能性を有している。

III 調査の成果

1 調査区の設定（第3図）

今回の発掘調査は、サンチェリー工業の増築工事に伴って行うものであり、既存の工場に平行するように建設が計画されていた。

このため増築部分のみを調査対象として、既存工場の東側7mの位置に南北59m、東西18mの範囲とした。

調査区は主軸をN17°Eに向けており、長軸中心線で杭を打ち東西地区に分けたが、設定がずれたためE区8m、W区9mの幅で杭を打つ結果となった。さらに、南北には10m間隔で杭打ちしたが、実測に際し方眼紙の広さで1～9区に分けたため、多少煩雑な区分けになってしまった。

調査区北端部では、昭和56年度に実施した範囲確認調査時の近江工業内第5トレンチとしていた一部が検出された。このときの溝の番号を踏襲し、1号溝、2号溝とした。

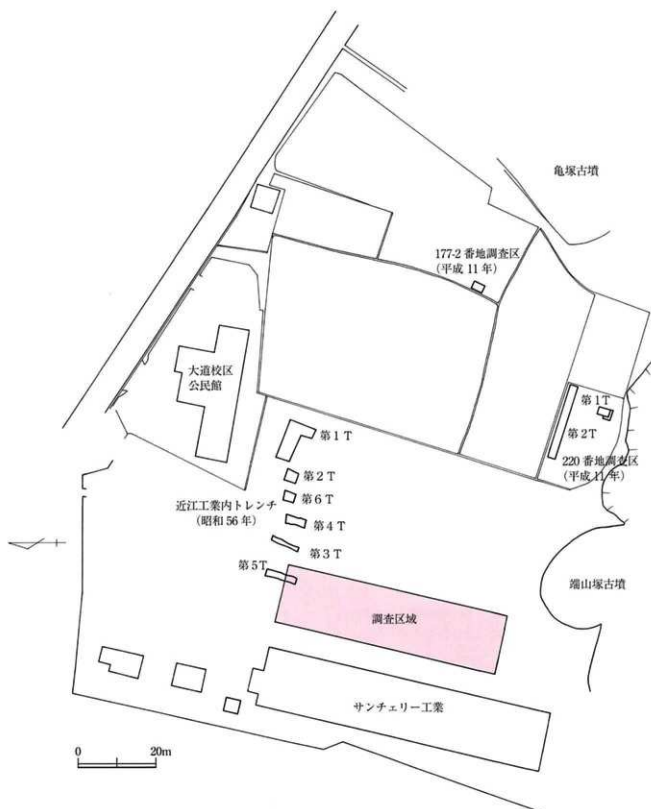
なおサンチェリー工業の名称は、以前近江工業と称していたもので、同一の会社である。

2 遺構と遺物（第4図）

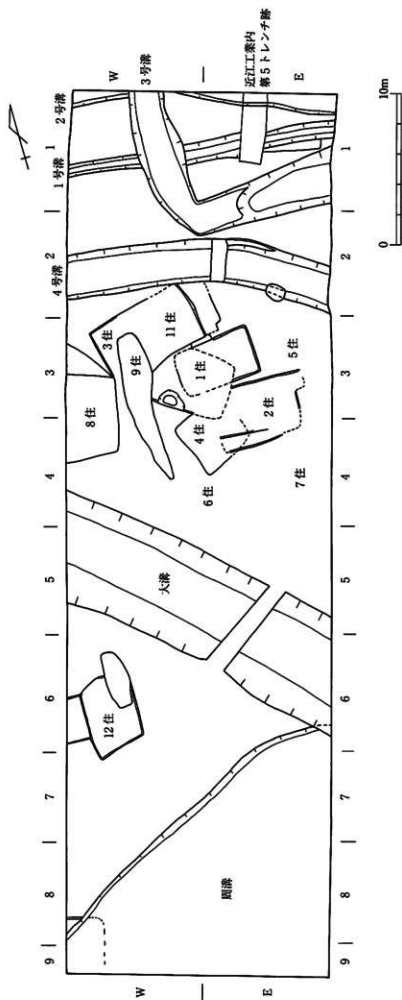
今回の調査で検出された遺構としては、堅穴住居と溝状遺構が主な遺構である。

調査区北側には弥生時代の溝が4本検出され、1、2、4号溝は東西方向に走り、3号溝はL字状に折れて検出された。

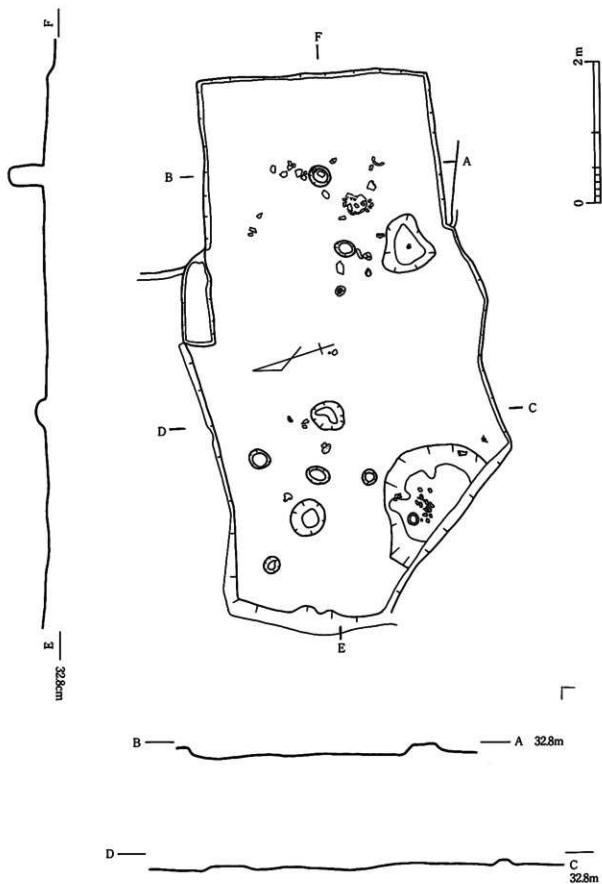
中央部には、中世の大溝が調査区を斜めに走っていた。南端部では溝といえるか微妙なところで、端山塚古墳を中心に円を描きながら平坦面が形成されている。古墳の周濠であれば深く掘り下げるところであり、調査時には古墳築造に際し平坦面を構築したものと推察した。しかし、平坦面であり周濠としての形状ではなかった。さらに整理作業を進めていく中で遺物の時間的位置づけが古墳



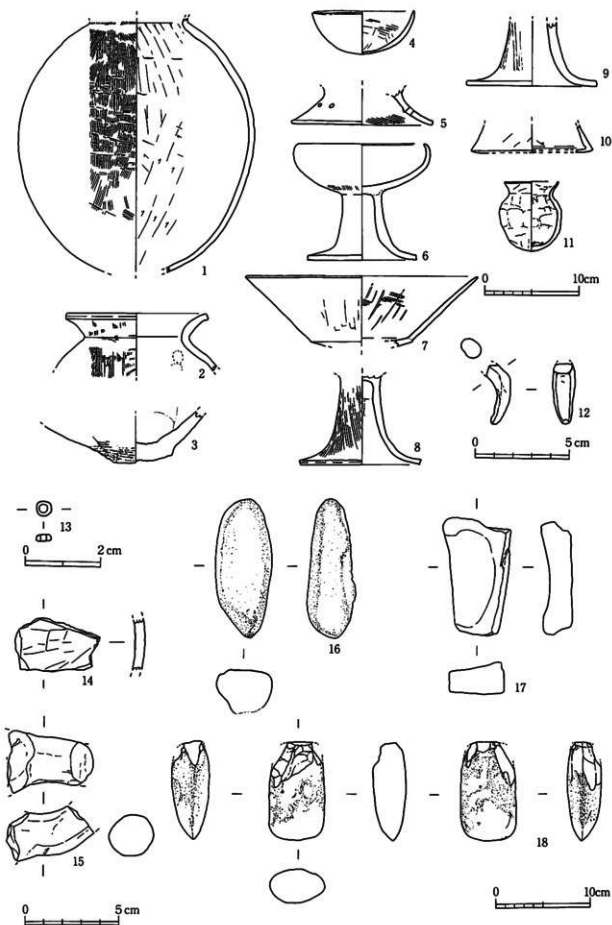
第 3 図 調査区位置図



第4図 遺構配置図



第5图 1号住居跡実測図



第6图 1号住居跡出土遺物実測図

時代とは異なり、中世以降の産物であると考えざるを得ない結果となってきた。調査段階の名称で整理を行ったことから便宜上この名称をつかうものである。

住居跡は、4号溝と大溝の間に切り合いながら、まとまって検出されたが、壁の確認が出来ずに床面のみで確認できたものもある。

遺構の番号については発掘した順番になっており、切り合い関係や地区別に分けたものではない。

(1) 1号住居跡(第5図)

E-3区とW-3区にまたがり4号溝南側に位置し、2号住居跡と11号住居跡に挟まれる形で検出した。2号住居跡とは壁の向きが同じである。同時期に存在していた可能性もある。東壁は確認できたが、西側および南北の壁の一部は確認できなかった。特に東西に長い形状なので西側に別の住居跡が重なっているようであったが、切り合いなど明確にできなかった。東壁面は長さ3.2mを測る。床面は硬く締まっており硬化面が広がっていた。遺物は床面近くでまとまっているが、数は少ない。西側には貯蔵穴を配しているが壁の方向に違いが見られ別の住居の可能性が高い。

遺物(第6図)

1は口縁部を欠損した甕である。球形をした胴部には粗い叩き目を施した後2種類のハケ目調整を行っている。内面は下部では掻き上げる様なヘラ削りを行い、上部では指圧痕による調整を行っている。2も甕である。口縁部から頸部片である。3も甕である。底部片であるが、作りが雑で変形したうえに植物繊維の圧痕が多く見られる。

4は鉢である。口縁部の一部を欠損しているが、ほぼ完全な姿を留めている。5は脚付き鉢の脚部である。2個の穿孔を3カ所に配している。6も脚付き鉢である。上部は鉢であるところから高杯とはしなかった。

7から9は高杯である。7は杯部片で内面に細い暗文が見られる。8と9は脚部である。10はジョッキ形土器の破片である。11は手捏の甕であ

る。完全な姿を残している。12は土製勾玉である。頭部を欠損している。13はコバルトブルー色をしたガラス小玉である。孔が大きく、全体に細い感じのするガラス小玉である。

14は内面に赤色顔料が付着した土器片である。くすんだ色からベンガラであろう。15は把手である。スプーンの柄とも考えられたが湾曲が強いので把手と判断した。16は赤色顔料が付着した碟である。17は砥石である。一面を使用しており、中央部がくぼんでいる。18は石斧である。刃部は研磨しているが、本体は敲打痕を残している。基部は欠損している。

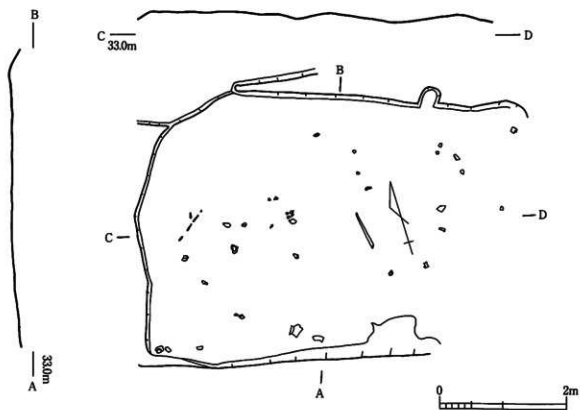
(2) 2号住居跡(第7図)

E-3区と4区にまたがり1号住居の南側に位置し、西側壁で4号住居を切っていた。遺物は少なく散在する形で出土している。床面は堅く締まっている。中央部には炭化材が検出された。

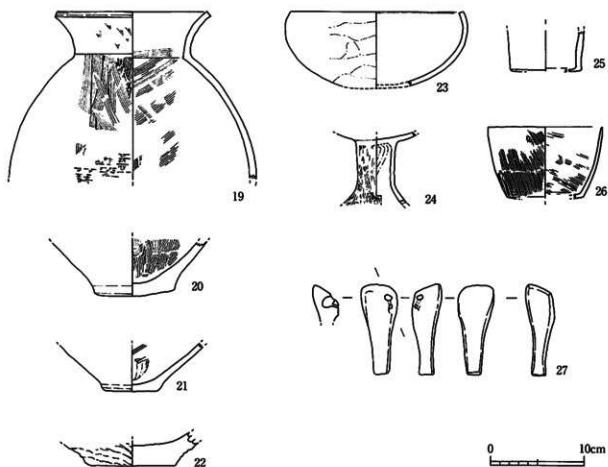
遺物(第8図)

19は口縁部から胴部中位までの甕の破片である。焼成は良く堅く締まっている。20も甕で底部のみである。21と22も甕の底部である。22は粗い叩き目が施されている。

23は鉢の破片である。24は高杯の脚部である。裾部を欠損している。25と26はジョッキ形土器片である。27は携帯用砥石である。かなり使い込まれた砥石で、基部に2個の穴が穿たれ、内部でつながり紐を通せるように加工していた。使用した人の知恵と工夫の跡を確認できる極めて珍しい砥石である。



第7图 2号住居跡実測图



第8图 2号住居跡出土遺物実測图

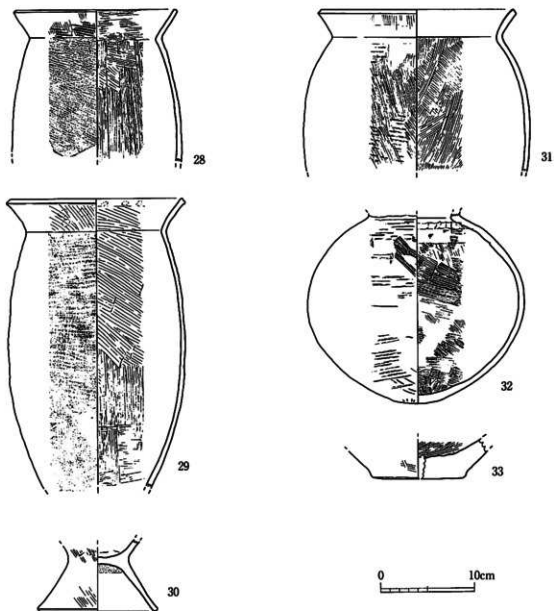
(3) 3号住居跡

W-3区で11号住居の西側に位置するが、明確な輪郭をつかむことが出来なかった。遺物の出土と硬化した床面の状態から住居跡とした。

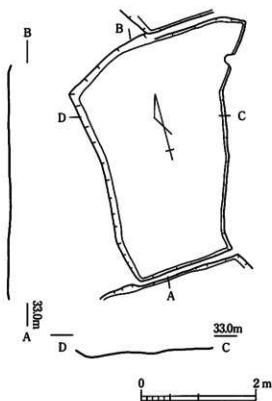
を欠いている。器面は細かなヘラ研磨を施し、内面には細かな刷毛目で調整を行っている。33は蓋の底部片である。大型の甕になりそうである。

遺物 (第9図)

28から31は在地系の甕である。28は表面にきめ細かい叩き目を施している。29は長胴で脚が着きそうである。表面の叩き目は粗い。30は脚台である。31も粗い叩き目とハケ目を施している。32は精製された粘土を使用した土師器の甕で、口縁部



第9図 3号住居跡出土遺物実測図



第10図 4号住居跡実測図



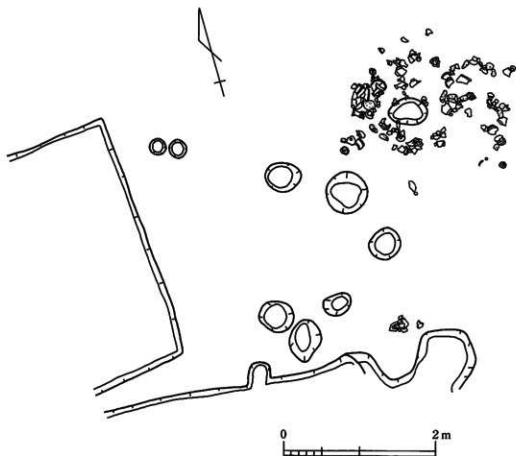
第11図 4号住居跡出土遺物実測図

(4) 4号住居跡 (第10図)

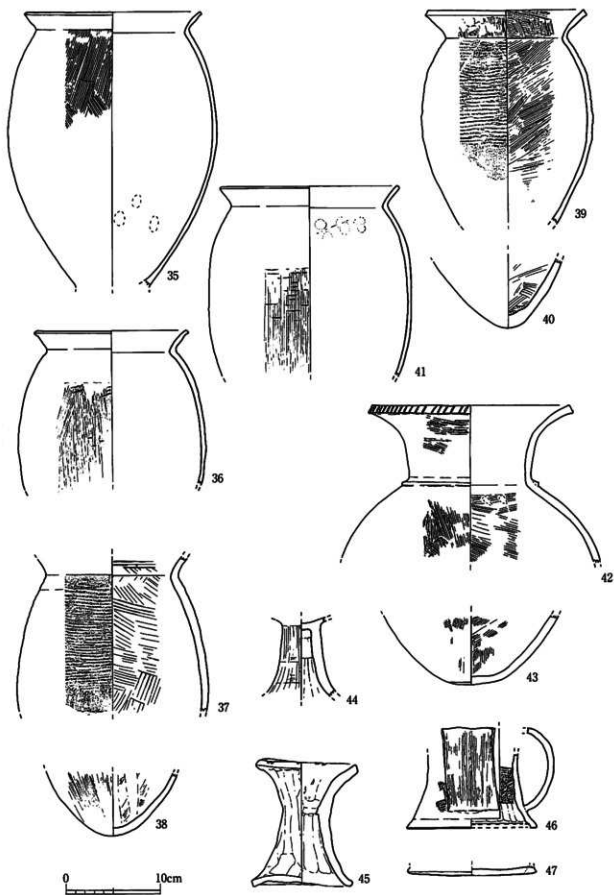
E-4区とW-4区にまたがり2号住居の西側に位置し、東側の大半を2号住居から切られている。そのため西側の壁のみが残り、南北の壁は途中までである。遺物は殆ど見られず、実測できたのは1点であった。

遺物 (第11図)

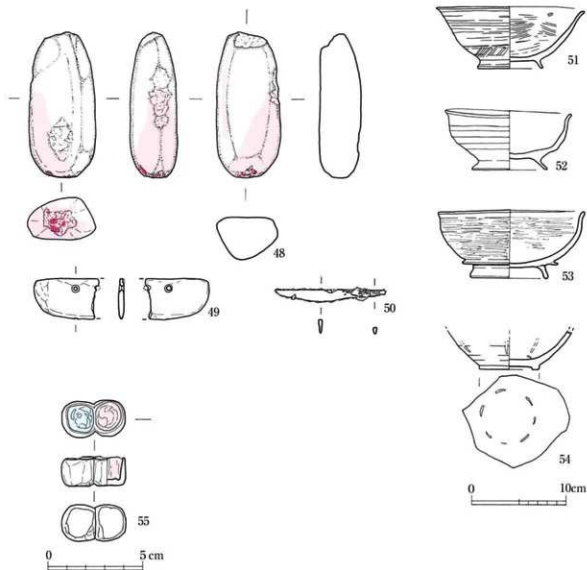
34はジョッキ形土器の破片で、器壁は薄い。



第12図 5号住居跡実測図



第13图 5号住居跡出土遺物実測図



第14図 5号住居跡出土遺物実測図

(5) 5号住居跡 (第12図)

E-3区で4号溝の南側に位置し、2号住居と11号住居に挟まれた区域である。明確な壁は確認できなかったが、遺物の出土と床面としての硬化面が広がっていたところから住居跡とした。規模は不明である。遺物の時期に開きがあり、中世の攪乱も考えられる。

遺物 (第13・14図)

35から41までは在地系の甕である。35はハケ目調整の甕で底部は脚台になる。器高に比べ口縁部は短い。表面は煮沸により煤の付着が著しい。36も口縁部が短く、煤の付着が著しい。37は口縁部先端を意図的に打ち欠いている。胴部中位以下を

欠損している。水平方向の叩き目が鮮やかである。38は長胴甕の底部である。煤の付着が見られる。39と40は同一個体と思われるが接点を確認できない。41はハケ目と僅かに叩き目を残している。35と同様に口縁部が短い。

42は壺である。口縁部から胴部上位までの破片である。口縁部は大きく開き、口唇部には刻み目を配している。頸部には凸帯を巡らしている。43も壺で底部のみである。44は高杯の脚部である。裾部を欠いているため穿孔は確認できない。45は完形の器台である。指の痕が残し、作りとしては粗い。内部は一旦下側から穴を広げ、その後上から押し広げているので、粘土がめくれたようになっている。46と47はジョッキ形土器である。46

は口縁部と底部を欠いている。47は底部のみである。

48は赤色顔料を加工した石杵である。自然礫を利用したもので、端部は敲打痕を残し赤色顔料が付着している。くすんだ色からベンガラであろうと判断した。この杵では叩き潰すような作業を行っており、磨り潰す動作は確認できない。49は石包丁の破片である。変成岩製である。50は刀子である。かなり研ぎ減りしている。51と52は土師器の碗である。51は全面を研磨しており光沢を有している。高台を有し大きく口を開いている。51も高台を有している。53は黒色土師の托付碗である。全面黒く光沢を保っている。高台の直上には茶托を表現し、碗へと続いている。54は青磁の碗である。口縁部を欠いているが花卉状の切り込みが確認できる。見込みには重ね焼きの痕跡を確認できた。色彩はくすんでおり、青色が薄く越州窯系青磁器である。55は滑石製の連杯である。出土例が少ないが熊本県内では荒尾市の前田遺跡から出土している¹。小さな容器として利用されていたのであろうが、用途は不明である。

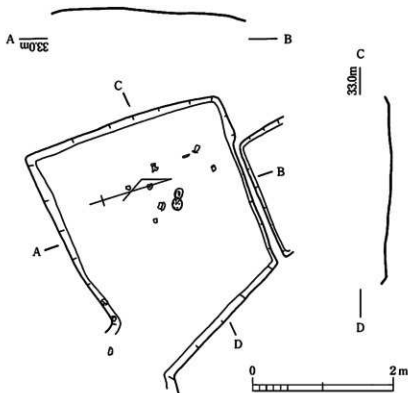
(6) 6号住居跡(第15図)

E-4区で2号住居跡と4号住居跡の南側に位置している。西側の壁を残し、北側と東側の壁は直角にならず、南東壁は7号住居に切られている。炉跡は確認できなかったが遺物の出土と床面の硬化状況から住居とした。

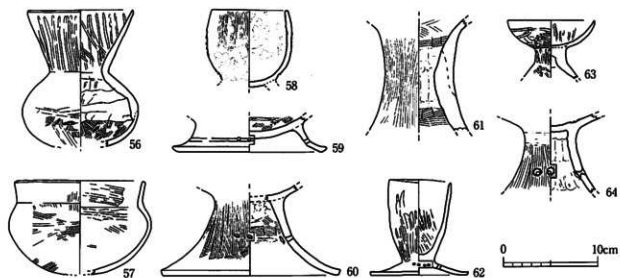
遺物(第16図)

56は土師器の壺である。口縁部は直線的に広がり、両面にヘラによる暗文が施され、胴部には輪積みの痕跡を明瞭に残している。

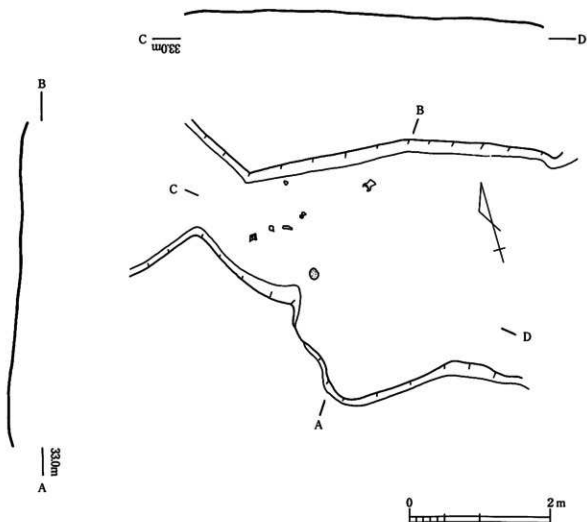
57は半欠状態の鉢である。58も鉢であるが、コップ状の本体に脚を有している。使用によるものか器面の剥離が著しい。59も鉢で脚部のみである。2個の穿孔がある。60も鉢の脚部で2個の穿孔を有している。61は器台である。62は脚を有する鉢である。ジョッキ型土器と異なり把手は見られない。脚には3個と4個の穿孔が見られる。63は土師器の脚付き鉢である。表面と脚内面には赤色顔料の塗布が見られる。64は高杯の脚部である。脚には2個の穿孔が4カ所に配置されている。



第15図 6号住居跡実測図



第16図 6号住居跡出土遺物実測図

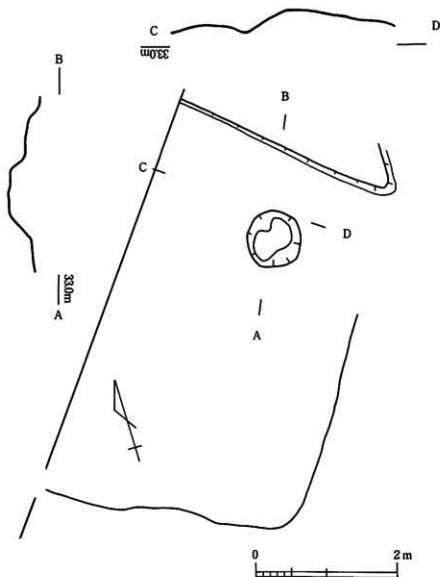


第17図 7号住居跡実測図

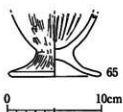
(7) 7号住居跡 (第17図)

E-4区で2号住居の南側に位置し、6号住居と西側壁が切り合っている。壁のラインは確認で

きたが、住居と言えるか疑問も残る。遺物の出土は破片のみで実測に耐えうる資料は見られなかった。



第18図 8号住居跡実測図



第19図 8号住居跡出土遺物実測図

(8) 8号住居跡 (第18図)

W-3区と4区にまたがり、住居の半分は調査区の西側に延びていた。南側の壁は3.6m、東側の壁は3.1mまで確認できた。

遺物 (第19図)

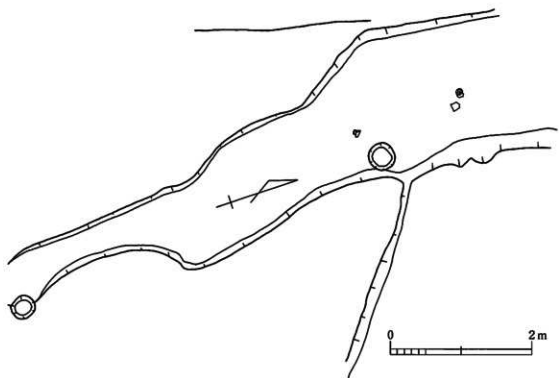
65は脚付き鉢である。器面には縦方向のヘラによる研磨が見られる。

(9) 9号住居跡 (第20図)

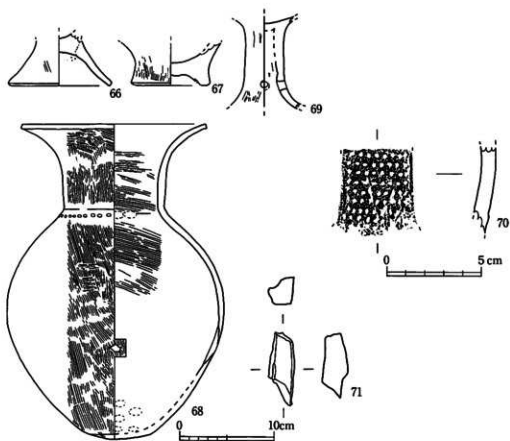
W-3区と4区にまたがり11号住居を切っている。しかし、住居跡としているが形状は不明瞭で、床面の検出と遺物の出土から住居跡とした。

遺物 (第21図)

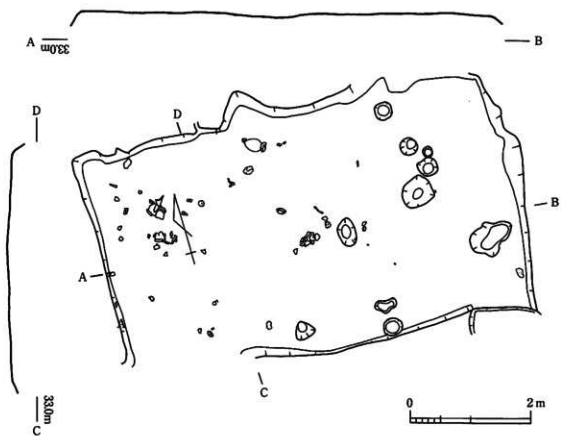
66と67は甕の脚台である。68は壺で口縁部を一部欠損しているが、ほぼ完全な姿を留めている。口縁部は大きく開き、頸部には34個の竹管文を配している。胴部には対角線上に2個の穿孔が二次的に施されている。69は高杯の脚部である。4個の穿孔が見られる。70はジョッキ形土器の把手である。幅広の把手で外側には刺突文を横一列に、全面施している。71は砥石の破片である。僅かに一面に研磨面を残している。剥離面においても使用のための手ずれが見られる。



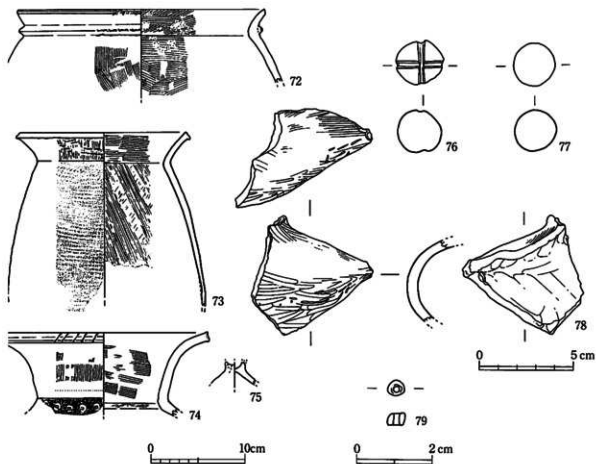
第20图 9号住居跡実測図



第21图 9号住居跡出土遺物実測図



第22图 11号住居跡実測図



第23图 11号住居跡出土遺物実測図

(10) 11号住居 (第22図)

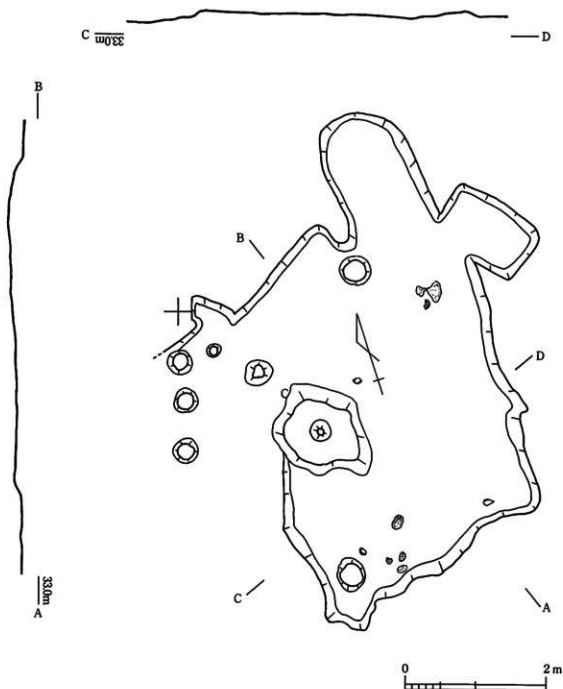
W-2区と3区にまたがり、3号住居と連続するように検出されている。間を9号住居で切られており、明確には輪郭を捉えることが出来なかった。

遺物 (第23図)

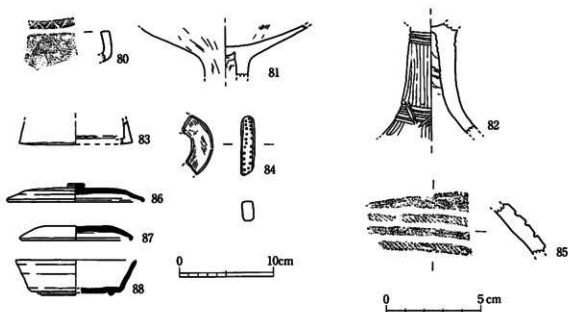
72と73は甕である。72は口径が大きく、鉢にもなりそうな物である。頸部に凸帯を巡らし、口縁

部と共に刻目文を施している。73は在地系甕で底部を欠損しているため、脚台になるのか、丸底になるか判断できない。74は甕の口縁部片である。頸部に竹管文を施している。75はミニチュア土器である。76と77は土製の玉で76には十文字に刻みが施され土鍾としての機能性も考えられる。78は特殊土器でかつてオカリナ形土器と称した物である。ⁱ

79はガラス小玉で深い紺色を呈している。



第24図 12号住居跡実測図



第25図 12号住居跡出土遺物実測図

(11) 12号住居跡 (第24図)

W - 6区で大溝の南側に位置している。形状はやや不整形であるが、床面は硬化している。

遺物 (第25図)

80は壺の口縁部片である。二重口縁で口唇部と外面には三角形に刻目を施している。81は高杯の杯部である。口縁部と脚部を欠損している。口縁部の一部は意識的に打ち欠いているようである。82も高杯で、小型品である。脚部で、裾部を欠損している。杯部との接合点には2条の沈線を巡らしている。83と84はジョッキ形土器である。83は底部片で、84は把手である。70と同様に外面に刺突文を施している。

85は縄文土器片である。沈線と磨り消し縄文を施し、西平式土器である。86から88は須恵器である。86と87は杯蓋でつまみを有する物と有しない物が見られる。88は高台を有する杯である。85から88は混入した物である。

(12) 1号溝 (第26図)

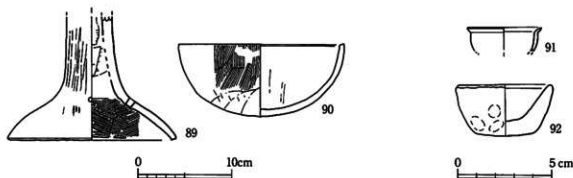
昭和56年(1981)に実施した第3次調査の際、近江工業(当時)内で5本のトレンチを入れて調査した。このとき全てのトレンチを貫くように東西方向に細い1本の溝が検出され、これを1号溝と称した。今回の調査では、この溝が西側に延びてきたものであることから、当時の名称を踏襲した。3号溝によって一部切られているが、ほぼ一直線に東西方向に伸びていることが確認できた。当時の調査結果と今回の結果から、この溝は54m以上の長さまでは確認できたことになる。上部幅は1.7m~0.9m、下部幅0.8m~0.3m、深さ0.3mで東側が広く、西側に向かって細くなっている。

遺物 (第27図)

89は高杯の脚部で、裾部を半分欠損している。90は鉢で僅かに口縁部の一部を欠損している。91と92はミニチュアの鉢である。



第26図 1号～4号溝実測図



第27図 1号溝出土遺物実測図

(13) 2号溝 (第26図)

この溝も昭和56年の第3次調査の際に検出されたもので、調査区の北端部に沿って僅かに湾曲しており、あたかも4号溝と平行に走るようにも見える。今回の調査区内では溝の幅は確認できなかったが、第3次調査の際の第5トレンチが重なっていたことで上部幅2.2m、下部幅1.7mを確認できた。

長さも当時の3トレンチと4トレンチまで伸びており、27mの長さまでは確認できたことになる。

なお、調査区の南東方向に平成11年度調査した220番地第2トレンチが存在しているが、この中の2号溝もしくは3号溝が、この溝と繋がっている可能性が高い。*

さらに、第3次調査でも炭化米が出土したが、今回も塊の状態で出土した。

遺物 (第28～31図)

93から99は在地系の甕である。93は底部を欠損しているが、脚台になる。表面には煤の付着が見られる。94は口縁部から胴部中位にかけての破片である。表面には叩き目とハケ目を施しており、煤の付着が著しい。95も口縁部から胴部上位にかけての破片である。共に底部は脚台の可能性が高い。96は小型の甕で胴部下位から底部を欠損している。使用段階での被熱による器面剥離が認められる。97は口縁部のくびれが緩やかな甕で、表面に叩き目が施されているが、器面の剥離も見られる。底部は丸底の可能性も残している。98と99は

脚台で、98の内面には鉄分の付着が確認できる。

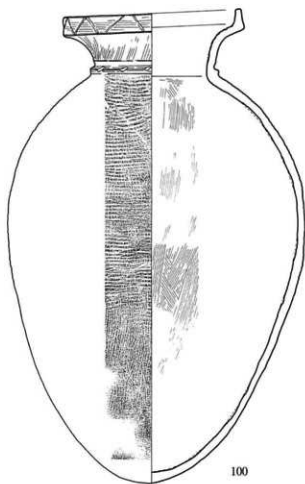
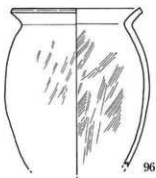
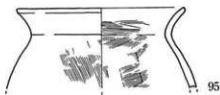
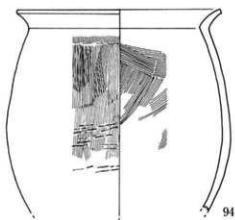
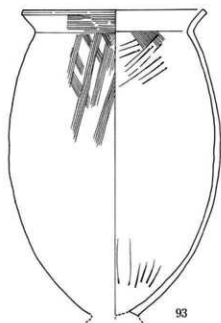
100から110は甕である。100は二重口縁の甕で底部まで残っている。口縁部外側には連続三角形になるよう刻目を施している。内面は使用時の器面剥離が著しい。頸部には1条の凸帯を巡らし、刻目を施している。胴部上位には粗い叩き目、下位はかき消している。

101は口縁部および胴部の一部と底部を欠損している。頸部には刻目を配している。部分的に赤色顔料の付着が認められる。102は口縁部のみである。器面の剥離などは認められない。103は半欠状態の口縁部である。小さく二重口縁を形成し、頸部には刻目を配している。内面は器面の剥離が見られ、黒色に塗られている。漆の可能性が高い。

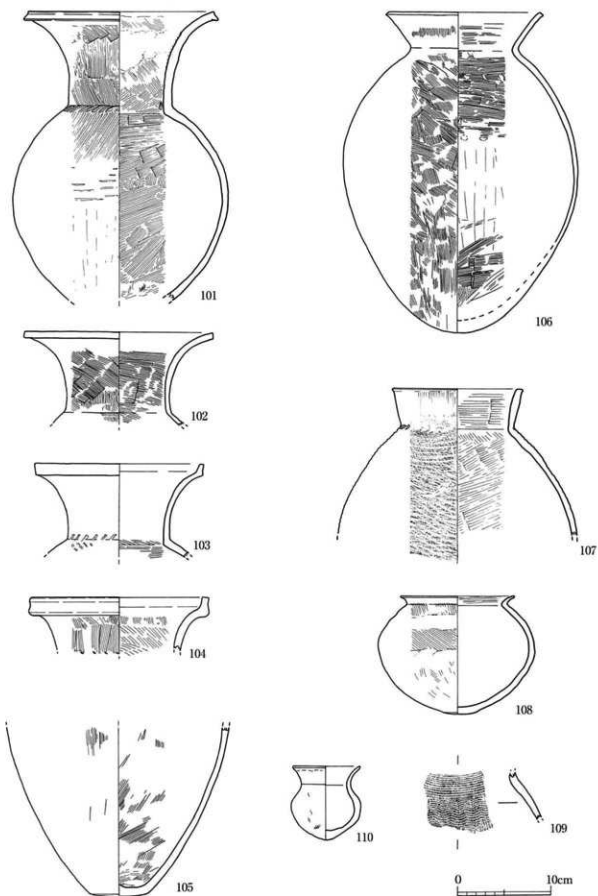
104は103に類似した口縁部である。頸部には刻目を配しているが、短い口縁部である。105は胴部下位から底部を残している。底部は平底である。

106は口縁部から底部まで残す物であるが、口縁部は一部のみである。胴部はきめ細かなハケ目調整である。底部は完全な姿を残している。107は口縁部から胴部上位にかけての破片である。口縁部は短く直線的に立ち上がっている。頸部には刻目を配し、胴部表面には粗い叩き目を施している。108は短頸甕である。口縁部の一部を欠損しているが、ほぼ完全な姿を留めている。109は胴部の破片であるが、全面に描摺文を施している。11本単位の帯で描いている。110はミニチュアの甕で半欠状態である。

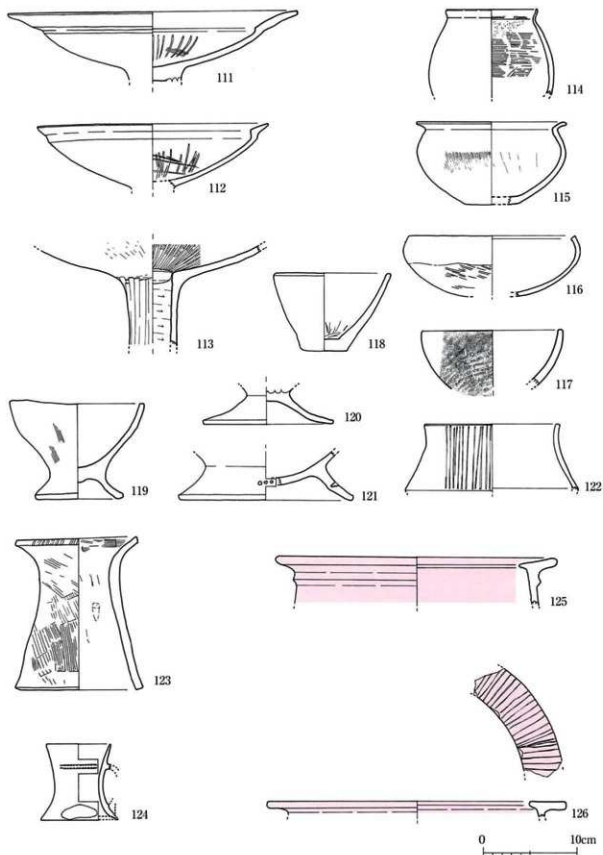
111から113は高杯である。111と112は杯部のみ



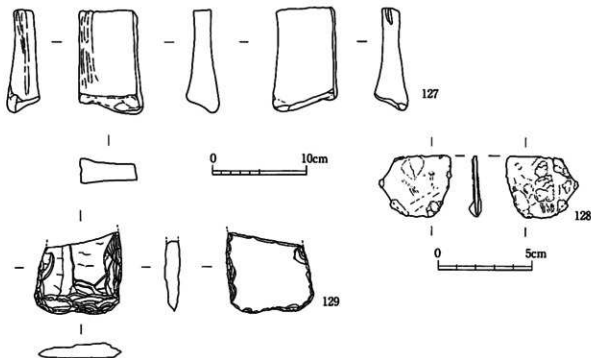
第28图 2号溝出土遺物実測図



第29图 2号溝出土遺物実測図



第30图 2号满出土物实测图



第31図 2号溝出土遺物実測図

で脚部を欠損している。特に112は亀裂すら見られない完全な形を留めている。使い方次第では漏斗としても使えそうである。113は杯部と脚部の接合部である。中空の脚を作り、その後中に詰め物をした後、杯部を接合したものと理解できる。

114から122は鉢である。114は口縁部が小さく胴部下位に最大径を有しており、壺としてもおかしくない物である。115は半欠状態で底部は平底である。116と117は碗形鉢の破片である。117には粗い叩き目が施されている。118は小型のもので口縁部の一部を欠損している。119から122は脚台付鉢である。119はあたかも甕の上部を切ったような形状である。121は裾部の穿孔は貫通しておらず、刺突文の様な状況である。122は4号溝出土の245と246に類似した脚付き鉢で、玉名市南大門遺跡で類似した資料が出土している。^{*}

123は器台で、くびれが上位に位置している。124は小型のジョッキ形土器である。半欠で底部も見られない。把手は幅広いが残っていない。125と126は丹塗り土器の甕である。126には暗文による施文が見られ、色彩も鮮やかである。

127は砥石である。アルコーズ質砂岩製で側面には細くくぼんだ面があり、玉専用の砥石としての使用も窺える砥石である。128は鉄器で、手鎌の破片である。129は変成岩製の打製石斧の破片である。3面に刃部を作り、基部近くで折れている。

(14) 2号溝埋没後土器溜め (第32図)

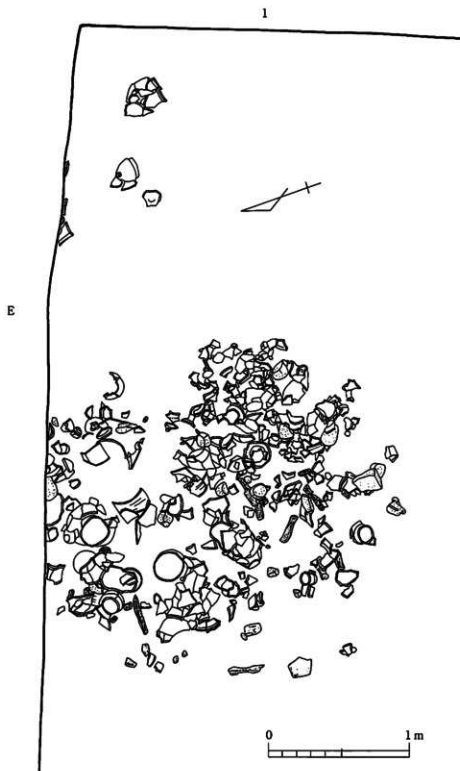
調査区北端部で、2号溝が埋没した後に土器を廃棄しており、2号溝より時間的に新しいものである。硬化面も見られ、南側には壁も確認できたが、明確に住居と確認するには至らなかった。特筆すべきは土器と共に炭化物が多く存在していたことである。あたかも土器を焼いていたかのような出土状況であった。

遺物 (第33図)

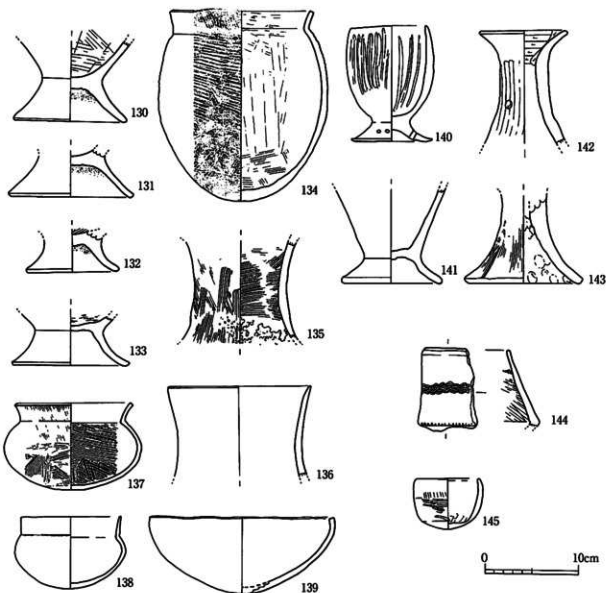
130から133は甕の脚台である。134は在地系の小型の甕である。底部は丸底で、胴部上位には粗い叩き目、下位では掻き消している。135は壺の口縁部で半欠状態である。136はジョッキ形土器

の破片である。137から141までは鉢である。140と141は脚台付である。142と143は器台である。144は台付鉢で、122と同様の形状になろう。外面

には細かな櫛掻き波状文を巡らし、下部には刻目を施している。145はミニチュアの鉢である。



第32図 2号溝埋没後土器溜め実測図



第33図 土器溜め出土遺物実測図

(15) 3号溝 (第26図)

調査区北側でL字状に曲がる溝で、1号溝と2号溝を切っている。全体は不明だが、方形周濠墓の可能性が高い。出土遺物から布留期の溝である。溝は上部幅3.5m～2.3m、下部幅2m、深さ0.7m、長さは東西9.7m、南北7.5mである。

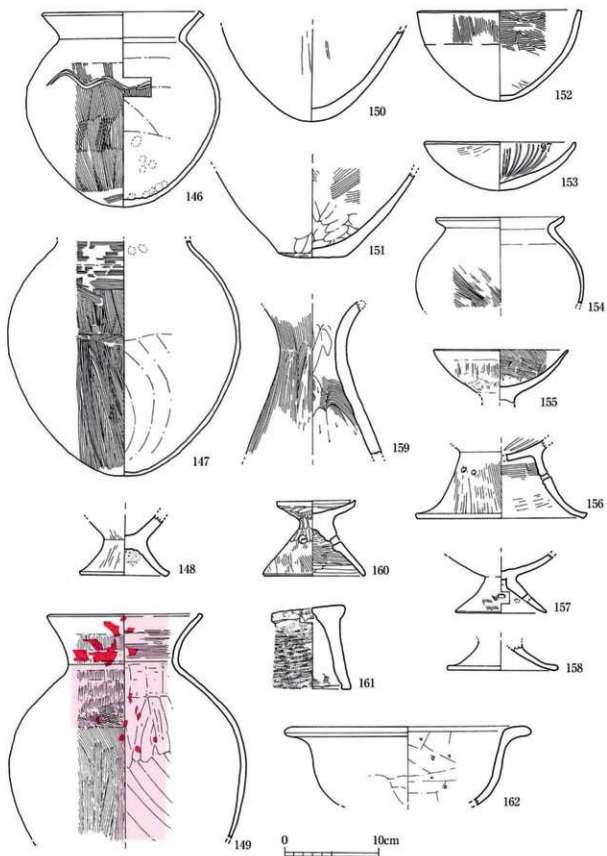
遺物 (第34～35図)

146から148は甕である。146は布留系で半欠状態である。肩部には波状文を巡らし、内側から外に向かって1個の穿孔が見られる。剝離面には煤の付着が見られないところから使用後二次に行われたものである。147も布留系で、胴部のみで

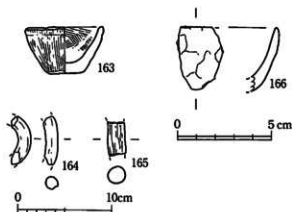
半欠状態である。148は在地系甕の脚台である。

149から151は壺である。149には外面に赤色顔料を塗っており、内面にも付着している。くすんだ赤色から判断してベンガラであろう。150と151は胴部上位を欠いている。

152と153は碗形の鉢である。154は短頸の壺片である。154から158は脚付き鉢である。159から161は器台である。160は畿内系で、161は北部九州に見られる杢形である。162は土師器の鉢である。163から166はミニチュア土器と土製品である。163と166は鉢のミニチュアで、164は土製勾玉片、165はスプーンの柄であろう。



第34图 3号溝出土遺物実測図



第35図 3号溝出土遺物実測図

(16) 4号溝 (第26図)

E-2区と3区にまたがって延びている溝である。南側を中心に弧を描いており、2号溝の内側に10mの間隔をもって並行するように掘られている。

時期も長胴脚台付の在地系甕を主体としており、2号溝とはほぼ同時期である。

溝は上部幅2.9m、下部幅2.5m、深さ0.8m、長さ18mの規模であった。

この溝は、平成11年度調査の220番地第2トレンチの2号溝もしくは3号溝に延びていくものと推察できる。

遺物 (第36～45図)

167から197までは在地系甕である。167は口縁部から胴部の一部を欠損しているが、底部まで全体の姿を見ることができる。外面には煤、内面には焦げ付きが見られ、傾きを持って付着しているところから使用状況が理解できる資料である。168も口縁部と胴部の一部を欠損しているが、全体の姿を見ることができる。口縁部から胴部上部に煤が付着している。169も口縁部と胴部の一部を欠損しているが、底部まで全体の姿を見ることができる。脚台から胴部に直線的に広がっている。

170は脚台を欠損している。全体に煤が付着し頻繁に使用されたことが窺える。171は脚台の裾部を欠損している。胴部が膨らんでおり、この甕もかなり使い込んでおり、全面に煤が付着してい

る。

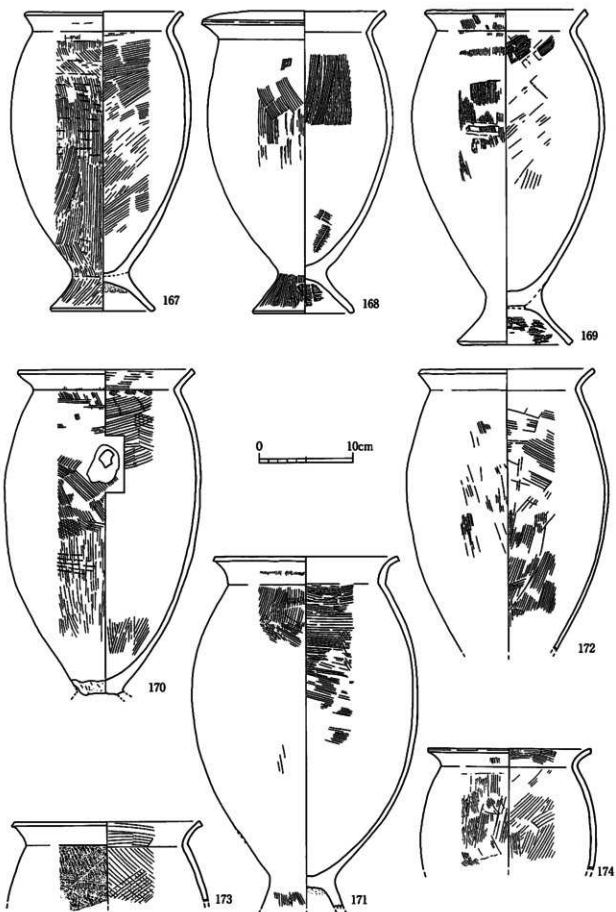
172も脚台を欠損している。胴部の張りが少なく直線的である。173と174は口縁部から肩部までの破片である。175も口縁部から胴部中位までの破片であるが、大型の甕である。表面はハケ目調整である。煤の付着は確認できない。176も大型の甕で口縁部から胴部上位までの破片である。煤は確認できない。177は胴部中位から底部を欠損している。表面には煤の付着が確認できる。178は大型の甕の口縁部で、半欠状態である。煤の付着が見られる。179は胴部下位を欠損する。器面の剥離がひどく、使用の際の火によるものであろう。180は口縁部から胴部下位の破片である。表面には煤の付着が著しい。181は小型の甕で使用のため表面の剥離が著しい。182も小型の甕である。僅かに煤が付着している。183は胴部下位から下を欠損している。表面は全面に煤の付着が見られる。184は口縁部から胴部上位の破片である。煤の付着が全面に認められる。

185から197までは底部で脚台である。185は表面には煤、内面には焦げ付きが著しい。

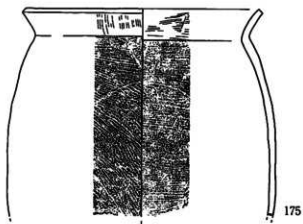
186は口縁部と脚台を欠損しているが、脚台欠損状態で火にかけられており煤の付着が確認できる。187は内面に焦げ付きが見られるが、表面には煤は見られない。188は表面に煤の付着と器面剥離が見られる。189と194は表面に煤の付着が確認できる。

198は外来系の甕で布留系である。199も外来系甕で、庄内系である。200は北部九州系の大型甕である。201と202は小型甕である。底部は小さな平底となっている。203と204は小型の鉢である。

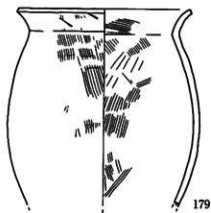
205から223は甕である。205は口縁部から肩部を残し、口唇部と肩部には櫛描き文を施している。頸部には凸帯を巡らし、刻目を行っている。206は口縁部のみであるが、内外両面に赤色顔料を塗っている。207は口唇部を意図的に打ち欠いている。頸部には櫛描き文を巡らしている。208と209も頸部に粗い櫛描き文を巡らしている。210は土師器の精製の甕である。頸部に細かな櫛描き波状文を巡らしている。211は小型の甕の破片であ



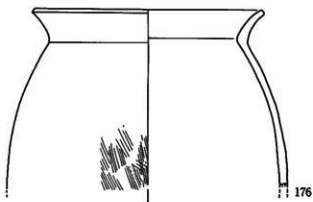
第36图 4号清出土遺物実測図①



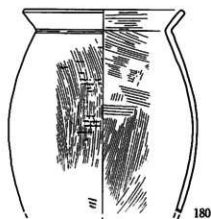
175



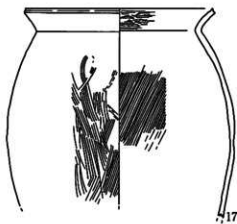
179



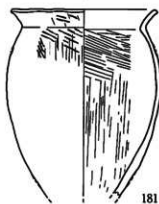
176



180

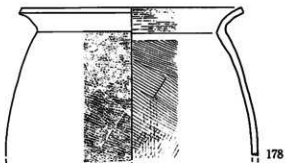


177

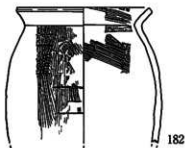


181

0 10cm

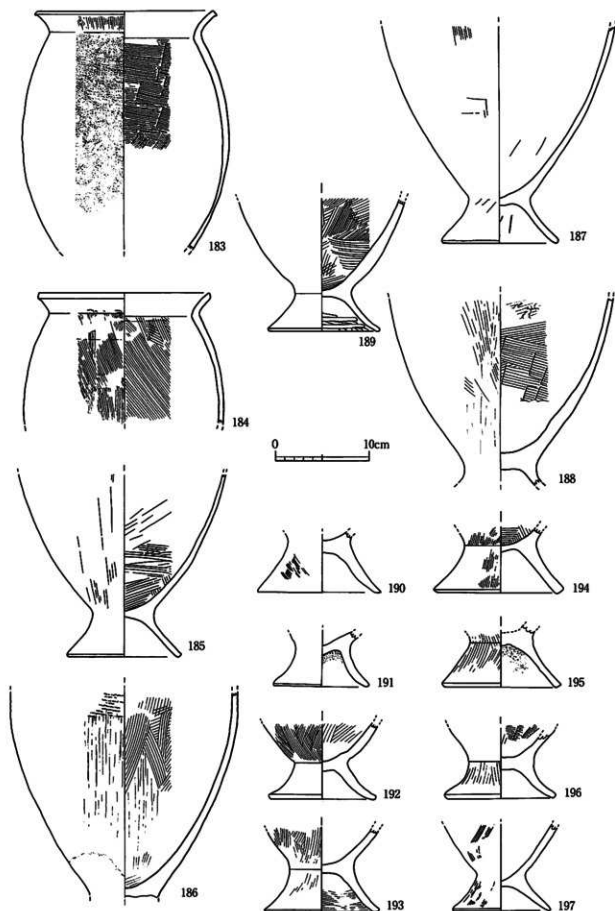


178

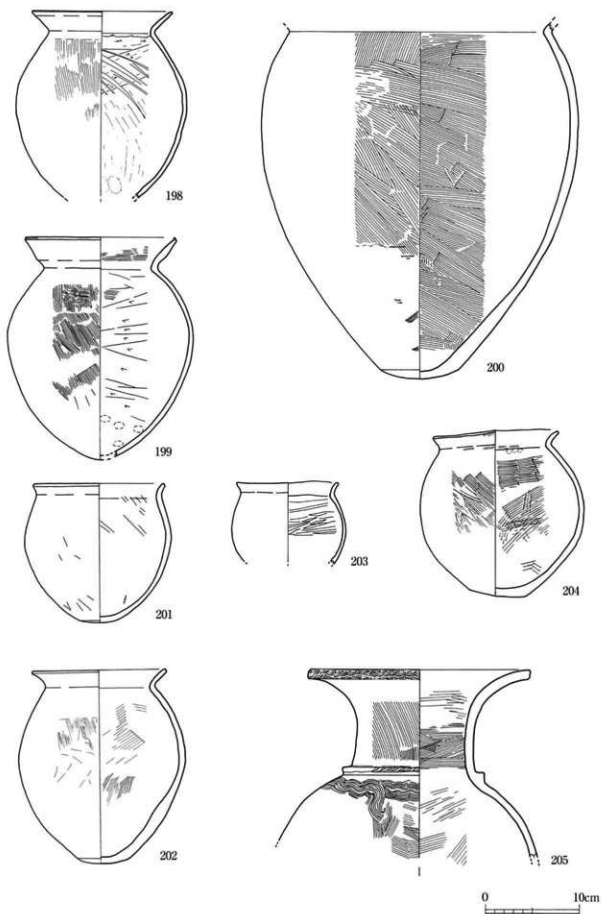


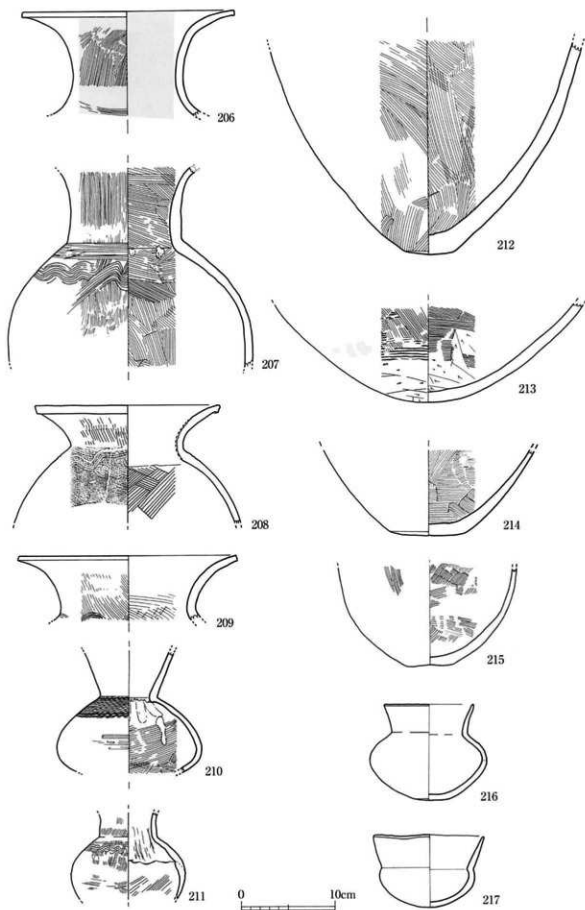
182

第37图 4号清出土遗物实测图②

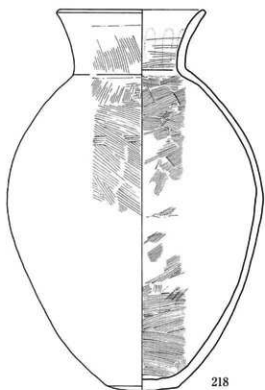


第38图 4号溝出土遺物実測図③

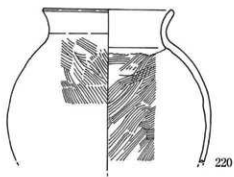




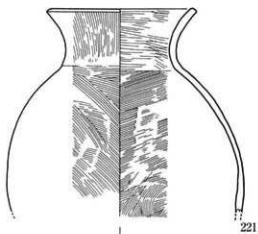
第40图 4号溝出土遺物実測図⑤



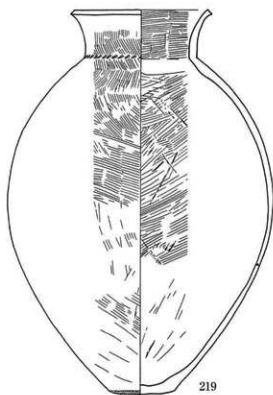
218



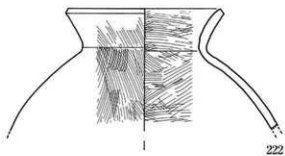
220



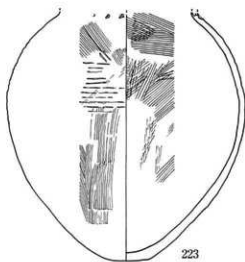
221



219



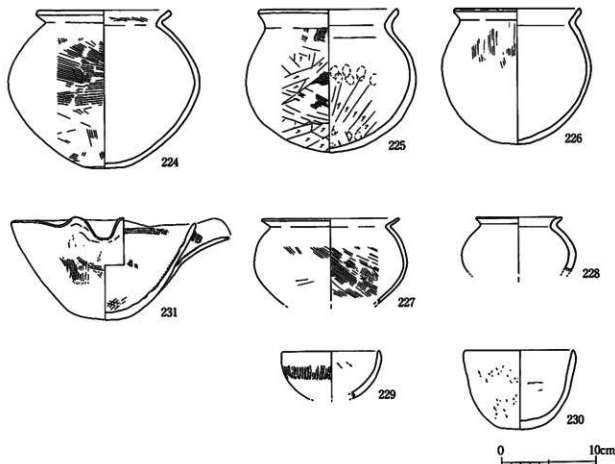
222



223



第41图 4号满出土器物实测图⑥



第42図 4号溝出土遺物実測図⑦

る。頸部に粗い櫛描き文を施している。

212から215は壺の底部である。特に213は断面部に赤色顔料が付着している。215は小型の壺で、216は土師器の小型丸底壺である。218から223は短頸の長胴壺である。218はほぼ完全な姿である。底部近くに器面剥離が見られる。219は図面上で接合したもので、遺物では接合点が見られなかった。頸部に刻目を巡らしている。220は小型で胴部下位を欠損している。221と222も胴部下位を欠損している。223は頸部から底部の破片である。底部近くで器面の剥離が見られる。頸部には刺突文を施している。

224から231は鉢である。224から227は口縁部が小さく広がっており、225まではほぼ完全な姿である。231は片口である。内面に器面剥離が見られる。

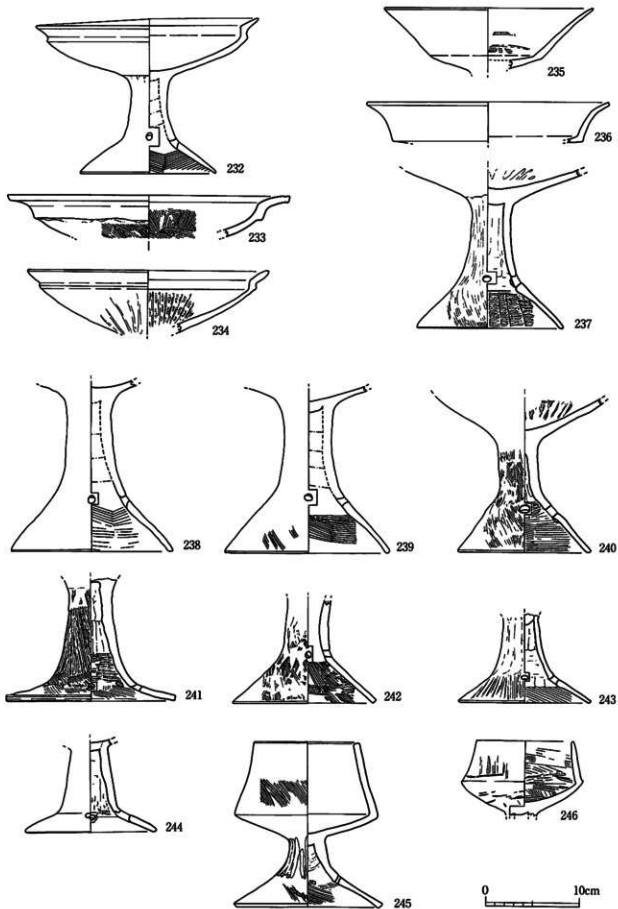
232から244までは高杯である。232は僅かに脚裾部を欠損しているが、ほぼ完全な姿に近い。杯

内面には使用による器面剥離が見られる。233から236は杯部のみであり、237から244は脚部のみである。

245から251までは脚台付き鉢である。245と246はブランデーグラス状の鉢で、2号溝出土の122の形状に類似している。247は脚部のみで、248は完全な姿を残している。249と251は脚台を欠損し、250は口縁部も欠損している。

252から256は器台である。252と253は形状、胎土、施文方法など極めて類似しており、同じ工人の手によるものであろう。254と255も焼成の色調は似たものである。256は粗い叩き目を残している。

257はジョッキ形土器の把手である。258は把手と思われるが、土製勾玉の可能性も残している。259は土製玉で、孔は見られない。そのため首飾りなど装飾用の玉にはならない。11号住居跡出土の77の玉と共通した形状である。260は貼り付け

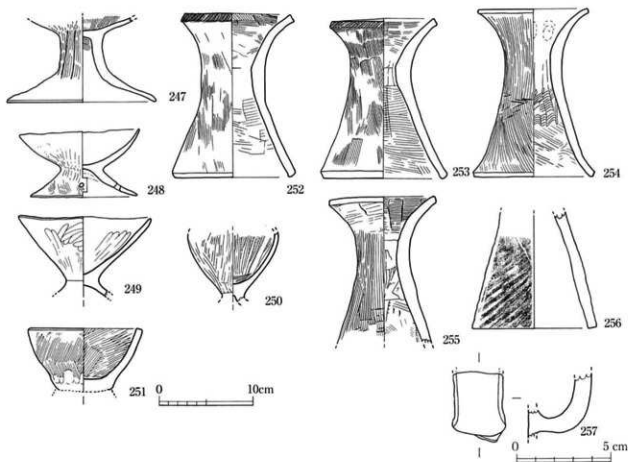


第43图 4号清出土遗物实测图⑧

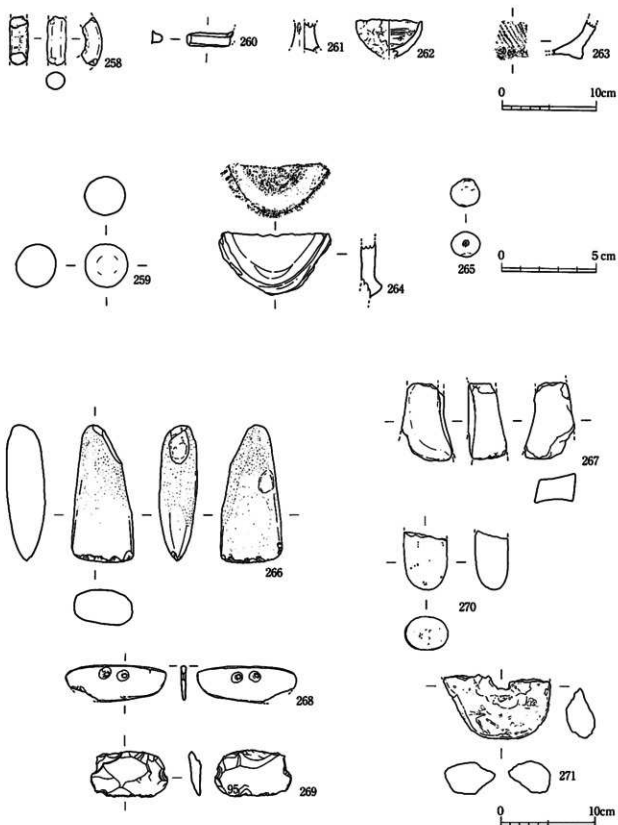
文が剥離したものである。261はミニチュア土器である。262は手握土器の鉢である。263は高台を持つ鉢である。粗い叩き目を残している。内面には赤色顔料の付着が見られる。264は甕の胴部に施された鈎状の貼り付け文である。265は土製の玉で中心に紐を通す孔を穿っている。

266から271は石器である。266は磨製石斧である。刃部を中心に研磨しており、基部には敲打痕を残している。僅かに赤色顔料の付着が認められる。267は砥石である。4面は熱を受けており、

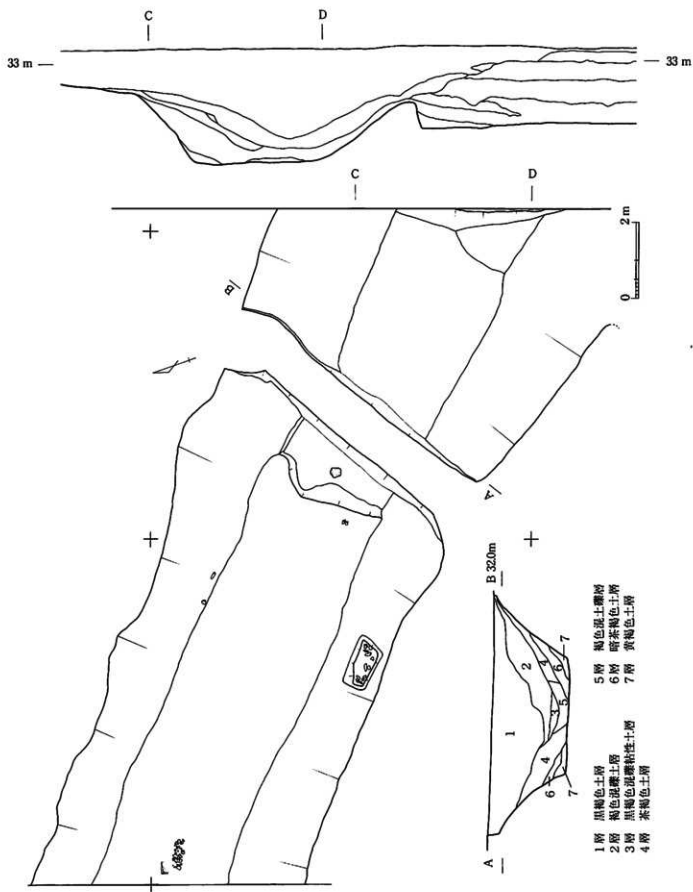
2面が主に使用されたようで色が白い。268は石包丁である。刃の一部を欠損している。穿孔の技術が粗く表裏でずれが見られる。269は周囲に刃部を形成した石器である。刃部は摩滅が認められ使用頻度の高さを示している。270は礫を利用した石杵である。端部を利用して赤色顔料を叩き潰している。そのため窪んだ部分に顔料が残っている。271は軽石製品である。中央には両側から窪ませて穿孔しており、円盤状石器のような形状である。



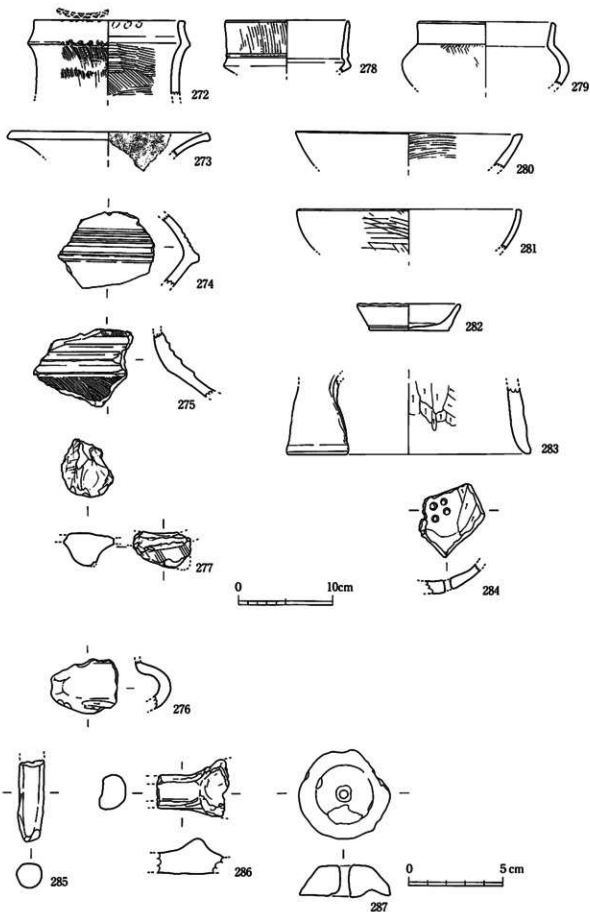
第44図 4号溝出土遺物実測図⑨



第45图 4号清出土文物实测图⑩



第46图 大庆实测图



第47圖 大溝出土遺物実測図

(17) 大溝 (第46図)

調査区のほぼ中央部に位置し、調査区に対し斜め方向に掘られている。上部幅8.8m～6.4m、下部幅3.5m、地表から3mの深さがある。この数値は遺構を確認した地点からで、本来の規模はさらに大きくなる。土層断面にも見られるが、南側に掘られた「周溝」が完全に埋没した段階で掘られていることが確認できる。

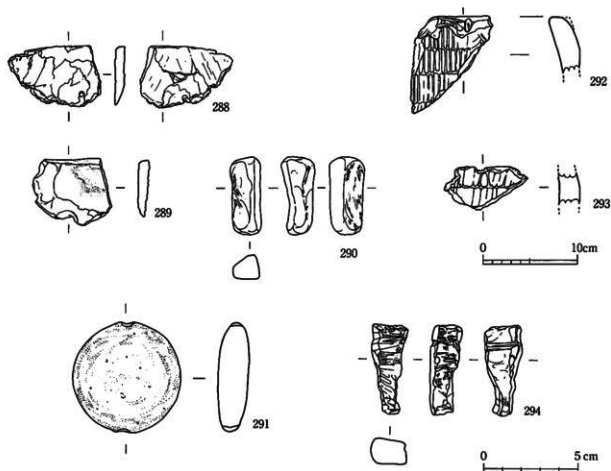
従って、時間的には出土遺物から中世の所産である。なお、溝底には床面で高さが異なっている部分が確認された。これは、溝を掘る作業の段階で、役割分担の違いから生じた可能性を示している。

溝は南東方向では、平成11年度に調査した220番地第2トレンチの1号溝まで延びていくことが確認された。さらに北西方向では平成12年度調査

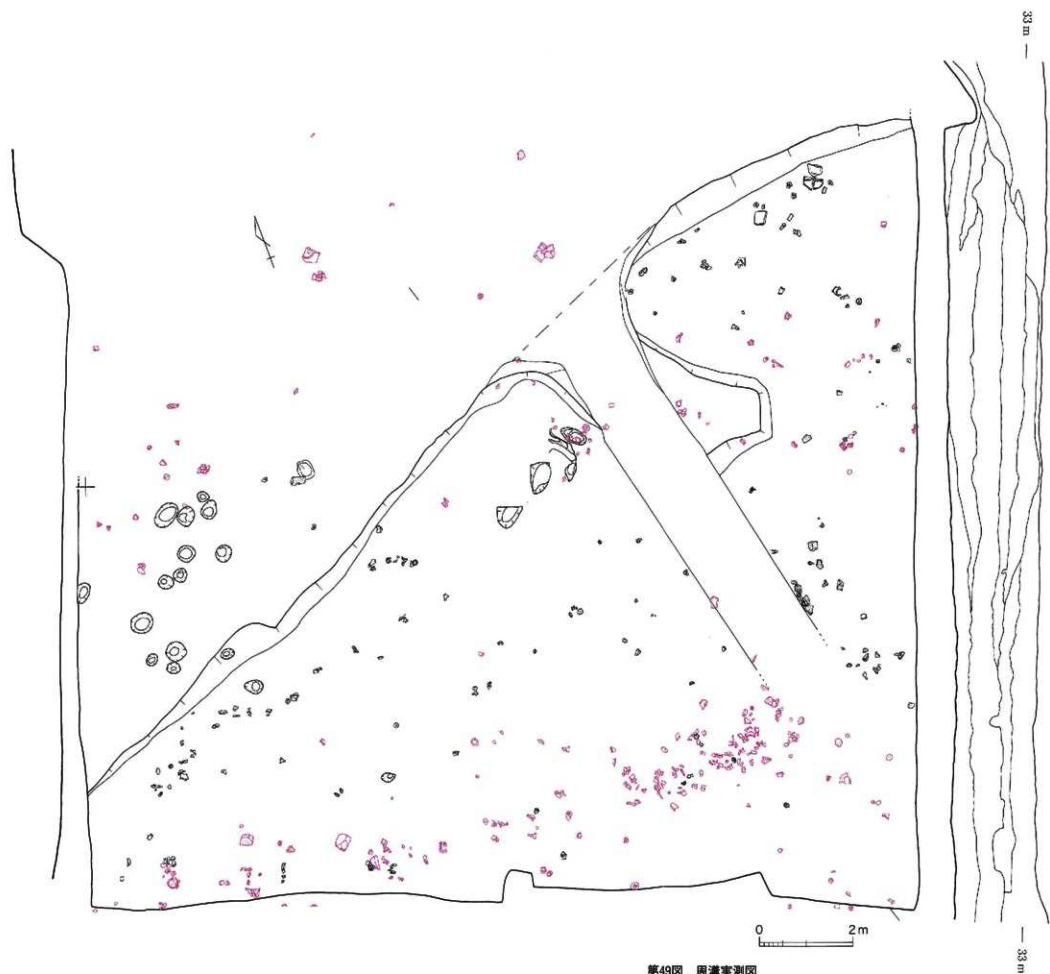
の196-1番地のトレンチ南端部に幅5.5mの溝が確認された。この溝まで一直線に伸びていることが推察される。220番地から196-1番地の間が145mの間隔があり、溝としてはそれ以上の長さを有していると理解できる。

遺物 (第47～48図)

272から275は壺の破片である。272は二重口縁の壺で、口唇部には「×」状に刻目を施している。273は口縁部の破片で内面に撫描きによる半円が見られる。274は無頸壺の胴部である。算盤玉の形状をした胴部には凸帯を巡らし、その上段に沈線を8本巡らしている。275は頸部のみの破片であるが、4本の凸帯を巡らしている。276はミニチュアの壺で、胴部のみの破片である。277は把手の破片である。278から281は鉢である。



第48図 大溝出土遺物実測図



第49図 周溝実測図

※赤は上層の遺物

282から284は土師器である。282は糸切り底の皿である。283は移動式竈の破片である。284は甗の破片である。

285から287は土製品である。285と286はスプーンの柄である。287は紡錘車である。

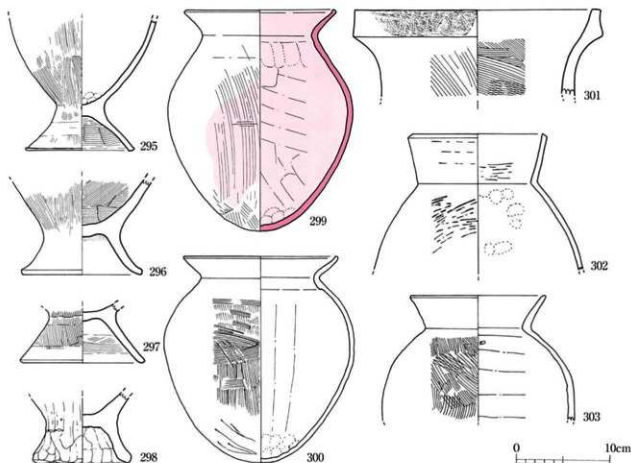
288から294は石器である。288は石包丁未製品の破片である。形を整えた段階で、穿孔の痕跡すら見られない。289は砥石の破片である。290は礫を利用した石杵である。周囲に赤色顔料の付着が見られる。摩滅や敲打痕は見られないが赤色顔料の加工道具と思われる。291は石錘であるが、全面に赤色顔料の付着が認められる。292から294は滑石製品である。292と293は石鍋の破片であるが、転用され加工の痕跡がある。294は本来の形状も用途も不明である。

(18) 周溝 (第49図)

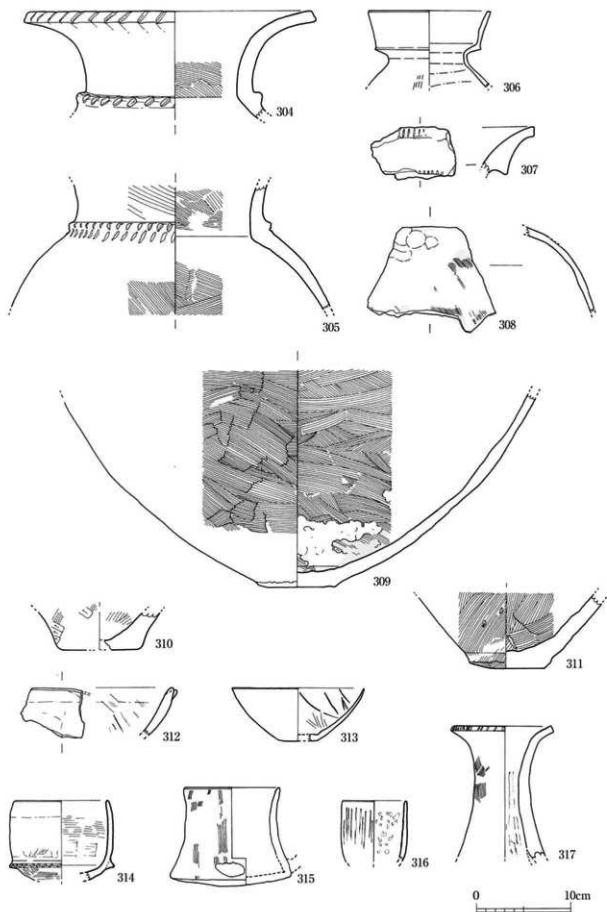
調査区の南に山鹿市指定文化財の端山塚古墳が残っている。この古墳を中心に円弧を描くかのように深さ0.9mで平坦な落ち込みが検出された。このため、古墳築造に際して地盤の整形を行い、この上に古墳を築いたのではないかと推察し周溝とした。しかし、本来の周溝とは形式的に異なることから、この名称が適切に遺構の性格を表現したものか疑問をもちつつ採用したものである。

規模的には、古墳東側で平成11年度調査した220番地の第2トレンチ2号溝の西端部まで平坦部が広がっていることが確認でき、「直径40mの円を描いていることが明らかとなった。古墳裾部を除いて幅25m程度になる。

遺物の出土状況も散在しており、遺物の時代も時間的にもまとまりがないものであった。恐らく溝と異なり短期間での埋没に至らなかったため、時間的な幅が認められるのであろう。



第50図 周溝出土遺物実測図①



第51图 周溝出土遺物実測図②

遺物（第50～58図）

295から298は在地系甕の脚台である。298は手捏風で粗雑な造りである。299と300は外来系の甕で布留系である。299は焼成後意識的に打ち欠いて半載されている。断面に赤色顔料が付着し、内外面にも付着が見られる。おそらく赤色顔料の製作に際し使用されていたものであろう。平成7年度に調査した、出土文化財管理センター建設地からも同様の資料が出土している。⁴

300は完全な姿の甕である。

301から311は甕である。301は二重口縁でヘラによる連続三角文を描いている。302と303は口縁部から肩部までの破片である。304は口唇部と頸部の凸帯に刻目を施している。305にも刻目が見られるが、こちらは2段になっている。306は山陰系の甕である。

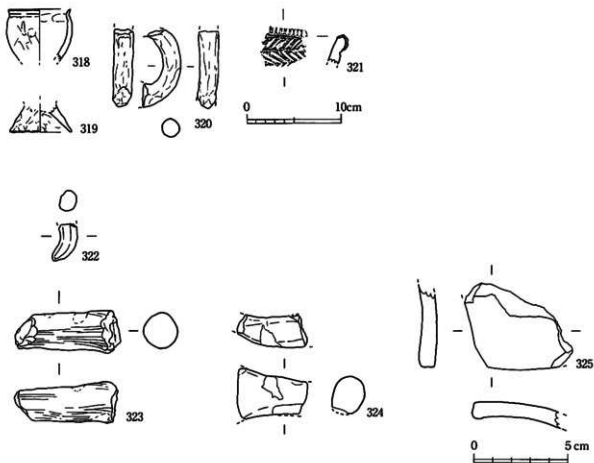
307も外来系の甕の口縁部片で、内面を黒く塗っている。308は胴部の破片である。外面に赤

色顔料の付着が確認できる。309は大型甕の底部である。6個に割れていたが断面および内面に赤色顔料が付着している。赤色顔料の生産に関連する資料である。310と311は底部のみの破片である。

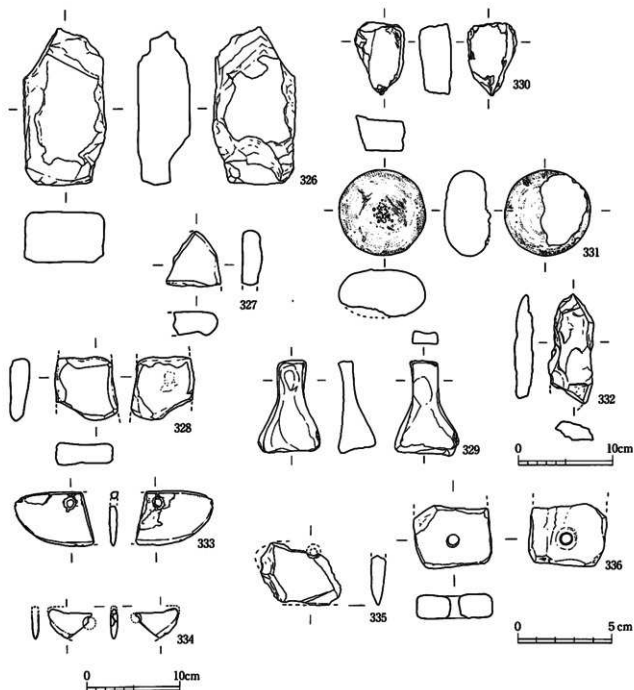
312は土師器で鉢の破片である。僅かに片口の形状を作り出している。313は小型の鉢である。314は脚台付の鉢で、脚台を欠損している。315はジョッキ形土器である。把手を欠損し、器壁は肉厚である。316はコップ形の土器片である。317は器台である。

318から325は土製品および縄文土器である。318と319はミニチュア土器である。320は把手である。321は縄文土器で北久根山式土器である。322は土製勾玉の破片で、小形のものである。323と324はスプーンの柄である。325は二側面を整形している土器で、形状は不明である。

326から336は石器である。326から330は砥石である。331は磨り石である。研磨面と中央には敲



第52図 扇溝出土遺物実測図③



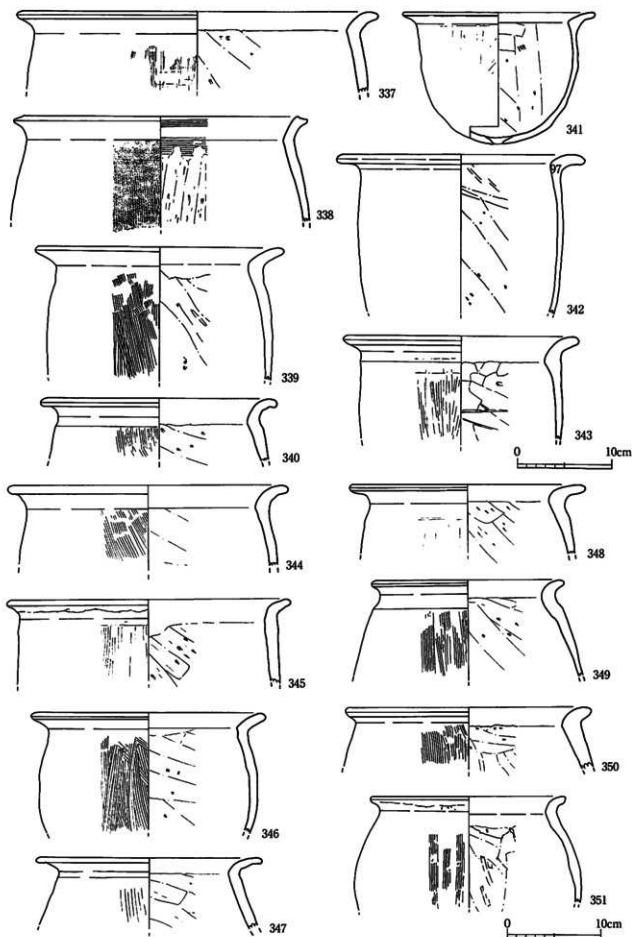
第53図 周溝出土遺物実測図④

打痕も残しており、赤色顔料を加工したもので僅かに顔料を確認することが出来る。332は打製石器の破片である。333から335は石包丁の破片である。336は変成岩製の石器三辺を整形し折れたもので、中央に穿孔が見られるところから石剣の基部の可能性が高い。

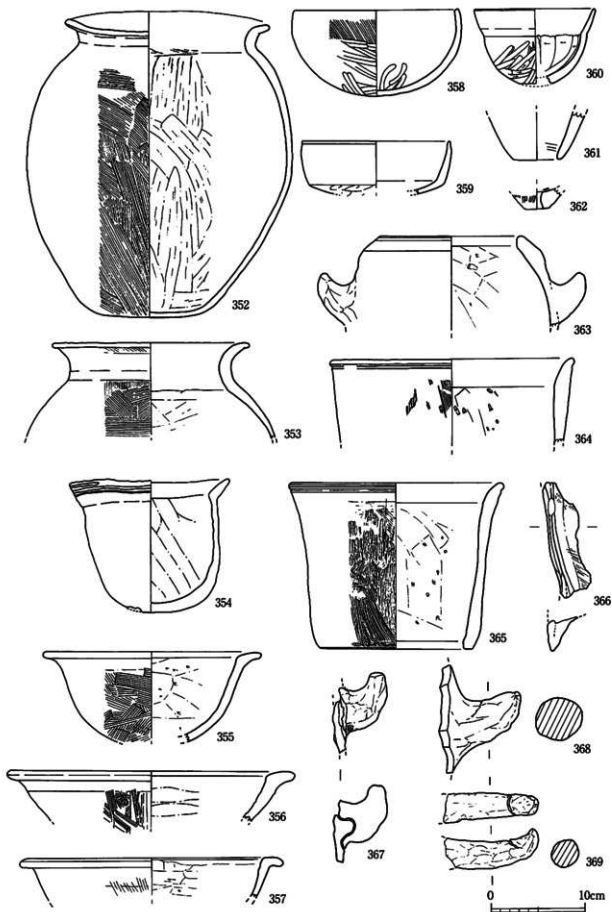
337から353は土師器の鉢である。大半は破片であるが、341と352は完形に近い。349と350は赤色顔料を塗っている。

354から357までは土師器の鉢である。354は半載状態である。358は弥生時代後期の鉢である。359は土師器の杯である。全面に赤色顔料で塗られ、その後の煤の付着が著しい。

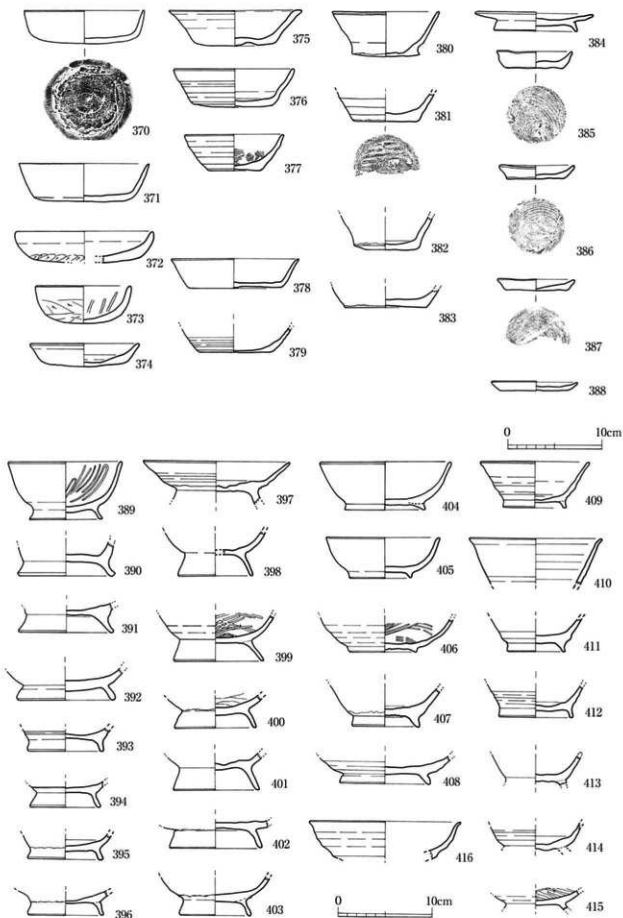
360は小型丸底壺を甗に転用したものである。底部に二次的な穿孔が見られる。361と362は甗の底部片である。363は底部が無いため断定できないので鉢としている。把手が着いている状況である。表面には赤色顔料を塗っている。364も鉢で



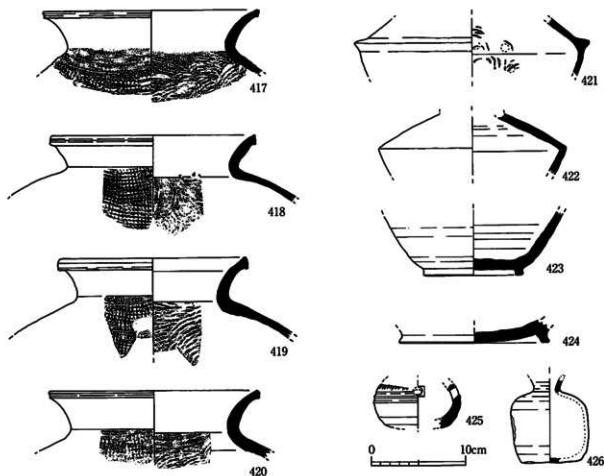
第54图 周清出土文物实测图⑤



第55图 周清出土文物实例图⑨



第56图 周满出土文物实测图⑦



第57図 周清出土遺物実測図⑧

あろう。365は円筒形をしている鉢である。瓶となるかは不明である。366は移動式甕の破片である。367から369は把手であり、367は接合面から剥離しており、製作工程が理解できる。369は湾曲しつつ延びており支脚の可能性もある。

370から383は土師器の碗である。374と375は完形品である。377は灯明皿として使用されており灯芯の煤の付着が見られる。379は瓦質土器である。384は托形土器である。

385から388は土師皿である。389から415は高台付きの碗である。389と399、400、405、415は内面を黒色研磨している。390と404の内面には煤が付着している。395は須恵器である。412は瓦質土器である。

417から442は須恵器である。417から420は短頸で外反する甕の口縁部片である。421と422は長頸甕の破片である。共に肩の部分のみである。423

と424は甕の底部で高台を有している。425は甕(はそう)の破片である。426は小型甕で口縁部を僅かに欠損している。

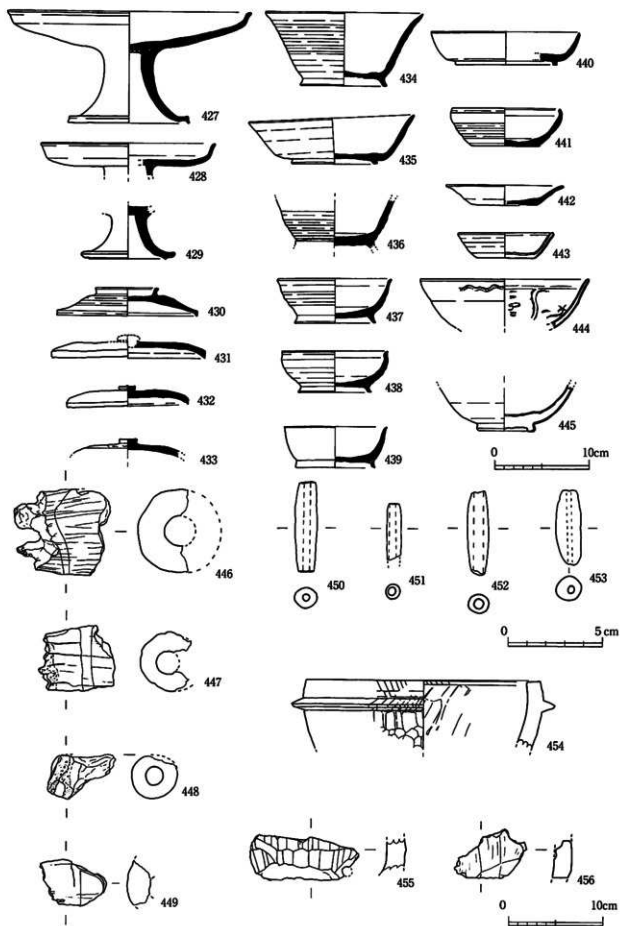
427から429は高杯である。427は同一個体であるが接点が見られなかったので図上で復元している。428は杯部の破片である。429は脚台である。

430から433は杯蓋である。430は高台状の摘みで、ほぼ完全な姿である。431は摘みを欠損している。432と433はボタン状の摘みである。434から440までは高台をもつ碗である。441は平底の碗である。442は杯である。

443は半欠状態の白磁の小皿である。444と445は青磁碗の破片である。

446から449は甕の羽口片である。熱により溶変している。450から453は土錘である。

454から456は滑石製石鍋片である。455には穿孔が見られる。



第58图 周清出土文物实测图⑨

(19) 遺構に伴わない遺物 (第59～70図)

調査段階で取り上げたものであるが、遺構の確認が出来ないものを紹介するものである。

地区別に分けたので、北側から南側に向かって説明する。

① E-1区出土遺物 (第59～61図)

457から463は在地系甕である。457は底部を欠損しているが脚台である。表面には煤、内面には焦げ付きが見られ、さらに初の圧痕が確認できる。458は脚部のみである。459は口縁部から胴部下位までの破片である。煤の付着は見られない。460は口縁部から肩部までである。煤は見られない。461は口縁部を欠損している。表面には煤が付着し、内面には焦げ付きが見られる。462は口縁部から肩部までの破片であるが、表面には粗い叩き目を施している。463は丸底である。ほぼ完全な形である。

464から467は甕である。464は緩い二重口縁の破片である。465は頸部から胴部下位までの破片である。頸部には凸帯を巡らし斜めの刻目を施している。胴部には粗い叩き目が施されている。466は胴部中位から底部までを残している。全面に粗い叩き目を施し、その後底部近くをナデ消している。467は大型の甕で胴部の半欠状態である。

468から471は鉢である。470は完形品である。471は破片である。472は手捏風の皺が多く見られる。

473から476までは脚台付鉢である。476以外はほぼ完全な姿を留めている。475は土器溜近くからの出土である。476は2号溝出土の122、4号溝出土の245の脚台付鉢と類似している。

477は高杯の杯部片である。脚台は付け根から折れている。478は器台で、裾の一部を欠損している。479と480および485はジョッキ形土器の破片である。485は把手の破片である。482から484はミニチュアの高杯である。486はミニチュアの高杯である。

487から491は石器である。487と488は石包丁である。487は穿孔が2個あるが、途中でやめている未貫通の孔が1個見られる。

489は砥石である。鉄錆の付着が見られる。

490も砥石である。研磨面は光沢を持ち細い傷跡が多く残されている。491は凝灰岩製で、表裏二面に平坦面を形成し、研磨している。

② W-1区出土遺物 (第62図)

1号溝と4号溝の間を中心に出土している。

492と493は甕の破片である。492は小型の甕の破片で煤の付着が著しい。494と495は甕の破片である。494は口縁部片であるが、表面に濃く赤色顔料を塗り、内面にも薄く付着している。495は算盤玉状の無頸甕片である。胴部に稚拙な鋸歯文を描いている。496は大型の甕で胴部の一部から底部を欠損している。内面には粘土接合が確認できる。497と498は甕の底部である。499と500は鉢である。501は鉢の破片で、口縁部の一部であるが、被熱のため煤の付着と変色が見られる。

502と503は石包丁の破片である。504はガラス製小玉である。505は土師器の碗である。506は土師器の皿である。507は須恵器の杯蓋である。

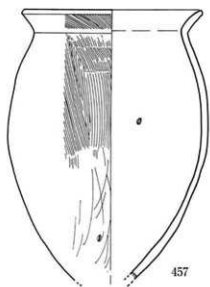
③ E・W-1区出土遺物 (第63図)

北側拡張部の土器溜周辺出土の遺物が見られる。

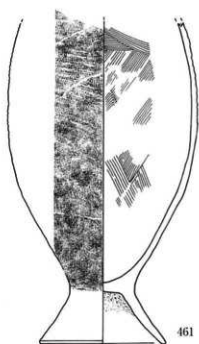
508は在地系甕で底部を欠損している。表面には煤が付着している。509と510は接点が見られないが、胎土の色調や器面調整の状況から同一個体の可能性がある。509は在地系甕の口縁部の破片で、510は口縁部から胴部下位まで部分的に欠損している。

511から513までは甕である。511は口縁部のみである。頸部には凸帯を巡らしている。512は口縁部と胴部の一部を欠損している。頸部には刺突文を巡らしている。513は口縁部から肩部までの一部を欠損している。

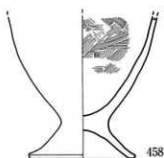
514と515は鉢である。516は手捏の甕の破片である。482と接合面は見られないが同一個体の可能性が高い。517はスプーン形土製品の把手である。



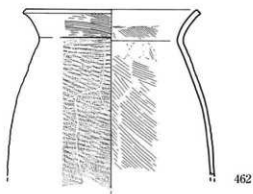
457



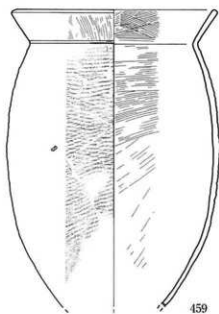
461



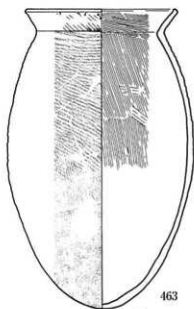
458



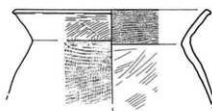
462



459



463

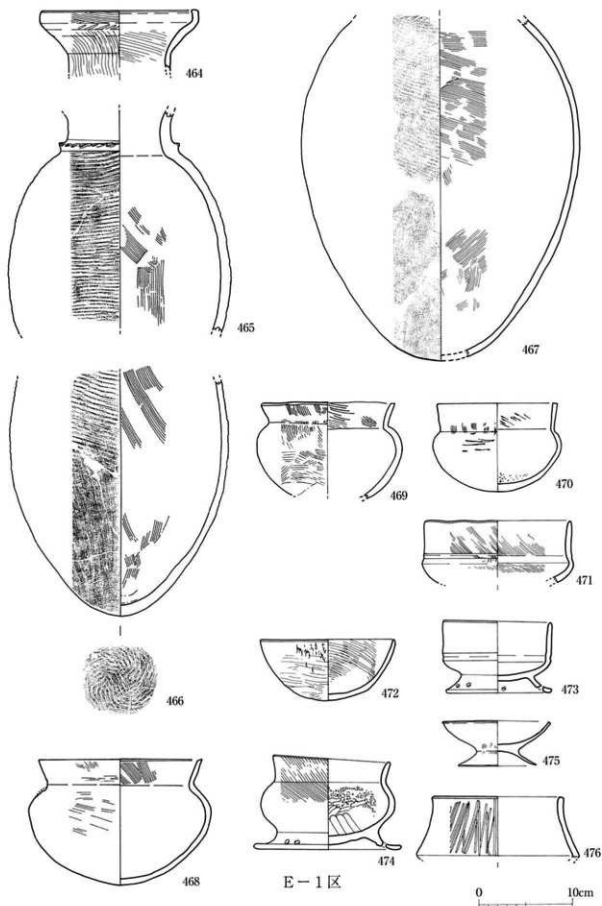


460

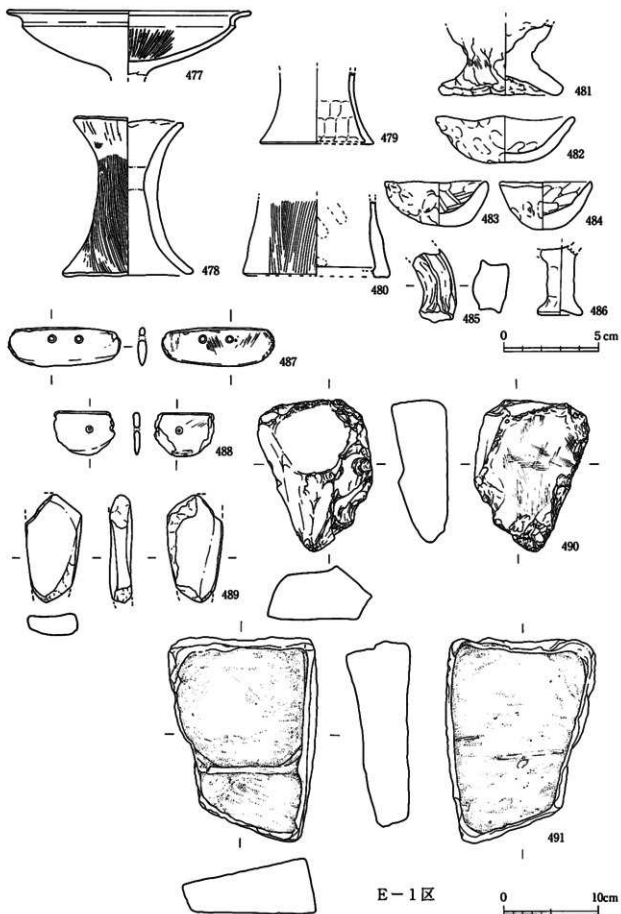
E-1区

0 10cm

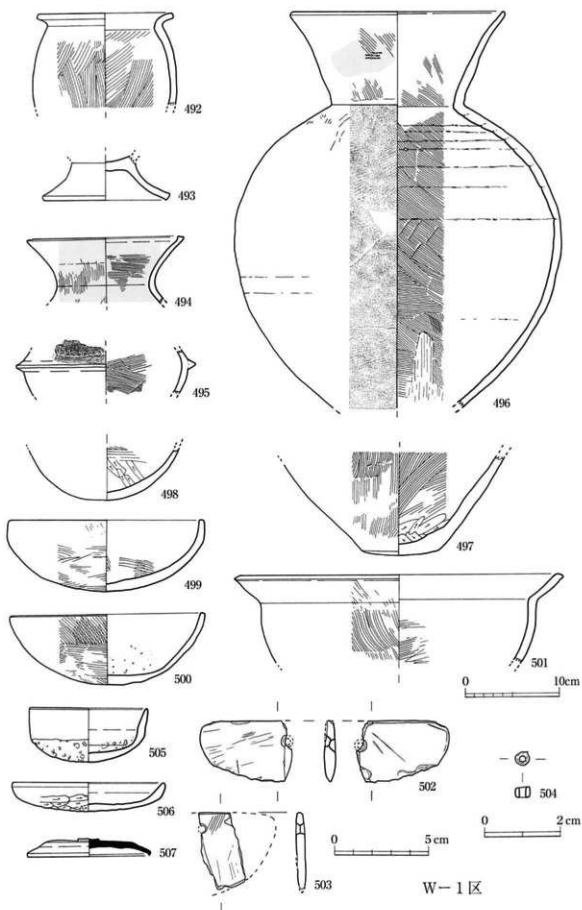
第59図 遺構に伴わない遺物実測図①



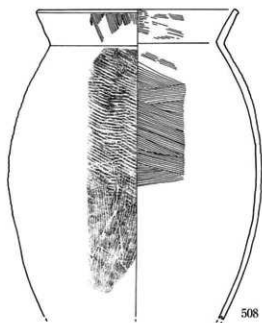
第60図 遺構に伴わない遺物実測図②



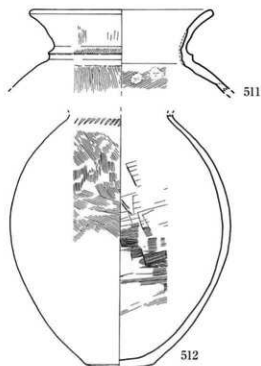
第61図 遺構に伴わない遺物実測図③



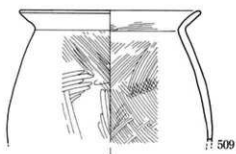
第62図 遺構に伴わない遺物実測図④



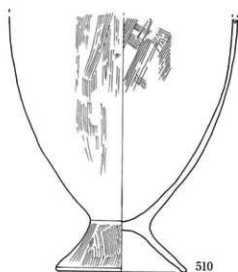
508



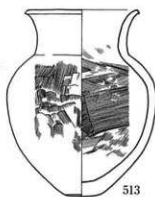
512



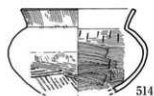
509



510



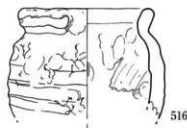
513



514



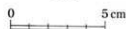
515



516

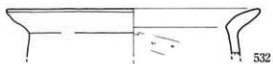
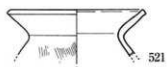
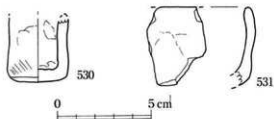
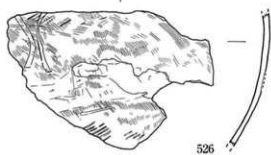
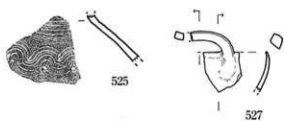
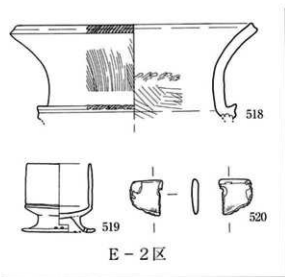


517



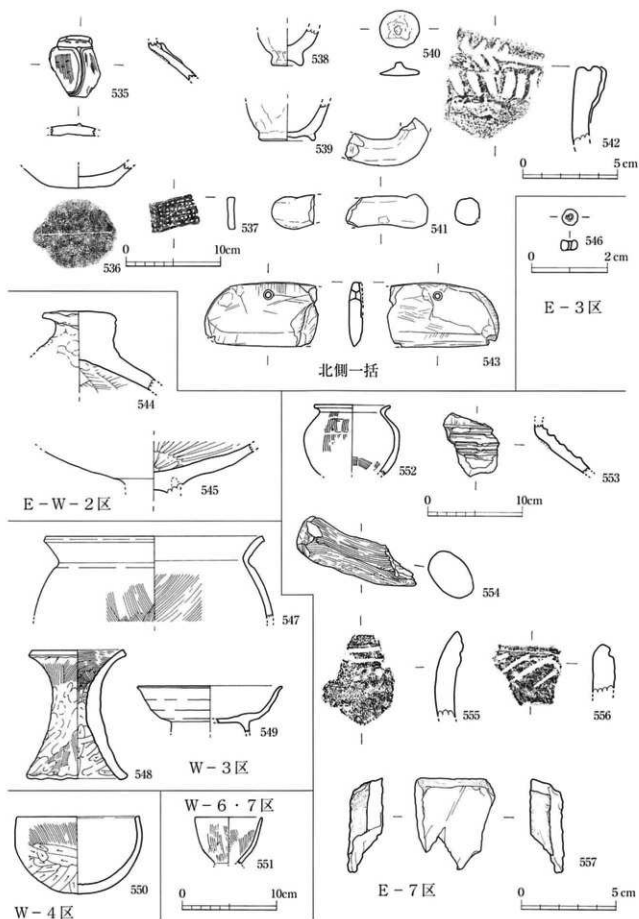
E - W - 1 区

第63図 遺構に伴わない遺物実測図⑤



W-2区

第64図 遺構に伴わない遺物実測図⑥



第65図 遺構に伴わない遺物実測図⑦

④ E-2区出土遺物(第64図)

518は壺の口縁部である。口唇部には刻目を施し、頸部には凸帯を巡らし、刻目を確認することが出来る。519は小型の脚台付鉢である。ほぼ完全な姿である。コップ形土器ともいえるものである。520は石包丁の破片である。

⑤ W-2区出土遺物(第64図)

521から524は甕である。521と523は口縁部の破片である。共に外来系の甕で布留系である。522と524は脚台である。524は大型の甕の脚である。525と526は壺の破片である。525には肩部に櫛描文を施し、526は線描きの模様が見られる。527は把手をもつ小型の土器である。破片のため全体の形がつかめないが、口縁部に沿って、半環状に四角の断面をもつ把手が付いている特殊な土器で、今まで類例を知らない。528は口縁部が平坦な鉢の破片である。529から531はミニチュア土器である。532から534は土師器の甕と甔の破片である。

⑥ 北側一括出土遺物(第65図)

535は壺の肩部の破片である。頸部には凸帯を巡らしその下に延びるように鉤形の貼付文を配している。4号溝出土の264の遺物と類似している。同様の遺物が平成7年度に調査した出土文化財管理センター内10号溝からも出土している。*

536は壺の底部である。中央に1本へら描きによる筋状の施文が見られる。この施文についてはかつて注目したところである。*

出土文化財管理センター調査でも2点出土しており、少しずつ類例が増している。*

537は把手の破片である。ジョッキ形土器の把手とは類似しているが、接着面が把手の主軸と直角になっておらず、傾斜した形になっているところから口縁部に対し平行に付く把手であると判断した。いわゆる鍋の把手のような形状になる。表面には細い竹管文が列状に施してある。

538から541は土製品である。538と539はミニチュアの甕の破片である。540はミニチュアの土製鏡である。鈕を中央部に表現している。541は

537と同様に、口縁部に対し水平に付く把手である。542は縄文土器の破片である。口縁部と口唇部にも刻目を配している。542は石包丁の破片である。この資料は基部が湾曲し、刃部が直線である。

⑦ E・W-2区出土遺物(第65図)

544は手捏の擠みをもつ土器で、不整形のため脚にはならないと判断し、蓋とした。

545は高杯の破片である。

⑧ E-3区出土遺物(第65図)

546は淡い青色のガラス小玉である。

⑨ W-3区出土遺物(第65図)

547は甕の破片である。表面には煤の付着が著しい。548は器台である。手捏のように粗い造りである。549は土師器の皿で高台を有している。口縁部には煤の付着が見られる。

⑩ W-4区出土遺物(第65図)

550は半欠状態の碗である。

⑪ W-6・7区出土遺物(第65図)

551はミニチュア土器の破片で脚付き鉢である。

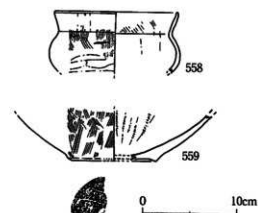
⑫ E-7区出土遺物(第65図)

552は小型の鉢の破片である。553は壺の肩部の破片である。5本の凸帯を巡らしており、長頸壺であろう。大溝出土の275や一括出土遺物の585と類似している。554は土製品の把手である。支脚とも考えられるが、端部が脹らみをもっており、不安定になるので把手とした。

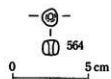
555と556は縄文土器である。557は砥石である。側面に研磨面を残しているが、多くは剥離している。

⑬ W-7区出土遺物(第66図)

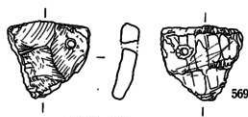
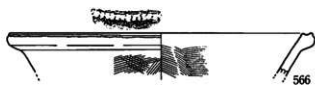
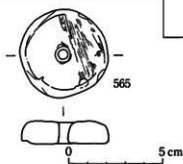
558は鉢の破片である。559は壺の底部の破片である。



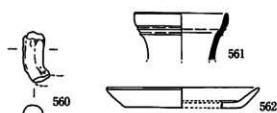
W-7区



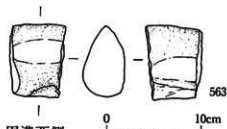
W-8区



南側一括



周溝西側



上層一括



第66図 遺構に伴わない遺物実測図⑧

⑭ 周溝西側出土遺物（第66図）

560は把手の破片である。561は須恵器の壺の口縁破片である。562は土師器の皿の破片である。563は研磨面を残す礫片である。微量ではあるが赤色顔料が見られる。

⑮ W-8区出土遺物（第66図）

564はガラス小玉である。

⑯ 南側一括出土遺物（第66図）

565は土製の紡錘車である。表面には鉄分が付着して錆に包まれている。566と567は中世の遺物である。口唇部に刺突文を配している。類似資料として中皆本遺跡出土遺物がある。²¹

568と569は滑石製の石鍋片である。568には口縁部直下に穿孔と縁に切り込みを入れている。569にも穿孔が見られ周囲を加工している。

⑰ 南側上層出土遺物（第66図）

570は小型壺である。口縁部の一部が欠損している。571は鉢である。口縁部から胴部にかけて一部欠損している。572は鉢の破片である。573は完形の小型瓶である。

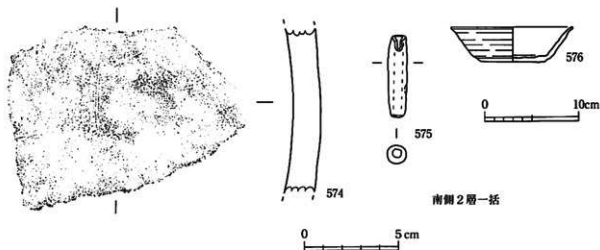
⑱ 南側2層出土遺物（第67図）

574は壺の胴部片である。表面には細いヘラに

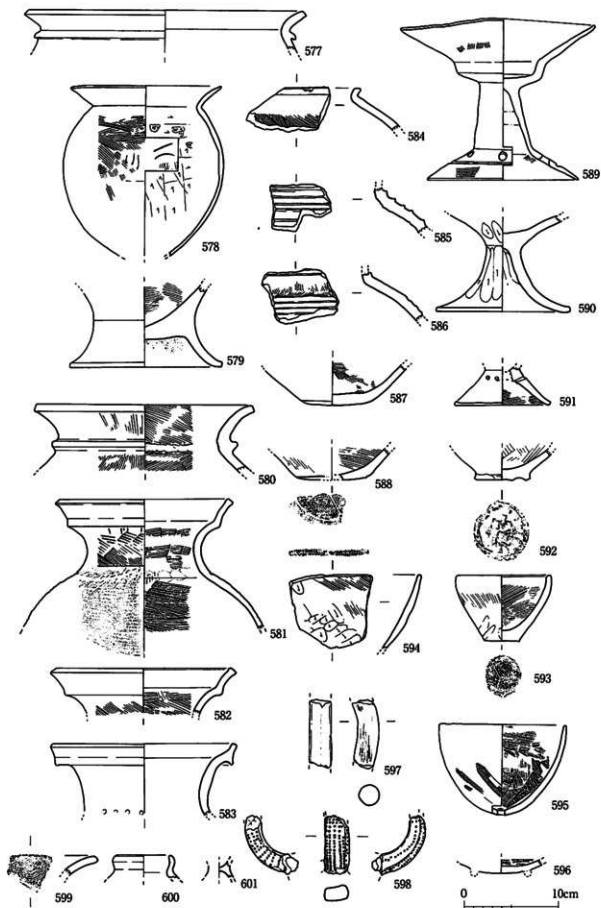
よる文様が描かれている。湾曲した櫛状に3本の直線を交叉させている。575は土錘である。576は土師器の皿である。

⑲ 調査区一括出土遺物（第68・69図）

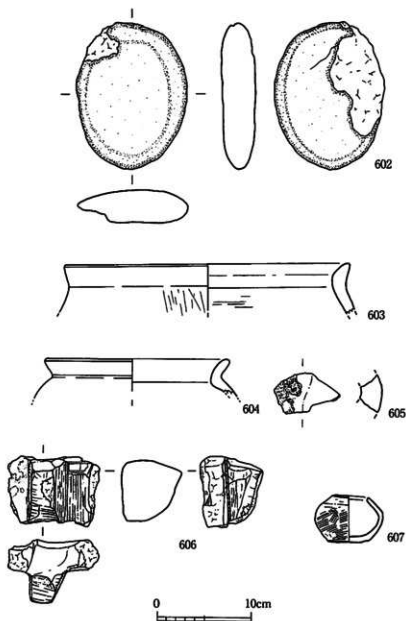
577は甕の口縁部片である。口縁部の直下には1本の凸帯を巡らせている。578は外来系の甕である。579は在地系甕の脚台である。580から588は壺である。580は壺口縁部の破片である。頸部に凸帯を巡らせている。581は小さな二重口縁壺で、頸部には刻目を配し、胴部には粗い叩き目を施している。582は破片である。583は壺口縁部である。頸部には刺突文を配している。584は土師質の短頸壺の破片である。585はE-7区出土の553と同一個体の可能性もある。586は頸部から少し間隔をもって凸帯が巡っている。587は壺の底部である。588も壺の底部であるが、底部にヘラ描きで丸に十文字状の施文がある。589は古式土師器の高杯である。口縁部が大きく、杯部が小さい。590も高杯である。口縁部が欠損している。591は脚台の破片である。592と593は鉢である。593は底部のみで僅かに高台風に底部を作っており、指痕が確認できる。593は小型の鉢である。594は鉢の破片で、片口である。595は小型の瓶である。596は黒色土器である。口縁部と高台を欠いている。内面はヘラ研磨が見られる。597と598



第67図 遺構に伴わない遺物実測図⑨



第68図 遺構に伴わない遺物実測図⑩



第69図 遺構に伴わない遺物実測図⑪

は把手である。598は刺突文を3面に施している。ジョッキ形土器に装着するよう、基部に突起を作っている。

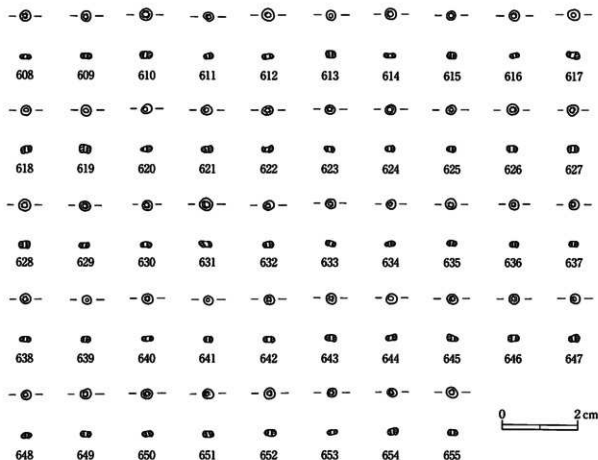
599は壺の口縁部片である。櫛描きによる半円模様があり、大溝出土の273に類似している。600は袋状口縁部のミニチュアである。601もミニチュアで脚部である。602は熱によって紅色に変色している碟である。603は縄文土器である。深鉢の口縁部片である。604は土師器の甕である。表面に赤色顔料を塗っている。605は甕の羽口片である。先端部は熱により溶変している。606は

滑石製石鍋の破片である。周囲を加工し転用されている。

607は小型の無頸壺である。この壺の近くからガラス製小玉がまとまって出土した。608から645はガラス製小玉である。

Ⅳ まとめ

今回の調査では、遺構が確認できたものとして、弥生時代の溝が1号溝、2号溝、4号溝の3本。古墳時代の溝として3号溝。中世の溝として大溝。



第70図 遺構に伴わない遺物実測図⑫

古墳の築造に関連して周溝を検出することができた。2号溝と4号溝はほぼ平行して弧を描いている。

住居跡は4号溝の内側に集中するような配置で検出されたが、調査体制の不備からしっかりとした遺構検出が出来なかったことが悔やまれる。従って、住居跡としたものの中には、壁や柱穴、炉跡などが確認されないうまま、硬化面や遺物出土状況から判断して住居跡としたものも見られた。

このため、住居跡としてふさわしくないかもしれないが、そのまま住居跡として取り扱った。

遺物として特筆すべきものは、赤色顔料の生産に関する資料である。石杵としての機能性を有する石器は、1号住居跡出土の16、5号住居跡出土の48、4号溝出土の270、大溝出土の290、周溝出土の331の5点が確認された。臼もしくは容器としての機能性を持った土器は、1号住居跡出土の

14、4号溝出土の213、周溝出土の299、309がある。遺構に伴わない遺物も写真図版 PL40に掲載した。

赤色顔料は今後科学的な調査を行う必要もあるが、最低限、朱であるかベンガラであるかの見極めをする必要がある。

方保田東原遺跡では、米の生産や、菊池川水系における漁労や水運など、多くの要素が複雑に絡み合っており、人々の生活が成り立っていたことは事実である。加えて経済的な優位性を誇示できるものが、赤色顔料の生産であったろうと考えられる。

このため、権力の象徴とされる青銅器が方保田東原遺跡から集中して出土していることは、他の地域より優位な立場にあったことを物語っている。

方保田東原遺跡における青銅器の出土数は平成20年の段階で巴形銅器1点、鏡10点、銅鏃9点と県内最多である。

周辺の遺跡でも菊池市小野崎遺跡では、鏡10点、銅鉤1点、銅子片1点が出土しており、菊池市台遺跡からは鏡と貨泉が出土している。

これらの遺跡は、菊鹿平野を中心に一辺4kmの三角形をなすように位置しており、この範囲での弥生時代終末期の青銅器出土数としては全国的にも密度の高い集中地帯であるとの指摘も見られる。xiii

その中でも、古墳時代前期まで継続して集落が営まれたのは方保田東原遺跡だけである。

このことから、方保田東原遺跡の価値を理解することが出来るのではなかろうか。

-
- i 「下井手・前田遺跡」熊本県文化財調査報告第70集 1984 熊本県教育委員会
 - ii 第1次調査で22号住居跡から出土した遺物に類似点が多い。「方保田東原遺跡」山鹿市立博物館調査報告書 第2集 1982 山鹿市教育委員会
 - iii 「方保田東原遺跡IV」山鹿市文化財調査報告書第14集 2001 山鹿市教育委員会
 - iv SD09出土遺物。「南大門遺跡」玉名市文化財調査報告書 第8集 平成12年 玉名市教育委員会
 - v 註iiiに同じ
 - vi 註iiiに同じ
 - vii 註iiiに同じ
 - viii 「方保田東原遺跡(9)」山鹿市文化財調査報告書第6集 2008 山鹿市教育委員会
 - ix 「方保田東原遺跡(9)」山鹿市文化財調査報告書第6集 2008 山鹿市教育委員会
 - x 【ヘラ記号をもった弥生式土器の存在について】「方保田東原遺跡」山鹿市立博物館調査報告書第2集 1982 山鹿市教育委員会
 - xi 「方保田東原遺跡(9)」山鹿市文化財調査報告書第6集 2008 山鹿市教育委員会
 - xii 「中皆本遺跡」山鹿市文化財調査報告書 第3集 2007 山鹿市教育委員会
 - xiii 南 健太郎「前漢鏡の破鏡とその拡散形態」『王権と武器と信仰』同成社 2008

あとがき

調査に関して調整段階では、建設業者が遺構に影響の無いような工法が取れたにもかかわらず、県文化課の指導では永久構造物であるとの理由から発掘調査をするよう行政指導があった。

平成2年当時、小さな自治体の職員という立場から「遺跡を壊さずに開発が進められれば地域や業者にとって、この上ないことである。」と考えていたが、あえて県からは発掘調査を指示された背景には、市町村に専門調査員の確保と共に、調査体制の強化を狙ったことであろうと理解した。

しかしながら、山鹿市では財政状況に鑑み職員の増員は考えられず、一般職員を動員しての調査となってしまった。結果的には国庫補助を得て近くを調査していたこともあり、掛け持ちで調査を強行することとなった。

このため、調査員のみならず博物館職員に業務の負担を強いる結果となった。

文化財保護の立場から遺跡を調査し、広く市民に還元することは当然の事として理解しているが、発掘調査自体が遺跡破壊であることの認識に立てば、遺跡を調査せずに、保存できる事も考える必要があろう。

山鹿市では昭和53年(1978)に博物館が建設されて以来、文化財行政もあわせて行ってきた、このため展示のための調査や、展示作業を毎年数回行っており、その傍らで発掘調査を実施してきた。平成4年度には文化課が創設されたが、学芸員と調査員が兼務となり、実質的には博物館で実施して来た経緯がある。

県下の博物館を有している自治体で、博物館が発掘調査を行っているところは無く、唯一我々のみであろう。このような事態を改善すべく検討を重ねたが、現状では本来の姿には近づけないのが実情である。

遺物觀察表

第1表 遺物観察表その1

番号	地区	建物番号	路線	形式	口数	容量	色調	観土・鑑入者	観感	外観特徴	内装特徴	写真
001	E-3	1住	106	1階・2階	不明	不明	灰褐色 10YR5/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナヘラ後ナナ・ナナヘラ後ナナ	ヘラタズリ後ナナ・ヘラタズリ	有
002	E-3	1住	122	1階・2階	(13)	不明	灰白色 10YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナヘラ後ナナ・ナナ・ナナ	ヨコナナ・細間張ヨコナナ	有
003	E-3	1住	104	2階	不明	不明	にがい青灰色 10YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ヘラタズリトの・目の廻り込み	無
004	E-3	1住	108	2階	10.6	6.3-4.6	にがい青灰色 10YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ヨコナナ	ヨコナナ・ナナヘラ後ナナ	有
005	E-3	1住	112	2階	不明	不明	赤褐色 10YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ヨコナナ・ナナ・ヨコナナ・ナナ	ナナヘラ後ヨコナナ	有
006	E-3	1住	406	1階・2階	(13.4)	12.35	赤褐色 10YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ヨコナナ・ナナ・ヨコナナ・ナナ	ヨコナナ・ナナ・ナナ	有
007	E-3	1住	406	1階・2階	(24.4)	不明	暗赤褐色 5YR5/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ヨコナナ・ナナ・ナナヘラ後ヘラミ ナナ	ヨコナナ・ナナヘラ後ナナ・ナナ	有
008	E-3	2住	130	2階	不明	不明	赤褐色 10YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナヘラ後ヨコナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ヨコナナ	有
009	E-3	1住	122	2階	不明	不明	赤褐色 10YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ	砂張・ナナ	有
010	E-3	6	2	2階	不明	不明	灰白色 10YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ヘラタズリ後ナナ・ナナ	ヘラタズリ後ナナ・ヨコナナ	有
011	E-3	6	1	W-3	5.7	7.3	赤褐色 10YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ	ナナ	有
012	E-3	7	1	W-3	不明	不明	赤褐色 5YR5/2	-	良	赤褐色	-	有
013	E-3	8	2	1住	不明	不明	灰褐色	-	-	赤褐色	-	有
014	E-3	6	4	1住	不明	不明	にがい青灰色 10YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ヘラタズリ	ヘラタズリ	有
015	E-3	6	3	1住	不明	不明	赤褐色 10YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ	ナナ	有
016	E-3	8	1	1住	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	-	-	-	-	有
017	E-3	9	1	5-28	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	-	-	-	-	有
018	E-3	10	1	5-16	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	-	-	-	-	有
019	E-3	11	1	211	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ヨコナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
020	E-3	11	2	214	不明	不明	にがい青灰色 10YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ヘラタズリ	有
021	E-3	12	1	214	不明	不明	にがい青灰色 7.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ	ヘラタズリ	有
022	E-3	12	2	214	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ	ナナ	有
023	E-3	12	4	214	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ	有
024	E-3	12	3	214	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ	有
025	E-3	14	2	214	不明	不明	赤褐色 10YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ	有
026	E-3	14	1	214	不明	不明	にがい青灰色 10YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ	有
027	E-3	13	2	214	不明	不明	赤褐色 5YR5/2	-	-	-	-	有
028	E-3	17	2	W-3	不明	不明	赤褐色 7.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ヨコナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ヨコナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
029	E-3	15	2	W-3	不明	不明	赤褐色 10YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ヨコナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ヨコナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
030	E-3	3住	134	2階	不明	不明	赤褐色 10YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
031	E-3	3住	134	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
032	E-3	3住	134	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
033	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
034	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
035	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
036	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
037	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
038	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
039	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
040	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
041	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
042	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
043	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
044	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
045	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
046	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
047	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
048	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
049	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
050	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
051	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
052	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
053	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
054	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
055	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
056	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
057	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
058	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
059	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
060	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
061	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
062	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
063	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
064	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
065	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
066	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
067	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
068	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
069	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
070	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
071	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
072	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
073	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
074	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
075	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
076	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
077	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
078	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
079	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
080	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
081	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
082	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
083	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
084	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
085	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
086	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
087	E-3	3住	135	2階	不明	不明	赤褐色 2.5YR2/2	赤土・鑑入者 長石・石 25坪	良好	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ・ナナ	有
088	E-3	3住	135									

第2表 遺物観察表その2

[illegible]

第3表 遺物観察表その3

番号	地区	遺物名	遺物番号	部材	口徑	高さ	色調	出土・埋入部	地蔵	外周部	内周部	用途	備考
003	2	E-4	6位	台付鉢	口縁・胴部	(5.2)	不明	赤褐色 2.5YR5/6	良好	ナナハタ後ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	有	・赤褐色(ペンガ)
004	34	6位	232	部付	胴部	(7.3)	不明	にぶい黄褐色 赤褐色 10YR7/4	良好	ナナハタ	ヨコナデ・ヨコナデ・胴部・ヨコナデ	有	・胴部が深い
005	36	8位		台付鉢	胴部・胴部	(4.0)	不明	にぶい黄褐色 赤褐色 10YR7/2	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	
006	38	2	W-3	9位	126	鉢	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ヨコナデ	鉢部・ヨコナデ	有	
007	38	1	W-3	9位	124	鉢	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	良好	ナナハタ	ヘラミガキ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
008	37	3	W-3	9位	129	鉢	33.6	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
009	38	3	W-3	146	部付	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
070	38	4	W-3	9位	21	部付	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
071	38	5	W-3	9位	21	部付	不明	赤褐色 角四石 7.5YR7/1	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
072	40	2	W-3	11位		不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
073	39		11位	146	鉢	17.7	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
074	40	1		11位		不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
075	42		11位		不明	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
076	41	1		11位	146	土器	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
077	41	2		11位		不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
078	41	3		11位		不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
079	43	1	W-3		不明	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
080	45	3		12位	不明	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
081	43	2	W-6	12位	不明	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
082	45	1		12位	不明	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
083	44	1	W-6	12位	不明	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
084	44	2	W-6	12位	不明	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
085	45	2		12位	不明	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
086	44	4	W-6W-1	12位	不明	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
087	44	5	W-6	12位	不明	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
088	44	3	W-6	12位	不明	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
089	47	W-1-2	1号溝	335	不明	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
090	46	E-1	1号溝	286	不明	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
091	259	5	1号溝		不明	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
092	259	2	1号溝		不明	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり
093	61	E-1	2号溝		不明	不明	不明	赤褐色 角四石 10YR5/2	良好	ナナハタ	ナナハタ・ナナハタ・ナナハタ	有	・ナナハタの底にナナハタの跡あり

第4表 遺物観察表その4

[illegible]

第5表 遺物観察表その5

番号	遺物名	形状	材質	用途	口徑	重量	色澤	出土・埋入地	地域	外周図	内周図	図説	備考
125	67	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
126	67	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
127	71	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
128	69	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
129	70	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
130	73	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
131	73	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
132	73	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
133	75	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
134	72	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
135	77	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
136	77	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
137	76	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
138	76	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
139	74	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
140	76	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
141	75	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
142	75	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
143	75	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
144	77	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
145	76	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
146	78	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
147	79	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
148	80	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
149	81	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
150	82	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
151	83	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
152	85	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
153	85	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
154	85	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている
155	89	2号溝	土	口鉢	不明	不明	良好	ナデ	ナデ		ナデ	無	・ベンガラが施されている

第6表 遺物観察表その6

[illegible]

第7章 遺物観察とその7

番号	駅名	路線	地区	運賃備考	距離	単位	口数	駅高	色調	動土・進入物	構成	外周問題	内周問題	旧屋	備考
94	W-2-2	4号線	289	要	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	にがいり色 10YR7/3	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	タチノハナ後ナマコナサ	都立・ニココナ後ニココナサ	有	・外周部通行可
105	E-2-2	4号線	270	駅前付発	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	2.5YR7/4 赤褐色	角石 長石 赤褐色 型付	良好	タチノハナ・ニココナサ・ナマコナサ	ナマコナサ・ニココナサ・ナマコナサ	有	・外周部は狭小から設置多い、外周部にかんがへてあり、水分不足下
106	W-	5号線(北門)	320	駅前付発	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	にがいり色 10YR7/3	長石 型付	良好	ヘラト	コンクリート・ヘラト・ヘラト・ヘラト	有	
134	E-2-2	4号線	要	要	駅前	(不明)	不明	不明	色調不明 10YR7/3	角石 長石 石灰 赤褐色 型付	良好	ナマコナサ後ナマコナサ	ナマコナサ	有	
141	W-2-2	4号線	駅前付発	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	不明	にがいり色 10YR7/3	角石 長石 石灰 赤褐色 型付	良好	ナマコナサ・ニココナサ	ヘラトズリ・鉄製・ナマコナサ	無	
182	W-2-2	4号線	452	駅前付発	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	にがいり色 10YR7/3	角石 長石 石灰 赤褐色 型付	良好	ナマコナサ・ニココナサ	ヘラト・ニココナサ	無	
193	W-2-2	4号線	323	駅前付発	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	にがいり色 10YR7/3	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	タチノハナ・ニココナサ後ニココナサ	ニココナサ	有	
194	W-2-2	4号線	466	駅前付発	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	にがいり色 10YR7/3	角石 長石 石灰 赤褐色 型付	良好	タチノハナ・ナマコナサ	ニココナサ	有	
195	W-2-2	4号線	456	駅前付発	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	にがいり色 10YR7/3	角石 長石 石灰 赤褐色 型付	良好	タチノハナ・ナマコナサ	鉄製・ニココナサ	有	
196	W-2-2	4号線	322	駅前付発	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	色調不明 10YR7/3	角石 長石 石灰 赤褐色 型付	良好	タチノハナ・ナマコナサ	タチノハナ・ナマコナサ	無	
197	E-2-2	4号線	要	要	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	にがいり色 10YR7/3	長石 型付	良好	ナマコナサ・ナマコナサ	ナマコナサ	有	・外周部通行可
198	E-2-2	4号線	296	要	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	にがいり色 10YR7/4	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
199	E-2-2	4号線	285	要	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	にがいり色 10YR7/3	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
200	W-2-2	4号線	275	要	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	にがいり色 10YR7/3	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
231	W-2-2	4号線	497	要	駅前・駅前	(不明)	14.7	14.7	にがいり色 10YR7/3	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
202	E-2-2	4号線	287	要	駅前・駅前	(不明)	14.1	20.6	にがいり色 10YR7/3	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
203	W-2-2	4号線	307	要	駅前・駅前	(不明)	10.7	不明	色調不明 10YR7/4	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ナマコナサ後ナマコナサ	ナマコナサ	有	・外周部通行可
204	W-2-2	4号線	307	要	駅前・駅前	(不明)	13.2	17.5	にがいり色 10YR7/3	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
205	W-2-2	4号線	278	要	駅前・駅前	(不明)	22.5	不明	にがいり色 10YR7/3	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
206	E-2-2	4号線	265	要	駅前・駅前	(不明)	22.5	不明	にがいり色 10YR7/3	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
207	E-2-2	4号線	297	要	駅前・駅前	(不明)	18.5	不明	にがいり色 10YR7/3	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
208	W-2-2	4号線	311	要	駅前・駅前	(不明)	22.2	不明	にがいり色 10YR7/3	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
209	W-2-2	4号線	262	要	駅前・駅前	(不明)	22.2	不明	にがいり色 10YR7/3	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
210	E-2-2	4号線	要	要	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	色調不明 2.5YR7/6	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ヘラト	ニココナサ	有	・外周部通行可
211	W-2-2	4号線	315	要	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	にがいり色 10YR7/3	長石 石灰 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
212	E-2-2	4号線	280	要	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	にがいり色 10YR7/3	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
213	E-2-2	4号線	284	要	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	にがいり色 10YR7/3	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
214	W-2-2	4号線	284	要	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	にがいり色 10YR7/4	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
215	E-2-2	4号線	268	要	駅前・駅前	(不明)	不明	不明	にがいり色 10YR7/3	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
216	W-2-2	4号線	403	要	駅前・駅前	(不明)	9.4	10.2	にがいり色 2.5YR7/2	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ・ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可
217	E-2-2	4号線	小田原	小田原	駅前・駅前	(不明)	11.4	7.6	にがいり色 5YR7/6	赤褐色 角石 長石 赤褐色 型付	良好	ニココナサ	ニココナサ	有	・外周部通行可

第8表 遺物観察表その8

番号	国産品	産地	製造者名	形態	部位	口数	酸度	色調	熟し・色入等	硬度	外国産品	外国産品	備考
218	109	4号種	254	塊	左部	15.2	40.5	に強い褐色 IOY67/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ヨコハマ・ナナハク後ヨコハマ・ナナハク・ナナハク	ヨコハマ・ナナハク後ヨコハマ・ナナハク・ナナハク	有
219	108	4号種	475, 470	塊	門縁・底部	(14.3)	40.7	淡茶褐色 IOY68/3	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ヨコハマ・ナナハク後ヨコハマ・ナナハク・ナナハク	ヨコハマ・ナナハク後ヨコハマ・ナナハク・ナナハク	有
220	113	1	289, 275	塊	左部	13.9	不明	に強い褐色 IOY68/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
221	111	1	307	塊	門縁・脚部	14.8	不明	に強い褐色 IOY68/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ヨコハマ・ナナハク	ヨコハマ・ナナハク	有
222	112	4号種	375	塊	門縁・口部	(16)	不明	に強い褐色 IOY68/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ヨコハマ・ナナハク	ヨコハマ・ナナハク	有
223	104	4号種	318	塊	底部・底部	(不明)	不明	淡褐色 IOY67/4	長石 石膏	良好	ヨコハマ・ナナハク	ヨコハマ・ナナハク	有
224	124	4号種	650, 470	塊	門縁・底部	(13.8)	17.2	に強い褐色 IOY68/1	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク後ヨコハマ・ナナハク・ナナハク	ナナハク後ヨコハマ・ナナハク・ナナハク	有
225	121	1	461	塊	左部	14.5	15.1	淡茶褐色 IOY68/3	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ヨコハマ・ナナハク	ヨコハマ・ナナハク	有
226	122	2号種	297	塊	口部	13.2	14.3	に強い褐色 IOY67/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ヨコハマ・ナナハク	ヨコハマ・ナナハク	有
227	123	2	475, 464	塊	門縁・脚部	(14.2)	不明	に強い褐色 IOY67/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ヨコハマ・ナナハク	ヨコハマ・ナナハク	有
228	137	2	不明	小型塊	口部	(9)	不明	に強い褐色 IOY68/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
229	138	3	不明	塊	口部	(16.4)	不明	に強い褐色 IOY68/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
230	138	2	不明	塊	口部	(11.6)	8.3	淡茶褐色 IOY68/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
231	134	1	不明	71.1	口部	19.8	11	に強い褐色 IOY68/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
232	136	1	464, 465	塊	口部	23.6	16.4	に強い褐色 IOY68/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
233	139	4号種	不明	塊	口部	(28)	不明	に強い褐色 IOY67/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ヨコハマ・ナナハク	ヨコハマ・ナナハク	有
234	138	1	462, 162	塊	門縁・脚部	(25.6)	不明	に強い褐色 IOY67/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
235	127	1	266	塊	口部	22.4	不明	淡茶褐色 IOY68/3	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
236	141	1	不明	塊	口部	(28)	不明	に強い褐色 IOY68/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
237	127	1	33	塊	口部	不明	不明	に強い褐色 IOY68/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
238	128	3	282	塊	底部・脚部	(15.4)	不明	淡茶褐色 IOY68/3	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
239	126	2	475, 465	塊	脚部	(不明)	不明	に強い褐色 IOY68/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
240	125	4号種	459	塊	脚部・脚部	(18.7)	13.9	に強い褐色 IOY67/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
241	140	2号種	不明	塊	脚部	(不明)	不明	淡茶褐色 IOY68/3	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
242	127	2	460	塊	口部	不明	不明	淡茶褐色 IOY68/3	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
243	124	3	259	塊	底部・脚部	(18.4)	不明	に強い褐色 IOY68/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
244	124	2	4号種	塊	底部・脚部	(18.7)	13.6	に強い褐色 IOY68/2	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ナナハク	ナナハク	有
245	117	4号種	475, 470, 464	台付体	口部	10.1	17.1	に強い褐色 IOY68/3	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ヨコハマ・ナナハク後ヨコハマ・ナナハク	ヨコハマ・ナナハク後ヨコハマ・ナナハク	有
246	117	1	不明	台付体	口部	10.3	不明	に強い褐色 IOY68/4	赤褐色 角四行 長石 石膏	良好	ヨコハマ・ナナハク後ヨコハマ・ナナハク	ヨコハマ・ナナハク後ヨコハマ・ナナハク	有
247	118	3	278	台付体	底部・脚部	不明	不明	不明	不明	不明	ナナハク	ナナハク	有
248	118	1	229	台付体	左部	12.6	7.2	7.5Y67/6	角四行 長石	良好	ナナハク後ヨコハマ・ナナハク	ナナハク後ヨコハマ・ナナハク	有

第9表 遺物観察表その9

番号	種別	状況	地区	遺物名	遺物番号	部材	色調	土・人・物	検査	外観記載	内観記載	用途	備考
249	130	1	E-2-2	4号墳	202	台付鉢	114-1-100	赤褐色 角質石 灰	良好	目コナデ・チタハク・ヘラ・ミガキ 目コナデ	目コナデ・ヘラ・ミガキ・目コナデ 目コナデ	有	無
250	135	2	E-2	4号墳		台付鉢	114-1-100	赤褐色 灰 雲母	良好	ヘラ・ミガキ・目コナデ	ヘラ・ミガキ	有	・黒く磨きついている、丁鍔の磨損
251	130	2	E-2	4号墳	55	台付鉢	114-1-100	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ・チタハク・ナデ	ナデ・ミガキ	有	無
252	130	1	4号墳	300	部付	114-1-100	114-1-100	赤褐色 角質石 灰	良好	目コナデ・ナデ・ミガキ・目コナデ ナデ・ミガキ・目コナデ	ナデ・ミガキ・目コナデ ナデ・ミガキ・目コナデ	有	有
253	130	2	4号墳	305	部付	114-1-100	114-1-100	赤褐色 角質石 灰	良好	目コナデ・ナデ・ミガキ・目コナデ ナデ・ミガキ・目コナデ	目コナデ・ナデ・ミガキ・目コナデ ナデ・ミガキ・目コナデ	有	有
254	129	1	E-2-2	4号墳	208	部付	114-1-100	赤褐色 角質石 灰	良好	目コナデ・ナデ・ミガキ・目コナデ ナデ・ミガキ・目コナデ	目コナデ・ナデ・ミガキ・目コナデ ナデ・ミガキ・目コナデ	有	有
255	129	2	E-2-2	4号墳	271	部付	114-1-100	赤褐色 角質石 灰	良好	目コナデ・ナデ・ミガキ・目コナデ ナデ・ミガキ・目コナデ	目コナデ・ナデ・ミガキ・目コナデ ナデ・ミガキ・目コナデ	有	・割れた後に埋没?
256	128	2	E-2-2	4号墳	203	部付	114-1-100	赤褐色 角質石 灰	良好	目コナデ・ナデ・ミガキ・目コナデ ナデ・ミガキ・目コナデ	目コナデ・ナデ・ミガキ・目コナデ ナデ・ミガキ・目コナデ	有	・全部は少し歪、割れた後に埋没?
257	128	3	4号墳	277	部付	114-1-100	114-1-100	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ	ナデ	有	無
258	131	1	W-2-2	4号墳	231	部付	114-1-100	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ	ナデ	有	・長さ10.2cm
259	132	1	E-2	4号墳	226	土器	114-1-100	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ	ナデ	有	無
260	144	4号墳	E-2	4号墳	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
261	141	4号墳	E-2	4号墳	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
262	141	3	E-2	4号墳	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
263	143	3	W-2	4号墳	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
264	143	2	W-2	4号墳	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
265	143	1	W-2	4号墳	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
266	132	2	E-2-2	4号墳	23	部付	114-1-100	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ	ナデ	有	・長さ332.7cm
267	131	4	4号墳	27	部付	114-1-100	114-1-100	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ	ナデ	有	・長さ168.7cm
268	131	2	4号墳	24	部付	114-1-100	114-1-100	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ	ナデ	有	・長さ30.5cm
269	131	3	4号墳	25	部付	114-1-100	114-1-100	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ	ナデ	有	・長さ54cm
270	145	1	E-2	4号墳	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
271	145	2	E-2	4号墳	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
272	203	1	東照	大塚	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
273	203	4	西	大塚	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
274	203	2	東照	大塚	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
275	203	3	北	大塚	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
276	206	3	西ノ西	大塚	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
277	206	2	東照	大塚	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
278	204	2	東照	大塚	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
279	204	1	北照	大塚	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明

第10表 遺物調査表その10

番号	調査年度	地区	遺物番号	形状	口径	器底	色調	出土・埋入物	検定	外観調査	内観調査	図説	備考
280	204	4	西郷	鉢	114-胴部	(22.9)	灰白色 10YR7/1	角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
281	204	3	北郷	鉢	114-胴部	(22.7)	灰褐色 7.5YR5/4	赤褐色 長石 石灰	良好	ナナ	ナナ	有	
282	205	1	南郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ナナ	ナナ	有	
283	205	1	西郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
284	205	2	東郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ナナ	ナナ	有	
285	205	4	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
286	206	1	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
287	206	2	南郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
288	206	3	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
289	210	1	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
290	210	3	西郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
291	210	2	西郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
292	207	1	南郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
293	207	2	南郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
294	210	4	西中北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
295	147	1	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
296	147	4	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
297	147	2	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
298	146	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有		
300	146	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有		
301	159	1	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
302	157	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有		
303	162	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有		
304	156	1	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
305	156	2	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
306	164	2	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
307	159	2	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
308	194	2	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	
309	183	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有		
310	163	4	北郷	鉢	114-胴部	(16.6)	7.5YR7/4	赤褐色 角四行 長石 石灰	良好	ヨコハナ	ヨコハナ	有	

第11表 遺物観察表その11

番号	図面	統番	地区	遺物名	遺物番号	形状	部位	口部	部材	色調	土・土人	特徴	外装図	内装図	注	備考
311	103	3	W-8-3	銅線	403	環	底盤	(不明)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部にそとに2つあり、底部に もそれらもものあり
312	105	1	W-8-3	銅線	404	環	口縁・側部	12	不明	におい混濁色 7.5YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
313	106	1	E-7	銅線	405	環	口縁	(14)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
314	105	2	W-8-3	銅線	406	環	口縁・側部	(6.9)	不明	におい混濁色 10YR7/2	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
315	107	1	W-8-3	銅線	407	環	口縁・側部	10	不明	におい混濁色 10YR7/2	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
316	105	1	W-8-3	銅線	408	環	口縁・側部	(6.7)	不明	におい混濁色 10YR7/2	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
317	106	1	W-8-3	銅線	409	環	口縁・側部	(11)	不明	におい混濁色 10YR7/2	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
318	107	1	E-8	銅線	410	環	口縁・側部	(6.4)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
319	107	2	E-7	銅線	411	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
320	105	4	W-8-3	銅線	412	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
321	106	3	E-8	銅線	413	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
322	107	1	W-8-3	銅線	414	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
323	108	5	E-9	銅線	415	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
324	107	4	E-9	銅線	416	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
325	102	4	W-8-3	銅線	417	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
326	201	1	W-8-3	銅線	418	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
327	108	1	W-8-3	銅線	419	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
328	202	2	W-8-3	銅線	420	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
329	101	2	W-7	銅線	421	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
330	178	1	W-9	銅線	422	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
331	101	1	W-9-2	銅線	423	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
332	202	1	W-8-3	銅線	424	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
333	178	2	W-8	銅線	425	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
334	106	3	W-8	銅線	426	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
335	102	2	W-8	銅線	427	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
336	106	2	W-8	銅線	428	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
337	151	2	E-9	銅線	429	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
338	154	1	E-9	銅線	430	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
339	106	2	E-7, W-7	銅線	431	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
340	152	2	E-8	銅線	432	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に
341	150	1	W-9	銅線	433	環	口縁・側部	(14.5)	不明	におい混濁色 10YR7/3	赤褐色 長石	ナナハナ	ナナハナ	ナナハナ	有	・内部に

第12表 通物価調査表その12

番号	品名	単位	調査年	時期	単位	口価	価格	色調	素材・加工	構成	外装	内装	用途	備考
342	149	W-9	1988	156	英	1148-1088	不明	浅黄褐色 7.5YR7/4	角四角 長尺	良好	ナデ	ナデ・ヘラタズリ	無	有
343	152	1 E-9	1988	188	英	1148-1088	不明	赤褐色 10YR7/2	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・タタハナ	ヨコナデ・ヘラタズリ	無	有
344	153	2 E-7	1988	82	英	1148-1088	不明	灰褐色 7.5YR7/4	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・ナタマナ	ヨコナデ・ヘラタズリ	無	有
345	163	2	1988	82	英	1148-1088	不明	灰褐色 10YR7/4	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・タタハナ	ヨコナデ・ヘラタズリ	無	有
346	150	2 E-9	1988	175	英	1148-1088	不明	にがい褐色 2.5YR7/4	角四角 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・タタハナ	ヨコナデ・ヘラタズリ	無	有
347	155	2 E-7	1988	101	英	1148-1088	不明	にがい褐色 10YR7/4	角四角 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・タタハナ	ヨコナデ・ヘラタズリ	無	有
348	152	4 W-9	1988	164	英	1148-1188	不明	褐色 7.5YR7/6	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・タタハナ	ヨコナデ・ヘラタズリ	無	有
349	152	3 E-9	1988	188	英	1148-1088	不明	赤褐色 2.5YR7/6	角四角 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・タタハナ	ヨコナデ・ヘラタズリ	無	有
350	151	1 E-9	1988	174	英	1148-1188	不明	赤褐色 2.5YR7/6	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・タタハナ	ヨコナデ・ヘラタズリ	無	有
351	156	1 E-8-2	1988	366	英	1148-1088	不明	赤褐色 5YR7/6	長尺 石炭 2倍	良好	ナデ・ヘラタズリ・ナデ・ナタマナ	ナデ・ヘラタズリ	無	有
352	162	1988	82	英	1148-1088	不明	赤褐色 5YR7/6	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・ナタマナ	ヨコナデ・ナタマナ	ヨコナデ・ヘラタズリ	無	有
353	155	1 E-7-2	1988	426	英	1148-1088	不明	赤褐色 2.5YR7/6	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・ナタマナ・ヨコナデ・ナタマナ	ヨコナデ・ヘラタズリ	無	有
354	162	2 E-9	1988	186,184	英	1148-1088	不明	赤褐色 2.5YR7/4	角四角 長尺 石炭	良好	ナデ・ナタマナ	ナデ・ヘラタズリ	無	有
355	153	1 E-7	1988	71	英	1148-1088	不明	赤褐色 7.5YR7/4	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・ナタマナ・ナタマナ	ヨコナデ・ヘラタズリ	無	有
356	164	3 E-9	1988	188	英	1148-1088	不明	赤褐色 10YR7/4	角四角 長尺 石炭	良好	ナデ・タタハナ	ナデ・ヘラタズリ	無	有
357	155	3 E-7	1988	98	英	1148-1088	不明	にがい褐色 7.5YR7/6	角四角 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・タタハナ	ヨコナデ・ヘラタズリ	無	有
358	165	1 E-2-2	1988	409	英	1148-1088	不明	赤褐色 2.5YR7/6	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・タタハナ	ヨコナデ・ヘラタズリ	無	有
359	165	2 E-7	1988	98	英	1148-1088	不明	赤褐色 2.5YR7/6	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	有
360	163	2 W-8-2	1988	384	英	1148-1088	不明	にがい褐色 10YR7/4	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・ヘラタズリ	ヨコナデ・ヘラタズリ	無	有
361	167	6	1988	384	英	1148-1088	不明	赤褐色 (不明)	長尺 石炭	良好	ナデ	ナデ・一辺長10cmのハナ	無	有
362	166	2 E-8-6	1988	384	英	1148-1088	不明	赤褐色 7.5YR7/6	赤褐色 長尺 石炭	良好	ナデ・ナタマナ	ナデ・ナタマナ	無	有
363	176	1 E-9	1988	183	英	1148-1088	不明	赤褐色 2.5YR7/6	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・ナタマナ	ヨコナデ・ナタマナ	無	有
364	192	1 赤褐色	1988	384	英	1148-1088	不明	赤褐色 7.5YR7/4	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・ナタマナ	ヨコナデ・ナタマナ	無	有
365	175	W-9	1988	159	英	1148-1088	不明	赤褐色 7.5YR7/4	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・ナタマナ	ヨコナデ・ナタマナ	無	有
366	180	W-9	1988	166	英	1148-1088	不明	赤褐色 7.5YR7/4	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・ナタマナ	ヨコナデ・ナタマナ	無	有
367	177	W-9	1988	158	英	1148-1088	不明	赤褐色 7.5YR7/4	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	有
368	176	2 E-7-2	1988	430	英	1148-1088	不明	赤褐色 7.5YR7/4	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	有
369	176	3 E-9	1988	10	英	1148-1088	不明	赤褐色 10YR7/4	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	有
370	167	3 E-7	1988	97	英	1148-1088	不明	赤褐色 7.5YR7/4	赤褐色 長尺 石炭	良好	ナデ	ナデ	無	有
371	169	5 赤褐色	1988	384	英	1148-1088	不明	赤褐色 7.5YR7/4	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	有
372	169	3 E-7	1988	72	英	1148-1088	不明	赤褐色 10YR7/4	赤褐色 長尺 石炭	良好	ヨコナデ・ヘラタズリ	ナデ	無	有

第13表 遺物観察表その13

番号	地区	地番	遺物番号	形状	部位	口径	高さ	色澤	胎土・底人物	構成	外面図説	内面図説	図説	備考
373	189	1	南ウイン	底	口縁・底部	(0.8)	4.1	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ヘラミガキ・ヘラミガキ	ミコナデ・ヘラミガキ	無	・底の面をみても悪い
374	189	2	E-9	底	口縁・底部	11.3	2.4	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ	ミコナデ	無	
375	189	3	E-9	底	口縁・底部	13.4	3.8	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ・赤褐色	ミコナデ	無	
376	189	4	E-9	底	口縁・底部	12.4	4	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ	ミコナデ	有	
377	189	5	E-9	底	口縁・底部	(10)	3.8	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ	ミコナデ	有	
378	189	6	E-9	底	口縁・底部	(12)	3.1	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ・赤褐色	ミコナデ	無	
379	171	5	W-9	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ	ナデ	無	
380	182	3	南	底	口縁・底部	(11.2)	4.75	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ・同軸ナデ	ミコナデ・ナデ	有	・底の面をみても悪い
381	188	4	南	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ・底・内い・底の底面	ミコナデ・底ナデ	無	
382	189	1	南	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ・ヘラミガキ	ナデ	無	
383	190	4	南	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ・同軸ヘラミガキ	ナデ	無	
384	191	1	南	底	口縁・底部	12.3	1.9	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ	ミコナデ	無	
385	188	6	南・橋	底	口縁・底部	8	1.8	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ・底部同軸表図	ミコナデ	無	
386	191	4	南	底	口縁・底部	7.8	1.5	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ・同軸表図	ミコナデ・ナデ	無	
387	198	5	南・橋	底	口縁・底部	18.2	1.2	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ・底部同軸表図	ミコナデ・底ナデ	有	・底の面をみても悪い
388	187	1	南	底	口縁・底部	9	1	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ・底部同軸表図	ミコナデ・底ナデ	有	・底の面をみても悪い
389	171	2	W-7	底	口縁・底部	(11.7)	6.1	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ	ナデ	有	
390	189	2	南	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ	ナデ	有	
391	174	3	E-9	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ	ナデ	有	
392	174	6	E-9	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ	ナデ	有	
393	187	3	南	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ	ミコナデ	無	
394	174	4	E-7	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ	ナデ	有	
395	187	4	南	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ	ミコナデ	有	
396	187	2	南	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ	ミコナデ	有	
397	170	1	南	底	口縁・底部	15.4	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ	ミコナデ	有	
398	187	5	南	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ	ミコナデ	有	
399	171	1	W-7	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ	ナデ	有	
400	191	2	南	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ	ミコナデ	有	
401	174	5	E-7	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ヘラミガキ・ミコナデ	ヘラミガキ	有	
402	174	2	E-7	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ナデ	ナデ	有	
403	189	2	南・橋	底	口縁・底部	(不明)	不明	赤褐色 5Y7/6	赤褐色 角質石 灰	良好	ミコナデ	ミコナデ	有	

第14表 建物調査表その14

番付	建物名	地区	用途番号	用途	部位	口数	構造	色別	敷土・出入口	外壁	内装	床	備考
404	164	1	E-9	179	住宅	15	不明	灰白色 10YR5/2	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・内部柱に黒?付着
405	165	1	E-9	179	住宅	12	4.3	灰白色 5YR5/2	単層敷 石葺	良好	ヨコナデ	ヨコナデ・ヨコナデ・縦断敷切	・内部柱に黒?付着
406	171	3	W-8	9	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR5/4	単層敷 石葺	良好	ナデ	ナデ	・内部柱のみが強い
407	174	7	W-8	2	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR5/4	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・内部柱のみが強い
408	174	1	E-7	179	住宅	不明	不明	にがい・暗色 5YR5/4	角四行 長尺 石葺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
409	189	2	E-6	179	住宅	不明	不明	にがい・暗色 10YR7/4	角四行 長尺 石葺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
410	189	1	E-9	102	住宅	不明	不明	にがい・暗色 10YR7/4	角四行 長尺 石葺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
411	172	5	E-9	102	住宅	不明	不明	にがい・暗色 10YR7/4	角四行 長尺 石葺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
412	190	3	E-6	179	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
413	196	4	E-6	179	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
414	171	4	E-7	179	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
415	165	3	E-7	179	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
416	168	3	E-8, E-9	179	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
417	184	1	E-9	179	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
418	160	1	E-9	179	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
419	154	2	E-7	179	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
420	160	2	E-7	179	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
421	164	2	E-7	179	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
422	164	3	E-6	179	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
423	161	1	E-9	188	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
424	161	2	E-9	176	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
425	166	2	E-9	176	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
426	163	1	E-9	117	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
427	165	2	E-9	117	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
428	165	1	E-9	117	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
429	166	2	E-7-2	117	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
430	172	1	E-7	117	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
431	167	2	E-7	117	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
432	169	4	E-9	152	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白
433	173	2	E-6	11	住宅	不明	不明	にがい・暗色 7.5YR7/6	角四行 長尺	良好	ナデ	ナデ	・壁面は白

第15表 遺物観察表その15

番号	図面	位置	地区	遺物番号	部材	部材	口径	厚さ	色調	出土・掘入部	構成	外国産	内国産	図面	備考
435	173	1	W-9	銅器	170 (銅器)	17.3	4.8		灰色 2.5YR5/1	灰石	良好	ナデ	ナデ	無	
436	173	3	W-9	銅器	152 (銅器)		不明		不明	灰石	良好	ナデ	ナデ	無	
437	172	3	E-8	銅器	166 (銅器)		11.7	4.7	にがい黄褐色 10YR5/3		良好	ナデ	ナデ	無	
438	172	4	E-9	銅器	155 (銅器)		10.8	4.4	にがい黄褐色 5YR5/3		良好	ナデ	ナデ	無	
439	184	1	E-7	銅器	153 (銅器)		10.9	4.3	にがい黄褐色 5YR5/3	灰石 石灰	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	
440	172	2	W-9	銅器	160 (銅器)		15.4	3.5	灰色 5Y5/1	灰石	良好	ナデ	ナデ	無	
441	172	5	W-9	銅器	169 (銅器)		11.3	3	にがい黄褐色 2.5YR5/3	赤褐色 灰石	良好	ナデ	ナデ	無	
442	189	3	W-8	銅器	171 (銅器)		12.4	2.8	灰色 7.5YR5/1	灰石 石灰	良好	同様にナデ	同様にナデ	無	
443	178	3	W-7	銅器	42 (銅器)		100	2.7	明褐色 10YR5/1	-	良好	ナデ	ナデ	無	
444	153	4	W-7	銅器	154 (銅器)		17.8	不明	灰色 2.5YR5/1	-	良好	ナデ	ナデ	無	
445	178	4	W-9	銅器	15 (銅器)		不明	不明	灰色 5Y6/4	ナデ	良好	ナデ	ナデ	無	
446	179	3	E-7	銅器	102 (銅器)		8.85	不明	にがい黄褐色 10YR5/1	赤褐色 角閃石 石灰	良好	ナデ	ナデ	無	
447	179	4	E-7	銅器	102 (銅器)		6.4	不明	にがい黄褐色 10YR5/1	赤褐色 灰石 石灰	良好	ナデ	ナデ	無	
448	179	2	E-7	銅器	100 (銅器)		4.9×4.7	不明	赤褐色 2.5YR5/4	赤褐色 角閃石 石灰	良好	ナデ	ナデ	無	
449	179	5	E-7	銅器	102 (銅器)		不明	不明	灰褐色 2.5YR5/2	赤褐色 角閃石 石灰	良好	ナデ	ナデ	無	
450	181	3	W-8	銅器	7 (銅器)		12	4.7	灰褐色 2.5YR5/2	灰石 雲母	良好	同様にナデ	同様にナデ	無	
451	185	3	W-8	銅器	7 (銅器)		不明	不明	にがい黄褐色 2.5YR5/4	灰石	良好	ナデ	ナデ	無	
452	197	3	W-8	銅器	17 (銅器)		1.2	4.5	赤褐色 7.5YR5/4	赤褐色 角閃石 石灰	良好	ナデ	ナデ	無	
453	178	6	E-7-2	銅器	430 (銅器)		4×1.3	不明	灰色 7.5YR5/6	角閃石 灰石 雲母	良好	ナデ	ナデ	無	
454	189	1	W-8	銅器	17 (銅器)		不明	不明	灰色 7.5YR5/1	-	-	ナデ	ナデ	無	
455	199	2	W-8	銅器	17 (銅器)		不明	不明	灰色 7.5YR5/1	-	-	ナデ	ナデ	無	
456	191	5	W-8	銅器	17 (銅器)		不明	不明	灰色 7.5YR5/1	-	-	ナデ	ナデ	無	
457	205	1	E-1	銅器	17 (銅器)		不明	不明	にがい黄褐色 7.5YR5/4	赤褐色 灰石 石灰	良好	ナデ	ナデ	無	
458	209	2	E-1	銅器	17 (銅器)		不明	不明	赤褐色 7.5YR5/4	赤褐色 角閃石 石灰	良好	ナデ	ナデ	無	
459	220	2	E-1	銅器	17 (銅器)		不明	不明	灰色 7.5YR5/1	赤褐色 灰石 雲母	良好	ナデ	ナデ	無	
460	230	1	E-1	銅器	17 (銅器)		不明	不明	赤褐色 10YR5/3	赤褐色 灰石 石灰	良好	ナデ	ナデ	無	
461	231	1	E-1	銅器	17 (銅器)		不明	不明	赤褐色 5YR5/3	赤褐色 角閃石 石灰	良好	ナデ	ナデ	無	
462	230	3	E-1	銅器	17 (銅器)		不明	不明	灰色 7.5YR5/1	赤褐色 角閃石 石灰	良好	ナデ	ナデ	無	
463	228	1	E-1	銅器	17 (銅器)		不明	不明	灰色 10YR5/3	赤褐色 灰石 雲母	良好	ナデ	ナデ	無	
464	242	1	E-1	銅器	17 (銅器)		不明	不明	にがい黄褐色 10YR5/3	赤褐色 角閃石 石灰	良好	ナデ	ナデ	無	
465	239	1	E-1	銅器	17 (銅器)		不明	不明	赤褐色 10YR5/2	赤褐色 角閃石 石灰	良好	ナデ	ナデ	無	

第16表 遺物観察表その16

[illegible]

第17表 遺物鑑査表その17

番号	品名	規格	単位	口注	数量	色調	施工・取入物	焼成	外観状態	内装状態	足座	備考
497	足席外	W-1	張	脚座・底座 (底) 8	不明	にふいっ色 10Y07/3	角石 石灰 雲母	良好	タチハチ・ナナナナナ	タチハチ・ヘラナナ	無	有
498	足席外	W-1	張	底座 (不明)	不明	にふいっ色 10Y07/3	角石 石灰 石灰 雲母	良好	ナナ	ヨココナ・ヘラナナ	有	無
499	足席外	W-1	張	11脚・底座 (底) 5	7.6	2.5Y05/4	角石 石灰 石灰 雲母	良好	ランダムなハチ・ナナナ	ナナ・ハチ	有	無
500	足席外	W-1	張	11脚・底座 (底) 20	7.4	2.5Y05/4	角石 石灰 石灰 雲母	良好	タチハチ・ランダムなハチ	ナナ	有	有
501	足席外	W-1	張	11脚・脚座 (底) 20	不明	にふいっ色 10Y07/3	角石 石灰 雲母	良好	ナナ・ヨココナ	ナナ	有	有
502	足席外	W-1	張	脚片	不明	灰色 N5	-	-	ナナ・タチハチ	-	-	-
503	足席外	W-1	張	石込丁	不明	灰色 N5	-	-	-	-	-	-
504	足席外	W-1	張	石込丁	不明	灰色 N5	-	-	-	-	-	-
505	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
506	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
507	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
508	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
509	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
510	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
511	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
512	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
513	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
514	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
515	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
516	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
517	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
518	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
519	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
520	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
521	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
522	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
523	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
524	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
525	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
526	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-
527	足席外	W-1	張	ガラスE	不明	透明色 7.5Y05/1	-	-	-	-	-	-

第10表 遺物観察表その18

番号	種類	位置	遺物名	遺物番号	部位	口徑	形状	色調	出土・埋入物	状況	外周図	内周図	断面	備考
528	253	1	遺物外		横文土器	114mm	不明	黄褐色 7.5YR5/1	赤褐色 5YR 5/2	良好	ナナハタ後ヨコナデ	ナナハタ後ヨコナデ	有	
529	223	2	遺物外	329	ミナチヤ （コップ）	7.9	4.6	灰白色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	陶製・ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ	有	
530	263	3	遺物外		横文土器	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
531	263	4	遺物外		横文土器	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
532	253	1	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
533	253	2	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
534	253	3	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
535	263	1	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
536	263	2	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
537	263	3	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
538	266	4	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
539	266	5	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
540	266	6	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
541	266	7	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
542	266	8	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
543	266	9	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
544	257	2	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
545	257	3	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
546	257	4	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
547	216	1	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
548	219	1	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
549	226	1	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
550	212	1	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
551	256	2	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
552	256	3	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
553	267	1	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
554	267	2	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
555	267	3	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
556	267	4	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
557	267	5	遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	
558	243		遺物外		横	不明	不明	黄褐色 10YR 5/2	赤褐色 5YR 5/2	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	

19のそと、他は各年別

番号	地区	選考方法	職種	職位	口徑	資格	色紙	職士・職人職	産地	外国語	内閣府	備考
559	W-7	選考外	要	定部	(400) 9	不明	にふい色紙色 7.5YR7/2	角四行 長行	良	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地米
560	西選	周選	把手	職片	不明	不明	緑色紙 2.5YR7/2	長石	良	無職		・ 御用物に付いたのどう
561	西選	周選	職(短足部)	11脚・短部	(10)	不明	キリ・フクロ色 2.5Y7R7	長行	良好	チナハチ・産地・チナ	チナ	
562	西選	周選	職(土選部)	11脚・短部	(16)	3	5YR6/6	長行	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナ	・ 内村と丹南
563	西選	周選	若手	不明	不明	不明	暗褐色 10YR7/3	-	-	-	-	・ 羽根も石目にしたのか、顔に産地が見られる
564	西選	選考外	チナスミ	11脚・短部	短4mm 長4mm	不明	暗褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
565	西選	選考外	7脚	11脚・短部	短4.5 長1.7	不明	赤褐色 5YR7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
566	西選	選考外	11脚	口徑部	(30)	不明	赤褐色 5YR7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
567	西選	選考外	11脚	口徑部	(22.5)	不明	にふい色紙色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
568	西選	選考外	11脚	口徑部	(19.8)	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	-	ノイで削って調整	ノイで削って調整	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
569	西選	選考外	11脚	口徑部	不明	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	-	ノイで削って調整	ノイで削って調整	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
570	西選	選考外	小短部	口徑部	(12.8)	11.9	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
571	西選	選考外	11脚	口徑部	(16.2)	11.3	にふい色紙色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
572	西選	選考外	11脚	口徑部	(14.4)	6	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
573	西選	選考外	短	口徑部	12.4	9.1	にふい色紙色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
574	西選	選考外	要	職片	不明	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
575	西選	選考外	11脚	口徑部	短4.4 長1.1	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
576	西選	選考外	11脚	口徑部	(12.8)	3.7	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
577	西選	選考外	要	口徑部	(26)	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
578	西選	選考外	要	口徑部	(15.6)	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
579	西選	選考外	要	短部	(18)	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
580	西選	選考外	要	口徑部	(22.6)	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
581	西選	選考外	要	口徑部	(18)	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
582	西選	選考外	要	口徑部	(18.1)	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
583	西選	選考外	要	口徑部	18.5	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
584	西選	選考外	要	口徑部	不明	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
585	西選	選考外	要	口徑部	不明	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
586	西選	選考外	要	口徑部	不明	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
587	西選	選考外	要	口徑部	不明	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
588	西選	選考外	要	口徑部	不明	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
589	西選	選考外	要	口徑部	不明	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる
590	西選	選考外	要	口徑部	不明	不明	赤褐色 10Y7/3	赤褐色 角四行 長行 石目	良好	チナハチ・ヘラカズリ	チナハチ・ヘラカズリ	・ 産地も産地、産地に産地のみあり、顔に産地が見られる

第20表 遺物鑑査表その20

番号	題名	地区	通称名	通称番号	形状	紋状	口徑	材質	色調	出土・埋入時	構成	外周位置	内周位置	周長	備考
590	251	一浜	通称外		高杯	周縁・底面	不明	不明	灰色褐色 10YR5/3	赤褐色 10YR5/3	良好	ナデ・ヘナナズリ・ナデ	底コナデ・ヘナナズリ・ナデ	有	・外縁を意匠に打ち込んでいる
591	261	三浜	通称外		ミナヅチ (271)	側面	不明	不明	灰青褐色 10YR5/2	灰青褐色 10YR5/2	良好	ナデ	ナデ・ヨココハナ	有	・底面より確認
592	246	三浜	通称外		竹付鉢	底面・側面	(不明)	不明	灰青褐色 10YR5/4	灰青褐色 10YR5/4	良好	ナデ	ナデ	有	・意匠を作りこめている
593	246	三浜	通称外		鉢	口縁・底面	9.3	7	にがい青褐色 10Y4/7/3	にがい青褐色 10Y4/7/3	良好	ナデ・底・底面	ナデ	有	・ナデ口はか?
594	243	一浜	通称外		鉢	口縁	不明	不明	褐色色 10YR8/1	赤褐色 10YR8/1	良好	ハナメ・ヘナナズリ	ナデ・ヨココハナ	有	
595	248	一浜	通称外		碗	口縁・底面	13.2	9.7	赤褐色 10YR5/3	赤褐色 10YR5/3	良好	底コナデ・ナナメハナナズリ	ナデ	有	・底面に施文の浮きがあり
596	199	三浜	通称外		碗	底面	(不明)	不明	にがい青褐色 10Y4/7/3	にがい青褐色 10Y4/7/3	良好	同軸ナデ	ヘナナズリ	無	
597	262	二浜	通称外		肥子	側面	不明	不明	にがい青褐色 10Y4/7/2	赤褐色 10Y4/7/2	良好	ナデ	ナデ	無	
598	262	三浜	通称外		肥子	側面	不明	不明	にがい青褐色 10Y4/7/2	赤褐色 10Y4/7/2	良好	ナデ	ナデ	無	・外縁と内縁が明確である
599	261	二浜	通称外		鉢?	口縁	不明	不明	赤褐色 10YR5/3	赤褐色 10YR5/3	良好	ナデ	ナデ	有	
600	238	二浜	通称外		小皿型 ミナヅチ (26)	口縁・口底	(他)	不明	にがい青褐色 7.5YR7/4	赤褐色 7.5YR7/4	良好	ナデ	ナデ	有	
601	262	三浜	通称外		底面・側面	底面・側面	(不明)	不明	にがい青褐色 10YR5/3	赤褐色 10YR5/3	良好	ナデ	ナデ	有	
602	271	一浜	通称外		碗	側面	幅は5mm 高さ11.7mm	不明	にがい青褐色 5YR6/4	赤褐色 5YR6/4	良好	ナデ	ナデ	無	
603	262	二浜	通称外		口縁・口底	口縁・口底	(30)	不明	にがい青褐色 10YR5/3	赤褐色 10YR5/3	良好	ナデ	ナデ	無	・上より赤く染み
604	232	二浜	通称外		要	口縁・口底	(18.4)	不明	青褐色 2.5YR5/9	赤褐色 2.5YR5/9	良好	底コナデ・ナデ	底コナデ・ヨココハナ	無	・外縁の上部
605	264	二浜	通称外		碗	側面	不明	不明	赤褐色 10YR5/4	赤褐色 10YR5/4	良好	ナデ	ナデ	有	・半分割線が付け、横行が定数に あり
606	264	一浜	通称外		石鉢	肥子	不明	不明	灰色 N5/	灰色 N5/	良好	ナデ	ナデ	無	・上縁で取り出した縁が浅く、肥子 ・上縁・口縁部に窪み ・底も浅く、若干土着で定数に
607	223	一浜	通称外		丸形 ミナヅチ (26)	丸形	3.8×4.2 高さ2.2mm	5	不明	褐色 10YR5/2	良好	ナデ	ナデ	有	・底に若干のナデ・ナメハナ ・底に若干のナデ・ナメハナ
608	273	二浜	通称外		口縁・底面	口縁・底面	幅は5mm 高さ12.2mm	不明	赤褐色 10YR5/3	赤褐色 10YR5/3	良好	ナデ	ナデ	有	・底に若干のナデ・ナメハナ ・底に若干のナデ・ナメハナ
609	239	一浜	人渚		石付丁	側面	不明	不明	赤褐色 2.5YR6/1	赤褐色 2.5YR6/1	良好	ナデ	ナデ	有	・底に若干のナデ・ナメハナ ・底に若干のナデ・ナメハナ
610	239	二浜	人渚		石付丁	側面	不明	不明	赤褐色 2.5YR6/1	赤褐色 2.5YR6/1	良好	ナデ	ナデ	有	・底に若干のナデ・ナメハナ ・底に若干のナデ・ナメハナ
611	255	一浜	通称外		小皿型	口縁・口底	不明	不明	にがい青褐色 10Y4/7/3	赤褐色 10Y4/7/3	良好	ナデ	ナデ	有	
612	255	二浜	通称外		口縁・口底	口縁・口底	不明	不明	にがい青褐色 7.5YR5/3	赤褐色 7.5YR5/3	良好	ナデ	ナデ	有	

圖 版



1 調査区全景



2 調査風景



1 遺構検出作業風景



2 調査区全景



3 1号住居跡（北側から）



1 1号住居跡遺物出土状況



2 1号住居跡完掘状況



3 2号住居跡遺物出土状況



1 3号住居跡



2 2号住居跡と4号住居跡



3 5号住居跡遺物出土状況



1 5号住居跡遺物出土状況



2 6号住居跡遺物出土状況



3 6号住居跡遺物出土状況



1 11号住居跡



2 11号住居跡遺物出土状況



3 12号住居跡



1 12号住居跡（東側から）



2 1号溝



1 2号沟



2 2号沟



3 2号沟



1 2号溝埋没後土器溜め



2 2号溝埋没後土器溜め



3 2号溝埋没後土器溜め



1 3号溝



2 3号溝



3 4号溝



1 4号溝 (西側から)



2 4号溝 (東側から)



3 4号溝遺物出土状況



1 大溝全景



2 大溝（西側部分）



3 大溝（東側部分）



1 大溝底面



2 周溝全景



3 周溝調査風景



1 1号住居跡出土遺物 (1)



5 1号住居跡出土遺物 (11)



2 1号住居跡出土遺物 (4)



6 1号住居跡出土遺物 (12)



3 1号住居跡出土遺物 (6)



7 1号住居跡出土遺物 (13)



4 1号住居跡出土遺物 (8)



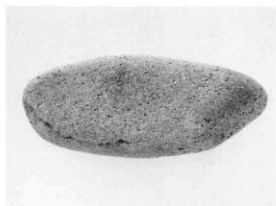
8 1号住居跡出土遺物 (14)



1 1号住居跡出土遺物 (15)



5 2号住居跡出土遺物 (19)



2 1号住居跡出土遺物 (16)



6 2号住居跡出土遺物 (24)



3 1号住居跡出土遺物 (17)



7 2号住居跡出土遺物 (27)



4 1号住居跡出土遺物 (18)



8 2号住居跡出土遺物 (27)



1 2号住居跡出土遺物 (27)



5 3号住居跡出土遺物 (32)



2 2号住居跡出土遺物 (27)



6 5号住居跡出土遺物 (36)



3 3号住居跡出土遺物 (28)



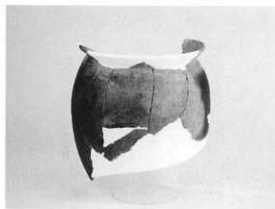
7 5号住居跡出土遺物 (37)



4 3号住居跡出土遺物 (29)



8 5号住居跡出土遺物 (39)



1 5号住居跡出土遺物 (41)



5 5号住居跡出土遺物 (48)



2 5号住居跡出土遺物 (42)



6 5号住居跡出土遺物 (48)



3 5号住居跡出土遺物 (45)



7 5号住居跡出土遺物 (48)



4 5号住居跡出土遺物 (46)



8 5号住居跡出土遺物 (49)



1 5号住居跡出土遺物 (50)



5 5号住居跡出土遺物 (53)



2 5号住居跡出土遺物 (51)



6 5号住居跡出土遺物 (54)



3 5号住居跡出土遺物 (51)



7 5号住居跡出土遺物 (55)



4 5号住居跡出土遺物 (52)



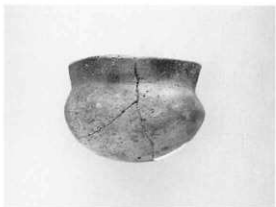
8 5号住居跡出土遺物 (55)



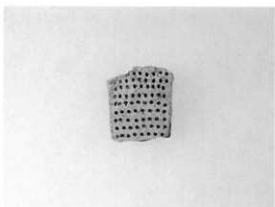
1 6号住居跡出土遺物 (56)



5 9号住居跡出土遺物 (69)



2 6号住居跡出土遺物 (57)



6 9号住居跡出土遺物 (70)



3 6号住居跡出土遺物 (62)



7 9号住居跡出土遺物 (71)



4 9号住居跡出土遺物 (68)



8 11号住居跡出土遺物 (73)



1 11号住居跡出土遺物 (76)



5 11号住居跡出土遺物 (79)



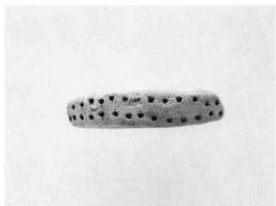
2 11号住居跡出土遺物 (77)



6 12号住居跡出土遺物 (84)



3 11号住居跡出土遺物 (78)



7 12号住居跡出土遺物 (84)



4 11号住居跡出土遺物 (78)



8 12号住居跡出土遺物 (88)



1 1号溝出土遺物 (89)



5 2号溝出土遺物 (96)



2 1号溝出土遺物 (90)



6 2号溝出土遺物 (100)



3 1号溝出土遺物 (92)



7 2号溝出土遺物 (101)



4 2号溝出土遺物 (93)



8 2号溝出土遺物 (106)



1 2号溝出土遺物 (107)



5 2号溝出土遺物 (112)



2 2号溝出土遺物 (108)



6 2号溝出土遺物 (115)



3 2号溝出土遺物 (110)



7 2号溝出土遺物 (118)



4 2号溝出土遺物 (111)



8 2号溝出土遺物 (122)



1 2号溝出土遺物 (123)



5 2号溝埋没後遺物 (134)



2 2号溝出土遺物 (124)



6 2号溝埋没後遺物 (137)



3 2号溝出土遺物 (125)



7 2号溝埋没後遺物 (139)



4 2号溝出土遺物 (127)



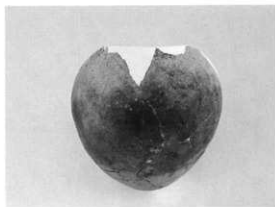
8 2号溝埋没後遺物 (140)



1 3号溝出土遺物 (146)



5 3号溝出土遺物 (155)



2 3号溝出土遺物 (147)



6 3号溝出土遺物 (160)



3 3号溝出土遺物 (149)



7 3号溝出土遺物 (161)



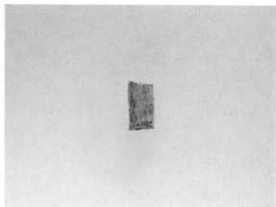
4 3号溝出土遺物 (153)



8 3号溝出土遺物 (162)



1 3号溝出土遺物 (164)



2 3号溝出土遺物 (165)



3 3号溝出土遺物 (166)



4 4号溝出土遺物 (167)



5 4号溝出土遺物 (168)



6 4号溝出土遺物 (169)



7 4号溝出土遺物 (170)



8 4号溝出土遺物 (171)



1 4号溝出土遺物 (172)



5 4号溝出土遺物 (182)



2 4号溝出土遺物 (177)



6 4号溝出土遺物 (183)



3 4号溝出土遺物 (179)



7 4号溝出土遺物 (187)



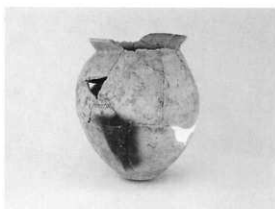
4 4号溝出土遺物 (181)



8 4号溝出土遺物 (195)



1 4号溝出土遺物 (198)



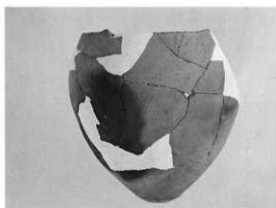
5 4号溝出土遺物 (202)



2 4号溝出土遺物 (199)



6 4号溝出土遺物 (203)



3 4号溝出土遺物 (200)



7 4号溝出土遺物 (204)



4 4号溝出土遺物 (201)



8 4号溝出土遺物 (206)



1 4号溝出土遺物 (207)



5 4号溝出土遺物 (213)



2 4号溝出土遺物 (208)



6 4号溝出土遺物 (217)



3 4号溝出土遺物 (210)



7 4号溝出土遺物 (218)



4 4号溝出土遺物 (212)



8 4号溝出土遺物 (219)



1 4号溝出土遺物 (220)



5 4号溝出土遺物 (226)



2 4号溝出土遺物 (221)



6 4号溝出土遺物 (230)



3 4号溝出土遺物 (224)



7 4号溝出土遺物 (231)



4 4号溝出土遺物 (225)



8 4号溝出土遺物 (232)



1 4号溝出土遺物 (237)



5 4号溝出土遺物 (245)



2 4号溝出土遺物 (239)



6 4号溝出土遺物 (246)



3 4号溝出土遺物 (240)



7 4号溝出土遺物 (248)



4 4号溝出土遺物 (241)



8 4号溝出土遺物 (249)



1 4号溝出土遺物 (252・253)



5 4号溝出土遺物 (268)



2 4号溝出土遺物 (259)



6 4号溝出土遺物 (269)



3 4号溝出土遺物 (266)



7 4号溝出土遺物 (270)



4 4号溝出土遺物 (267)



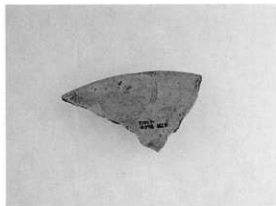
8 4号溝出土遺物 (270)



1 大溝出土遺物 (272)



5 大溝出土遺物 (283)



2 大溝出土遺物 (273)



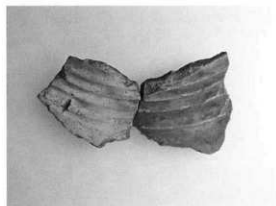
6 大溝出土遺物 (283)



3 大溝出土遺物 (274)



7 大溝出土遺物 (277)



4 大溝出土遺物 (275)



8 大溝出土遺物 (285)



1 大溝出土遺物 (286)



5 大溝出土遺物 (291)



2 大溝出土遺物 (287)



6 大溝出土遺物 (292)



3 大溝出土遺物 (289)



7 大溝出土遺物 (293)



4 大溝出土遺物 (290)



8 大溝出土遺物 (294)



1 周溝出土遺物 (299)



2 周溝出土遺物 (299)



3 周溝出土遺物 (300)



4 周溝出土遺物 (301)



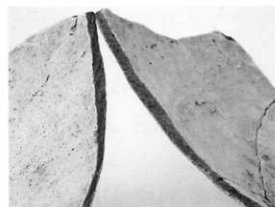
5 周溝出土遺物 (309)



6 周溝出土遺物 (309)



7 周溝出土遺物 (309)



8 周溝出土遺物 (309)



1 周溝出土遺物 (305)



5 周溝出土遺物 (329)



2 周溝出土遺物 (315)



6 周溝出土遺物 (331)



3 周溝出土遺物 (320)



7 周溝出土遺物 (333)



4 周溝出土遺物 (326)



8 周溝出土遺物 (336)



1 周溝出土遺物 (341)



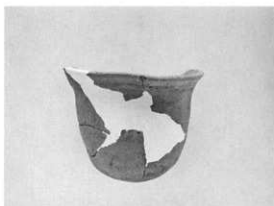
5 周溝出土遺物 (366)



2 周溝出土遺物 (352)



6 周溝出土遺物 (382ほか)



3 周溝出土遺物 (354)



7 周溝出土遺物 (420)



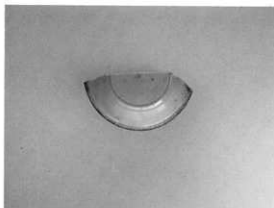
4 周溝出土遺物 (360)



8 周溝出土遺物 (421)



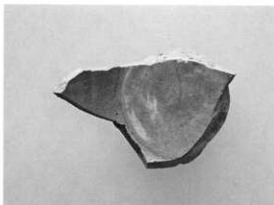
1 周溝出土遺物 (426)



5 周溝出土遺物 (443)



2 周溝出土遺物 (430)



6 周溝出土遺物 (445)



3 周溝出土遺物 (438)



7 周溝出土遺物 (446~448)



4 周溝出土遺物 (441)



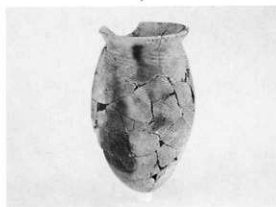
8 周溝出土遺物 (454)



1 遺構に伴わない遺物 (457)



5 遺構に伴わない遺物 (519)



2 遺構に伴わない遺物 (463)



6 遺構に伴わない遺物 (526)



3 遺構に伴わない遺物 (487)



7 遺構に伴わない遺物 (527)



4 遺構に伴わない遺物 (496)



8 遺構に伴わない遺物 (535)



1 道標に伴わない遺物 (540)



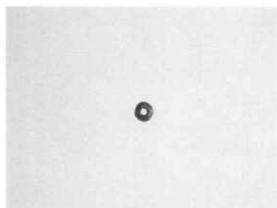
5 道標に伴わない遺物 (566)



2 道標に伴わない遺物 (543)



6 道標に伴わない遺物 (568)



3 道標に伴わない遺物 (564)



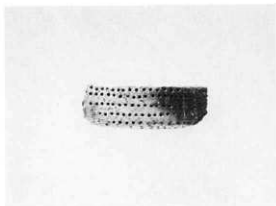
7 道標に伴わない遺物 (569)



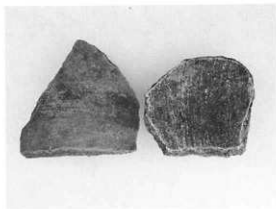
4 道標に伴わない遺物 (565)



8 道標に伴わない遺物 (578)



1 遺構に伴わない遺物 (593)



5 遺構に伴わない遺物 (図なし)



2 遺構に伴わない遺物 (606)



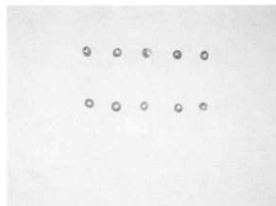
6 遺構に伴わない遺物 (図なし)



3 遺構に伴わない遺物 (607)



7 遺構に伴わない遺物 (図なし)



4 遺構に伴わない遺物 (608)



8 遺構に伴わない遺物 (図なし)

報告書抄録

ふりがな	かとうだひがしばるいせき							
書名	方保田東原遺跡11							
副書名	山鹿市文化財調査報告書							
巻数	第8集							
シリーズ名								
編著者名	中村幸史郎							
編集機関	山鹿市教育委員会							
所在地	〒861-0501 熊本県山鹿市山鹿1026-2							
発行年月日	平成21年2月28日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かとうだひがしばるいせき 方保田東原遺跡	くまもとけん 熊本県 やまがし 山鹿市 かとうだ 方保田 186-1	43208	179	32° 59' 45"	130° 42' 58"	平成2年 12月10日 } 4月4日	1,062㎡	サンチェ リー工業 増築工事
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
	包蔵地	弥生時代、 古墳時代、中世		溝状遺構、 竪穴住居跡		弥生式土器、土師器、 須恵器、黒色土器、 石器		赤色顔料 精製関連 遺物出土

山鹿市文化財調査報告書第8集

方保田東原遺跡11

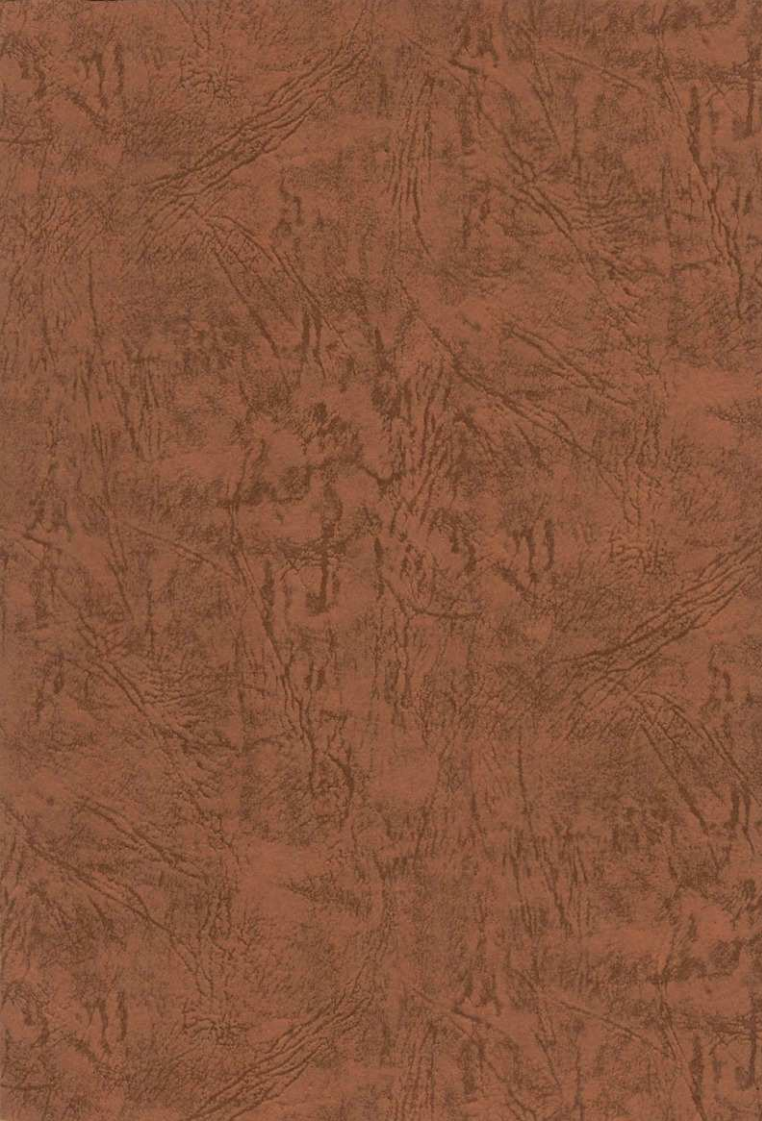
平成21年2月28日

編集 山鹿市教育委員会

発行 山鹿市教育委員会

印刷 シモダ印刷株式会社

熊本市上水前寺2丁目16-16



正誤表

『方保田東原遺跡(11)』 山鹿市文化財調査報告書 第8集 熊本県山鹿市教育委員会2009年

本文中

頁	左右	行	図番	誤	正
31	右	7		154から158	155から158
40	左	3		215は小型の甕で、	216は小型の甕で、
40	左	4		216は土師器の	217は土師器の
56	左	11		405、415は	406、415は
58	左	15		肩部までの破片であるが	胴部までの破片であるが
58	左	25		468から471は	468から472は
58	右	34		482と接合面は見られないが	481と接合面は見られないが
66	右	3		542は石包丁の破片で	543は石包丁の破片で
67			第66図	№564のスケールの数値が5	№564のスケールの数値を2へ
68	右	3		542は石包丁の破片で	543は石包丁の破片で
68	右	21		593は底部のみで	592は底部のみで
70	右	4		608から645	608から655

※方保田東原遺跡(13) のP88 74図543に当調査区出土の犬型土製品を追加掲載

土器観察表

頁	番号	誤	正
75	34,46,47	ジョッキ形	ジョッキ形
75	061	番号61	番号64
76	064	番号64	番号61
76	083	ジョッキ形	ジョッキ形
78	125	甕棺	甕
78	126	甕棺	甕
78	136	ジョッキ形	ジョッキ形
79	156	口径(底)20.4	口径(底)17.6
82	257	器種 ジョッキ形 部位 破片	器種 ジョッキ形 部位 把手
83	285	土鉢	スプーン形
83	287	？鉢車	紡鉢車
84	314	突帯付鉢	台付鉢
84	331	擦り石	磨石
87	425	甕	甕
90	519	口径(12.3) 器高 8.2	口径(6.4) 器高 7.3
90	521	口径(15.9)	口径(14.0)
90	527	口径 6.7	口径 不明
91	532	甕	甕
91	550	器高 不明	器高 8.2
92	559	甕	壺
92	561	甕	壺
92	565	？鉢車	紡鉢車
93	608	番号 608	番号 608～655

図版

頁	番号	誤	正
128	PL32 5	(283)	(289)
129	PL33 3	(289)	(288)
131	PL35 1	(305)	(306)
136	PL40 1	(593)	(598)

文化財調査報告の電子書籍の末尾に挿入する奥付

この電子書籍は、『山鹿市文化財調査報告第8集 方保田東原遺跡 11』を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

なお、平成 17 年(2005)に山鹿市、鹿北町、菊鹿町、鹿本町、鹿央町が合併し山鹿市となりました。調査記録及び出土遺物は、山鹿市教育委員会が保管しています。

書名：山鹿市文化財調査報告第8集 方保田東原遺跡 11

発行：山鹿市教育委員会

〒861-0592 熊本県山鹿市山鹿 987 番 3

電話：0968-43-1651

URL：<https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2025 年6月 19 日